尾張名所圖會 前編 六

常陽
津知村
秋永興七

尾張名所圖會卷之六

目録 知多郡

知多郡解
六月米
延命寺
善導寺
千海老
生路井
塩竈石
廻り地頭の図
唐松井
入水天神社
武雄天神社
祇園寺
仙壽散
大府の三本松
入海天神社
澤瀉井
生路塩竈古覽
坂部城址
阿久比神社
亀崎
常樂寺
豊石天神社
文章嶺
境川橋
石ケ瀬川
八幡社
乾坤院
生路塩
洞雲院
笠前比天神社
神崎天神社
成石天神社
壬生天神社
有松絞
曹源寺
緒川里
緒川城址
伊久智天神社
三盃砂糖
北原天神社
平泉寺
業乗天神社
無量壽寺
富貴城址

阿奈志天神社　海鼠腸　章魚　醫王寺
但馬　幡頭崎　羽豆神社　同神幸の図
真珠　棘鬣魚　羽豆崎城址　篠嶋
妙見齋　後村上帝篠嶋小漂着し給ふ図　日間賀嶋
比摩賀天神社　安樂寺　同本尊に魚を供養とる図
野島　松嶋　平嶌　鴟嶋
木嶋　汁久戸嶋　胤嶌　大磯嶋
小磯嶋　鷲渡嶋　嶌崎嶋　内地嶋
惠比壽嶋　奈加天嶋　屏風嶋　圓藏寺
須佐の入江　鰭魚　須男天神社　正衆寺
岩屋寺　久須天神社　伊勢山　内海
貝品の図　蜃氣樓　乃野天神社　西岸寺
寶樹院　鰯網の図　持寶院　同花見の図

秋葉山　金王丸足跡石　入見神社　焼そう石の古事
性海寺　富具崎　富具天神社　大御堂寺
義朝最後の図　頼朝公大御堂寺に供養しる図　長田宅址
法山寺　乱橋　報恩寺
金王丸轡洗池　浴室古蹟　廣石天神社　野間天神社
大谷洞　長田蟹　常滑焼　床嶋
總心寺　高讃寺　正住院
常石天神社　天澤院　八幡社　常滑城址
美御天神社　鍬山天神社　鬼ケ崎　龍雲寺
小倉海苔　小倉天神社　鑄物司　櫟屋天神社
齊年寺　東龍寺　蓮臺寺　海音寺
牟山戸權現社　牡蠣　光明寺　内宮社
塩湯治　日永崎　保命酒　一口香
日永神社　慈雲寺

古見の一本松　皇后井　法海寺　万歳
正法院　景清宅址　八幡社　安樂院
惣五郎塚　蟲供養　横須賀　衣の浦
琴彈松　長益塚　細井平洲の傳　如来山
加家觀音寺　天尾天神社　觀福寺　業平塚
良忍上人の傳　荒太天神社　舩津社　名和干温飽
大高村　大高菜　大高城址　鷲津砦址
丸根砦址　豐臣秀次公の傳　火上姉子神社　長壽寺

知多郡

當郡ハ尚ホ海中ニ在リ大ナル島ナリ　和名抄延喜式ニ智多ヶ崎日本後紀ニモ延暦廿四年七月丙子尾張國智多郡地十三町賜ヒ中納言従三位藤原朝臣内麿ト見エタリ万葉集以下の古書に知多ノ浦ノ例モ多ク見エテ今モ智多ト交ヘ用ヒテ一定セズ　南郡尾ノ郡ニ分ル初ハ尾張ト名付ケタリ流ハ既ニ初卷國号沿革の条下ニ詳ニ西南ハ伊勢志摩東ハ三河の海ニ接ス郡中凡ソ一百四十餘村東ハ東浦西ハ西浦ニ分ル産物多ク山海秀美ニシテ風景他郡ニ勝ル就中南の方大井師崎ヨリ小野浦柿平ニ至ル海ハ新巖疊々トシテ鬱浪怒濤常ニ雪ヲ噛ヘ又藻浦日名賀浦ノ二条の小浦森崎の上ニ浮ベル諸眼前ニ並ビテ比類ナキ眺望ヲ恣ニシテ文人墨客ハ此ノ浦ニ遊歴セラルルモノ四時絶ヘザル万葉ノ年魚市方塩干家良志知多乃浦ニ朝拷舟毛奥ニ依所見

文章嶺
天満宮
一ロハ五電
玉重坂
蛍夫池
アヤメ川
アヤメ群生
蛍橋

卍瑞
一代文章主手
年威徳神廟成
聊致祭梅黙故
家春
成利
祇園寺

夫本
わすちうと始てあれなのしとちうの浦へ小治ちうち月や　中務の親王
同
ひちうしうしうちうちうすちうち知多のはの軍に行帆くまて　業人を参る金達二郎
家集
知多の浦小ふうけ志て元後せハ青海ふ中月さしあぬ　山田左衛久
わうさう春さうてしちうの浦乃沖は高山高帆ひく　孜長
ちうのうれ多波こうこ沼もちやいとうの海士もきうへうこ　服
天きしふ高のうちうの浦れ海士乙女と玉藻かる谷　昌

大雄山祇園寺

有松村ふうり曹洞宗の海泉ち末元祐年中の創建ゆて則海泉室永三年猿堂寺と改号し又宝暦五年小今れち号に改め南所小迁ち其後苔巖和尚此所に茅庵と結ひ小微伝し疫癘の兇とちに詩あり[illegible]祇園ちと建立し年と結く後ゆに移村せし今も南ちり疫癘のまちとあるを又彼養室の詩れ苔とうて疫癘の[illegible]とまちに[illegible]あるとう

○近年境内に南都某師ち此佛を石と[illegible]碑小彫つ[illegible]く境小建て[illegible]

本尊　釈迦の木像

文章嶺

祇園ち此後の山と号天満宮を[illegible]の初寺伝卍瑞の開基の[illegible]

亟き文政七年その上に今れ神廟と基立しあ[illegible]ハッ祢選ての[illegible]廟と接へ以前に百信の荘園とハうりぬこハ尚小有伝の掌貫大の資材と考附せ[illegible]夫より[illegible]文章嶺と称を山の中腹小彫ありいろはの歌と号[illegible]文瑞伝の内に冷泉の春は山自水の山海と[illegible]石に彫[illegible]建ち今左記して[illegible]世に[illegible]

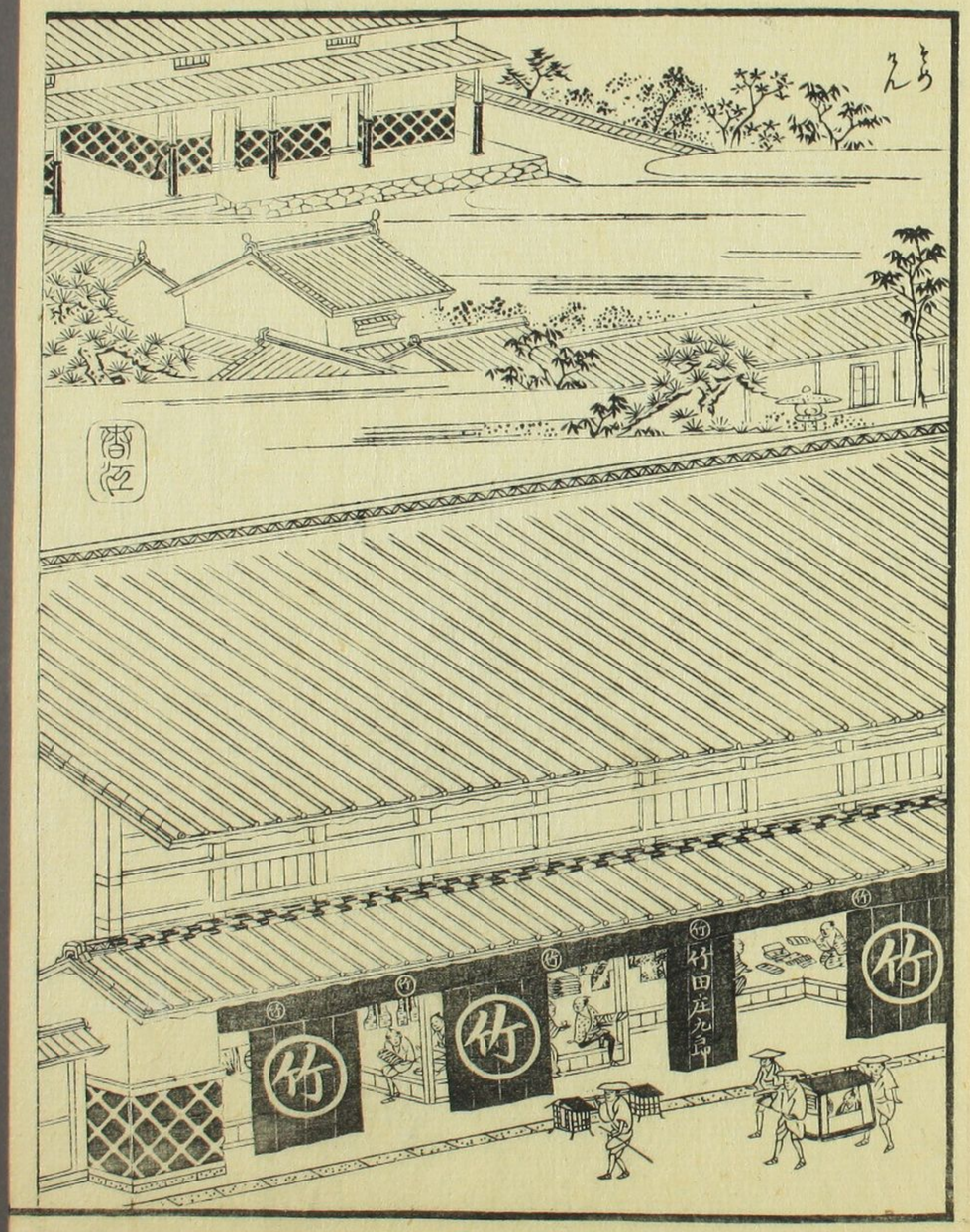
例祭

二月廿五日又八月十六日海りあ数多ひう

天満神の古後れ山の先わ[illegible]に[illegible]宮居[illegible]し　等美

有松絞

有松村小て製[illegible]て数町れる[illegible]の形と[illegible]と[illegible]居者に指布の[illegible]ふしのこ[illegible]の[illegible]の[illegible]の



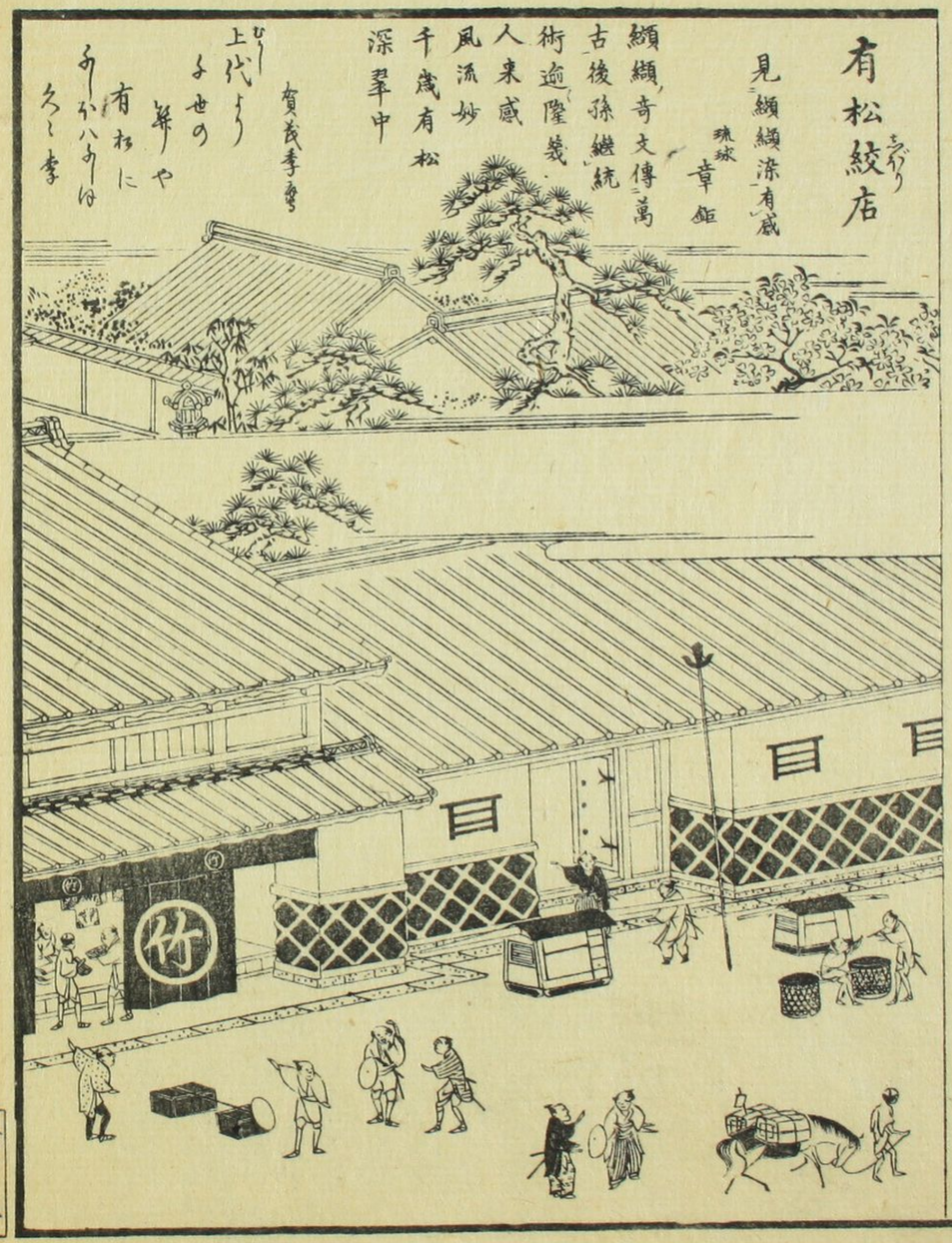
有松絞店

見纈纈染有感　琉球　章鉅

纈纈奇文傳萬古後孫繼統術逾隆幾人來感風流妙千歲有松深翠中

賀茂季鷹

上代より
よ世の
年や
有松に
ちかハよりは
久し李



國出迎献采轡　公喜復其宅地自是　嗣公始入
國迎拜献轡以為常子孫相承已二百年其法逾精
其徒逾多街衢相連屋舍相接戸〻懸縞絹綿布繁
爛鮮麗恰如花柳競媚枫葉駢列行旅止歩買者不
絶蘭賈蓄客過者問庄九郎家覧賞験嘆或有買数
十百匹去者今庄九郎頗好風雅乞諸名士詩詞以
賁其業頃需余一言因記以與　本國司農　神野世猷文徽甫
巳未之夏

[illegible]
有松の里　烏丸光栄卿

[illegible]
冷泉為章

[illegible]
有松や家の中うるふちのうれ　西月

[illegible]
多知奈羅夫波那能二志幾登以敝吾登迩加計和多之太留玖々里曽来迦奈
癸巳仲夏　離屋鈴木雁　渡〻

六月米

[illegible]
[illegible]

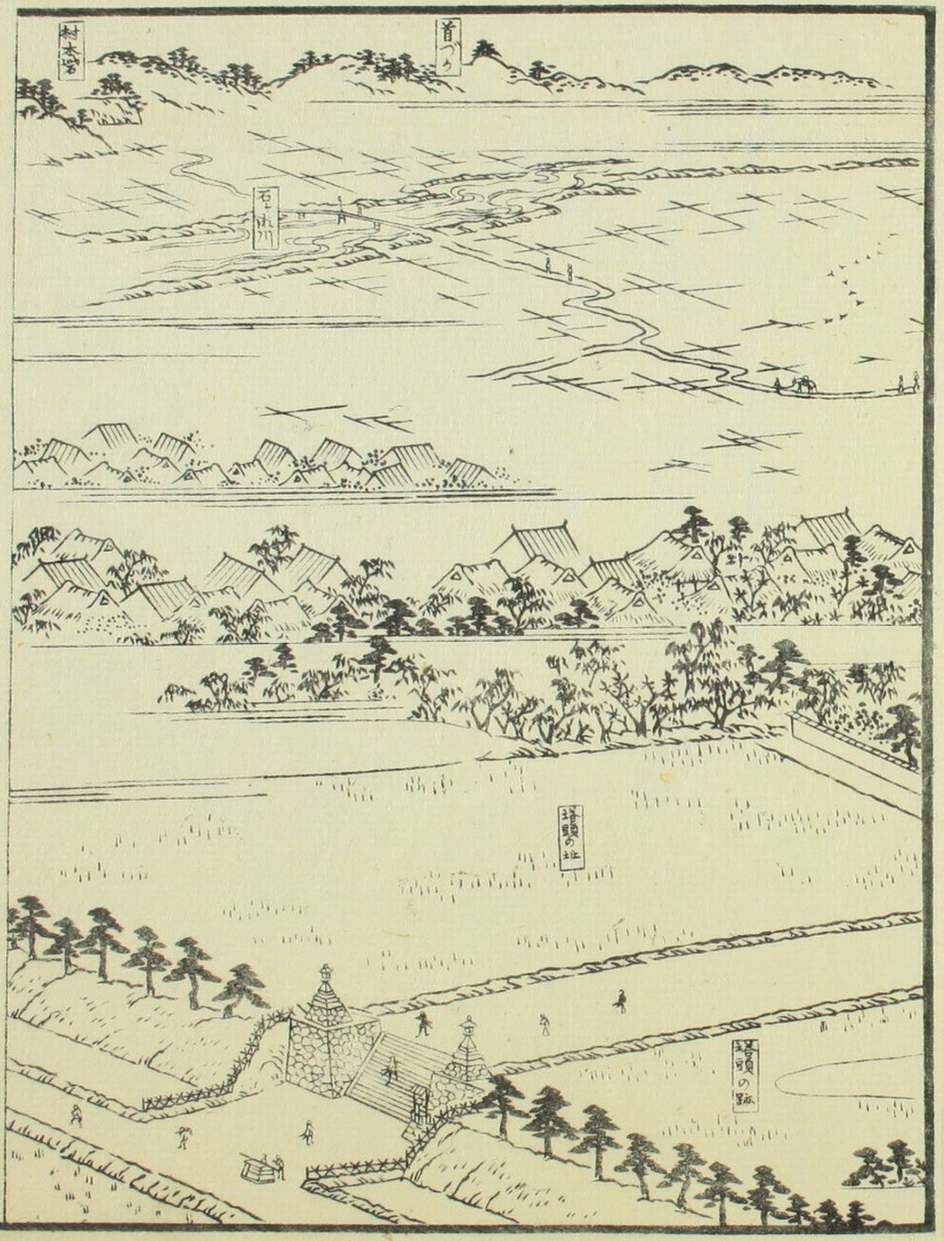
三田無忍家傳仙壽散

[illegible]

境川橋　尾三の二州[illegible]

[illegible]

清涼山曹源寺　大須村小字曹源寺三世八幡村西明寺末派新義真言開山[illegible]
[illegible]創建の年月詳[illegible]文和三年四月廿三日[illegible]田神[illegible]
泛述に大須[illegible]　表示天澤寺殿四品　前礼部侍郎秀峯
[illegible]　本尊　秋迎の木像　今川義元の位牌



延命寺
大府の三本松
石ヶ瀬川

哲公大居士神儀 永禄三庚申歳五月十九日戦死四拾三歳〻に永禄三年庚申五月十九日駿州府中城主今川治部大輔源義元與尾州清須之城主織田上総介平信長合戦義元不利而終於桶狭間戦死當山第二祖玄喜引導焼香於此畢〻〻〻又松井次郎八宗信の位牌及び鞍泥障ホと寺伝す尚るに西八所斗りに今川義元の堀わり石塚と通称を門前に好後伝〻〻〻大うる池あり老松数十株水面に傾て頗る幽景と為り〻〻〻〻門前まで湖水打寄り流今も松松高海の名のこるなり

塔頭 東光菴

寶龍山延命寺

大府村にあり 天台宗野田密龍院末盛祐行照の創建なりて享禄四年寺領法印の中興なり

客殿本尊

秋葉の本像 **鎮守** 白山社 **山門** 近年の再興にして画棟彫梁の善美を尽せり ふるのうく家に法人の見と称するなり

本堂聖額

後奈良帝の宸筆にして宝龍山と称して裏に天文八年己亥三月吉日能家坊圓運作と記せり **本堂鐘** 口文禄十四年八月吉祥日と誌あり〻〻〻天正十一年癸未九月七日延命寺領境川五九貫〻〻〻家康の寄文あり 此外小〻〻古僧文数多ありしも〻〻と畧す **拝殿寺境内八地蔵** 石磴の上ホ眺下ホ境川の下流を望み又老樹深緑の中ホ三河刈谷の城郭を遠望するまで一瞬の中ホ百象を尽して風光絶妙なり

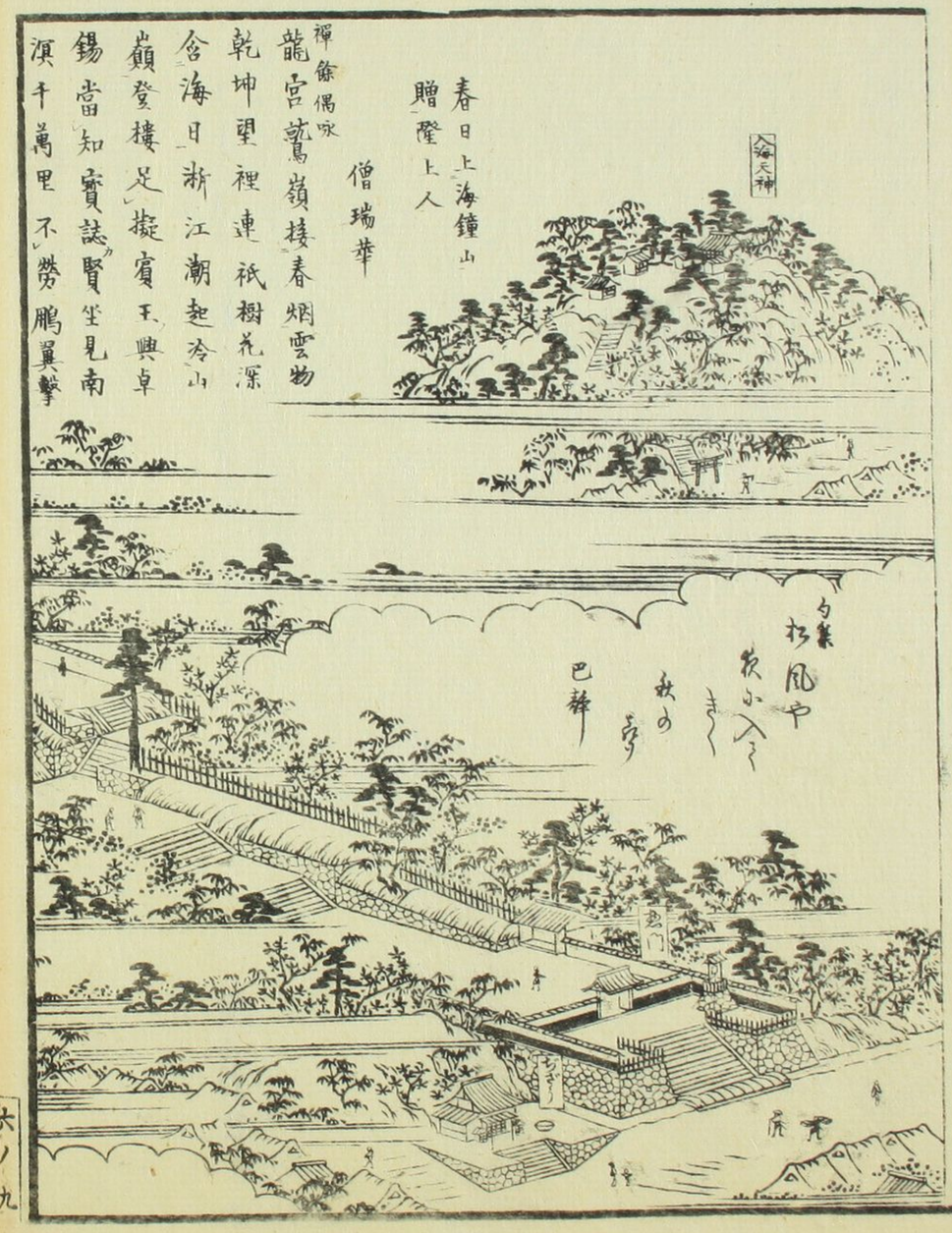
石瀬川

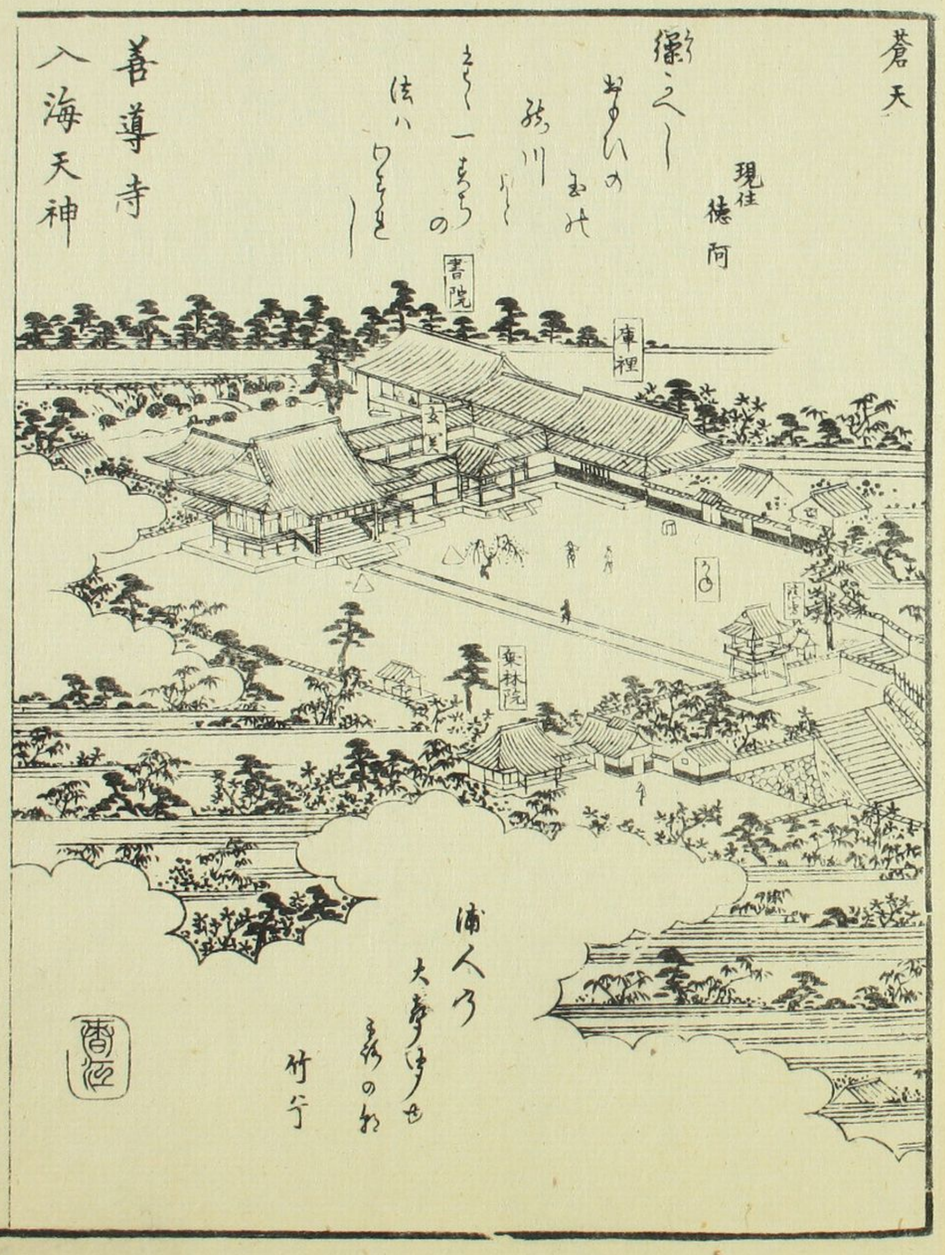
村木村〻大府村の境にして英比庄〻〻〻流れあり川と永禄元年 神祖水野下地方信元〻〻に信長と会戦あり〻〻〻しかの時後也ま義を終十七歳にして初に功あり〻〻〻 同三年又〻〻〻に信長と会戦あり〻〻〻 大高城を奪取 矢田作十郎 塚屋 ほか 大久保七郎左衛門 同次郎 与本九助ホ流と今也ほ〻月四年〻〻に

博会戦あり〻〻〻石川伯耆守家多 桂村左衛門ホ宅武功あり〻〻〻又〻〻の為れ方に村木塚首塚の松ホ〻〻〻

緒川里

緒川村と〻〻ホ〻〻も書けり 敬木弁敬集に〻〻〻〻


海天神
春日上海鐘山
贈隆上人
僧瑞華
禪餘偶吹
龍宮鼓鳥嶺接春烟雲物
乾坤望裡連祇樹花深
含海日浙江潮起冷山
巔登樓足擬賓王興卓
錫當知寶誌賢坐見南
溟千萬里不勞鵬翼擊
白集
杉風や
炭ふ入る
秋の
夢
巴蕉
書院


蒼天
現住
德阿
善導寺
入海天神
書院
庫裡
東林院
浦人の
大夢清
秋の
竹行

うまとバ入にとるるあり〜〜べし　摂社 山神社　神寶 正宗の太刀一柄 治に元和三年丁巳尾州智多郡緒川住人都筑忠義作　祠官 久米氏

八幡社 因所ハ行ハ永禄十年戊辰水地義四郎修造〜又天正九年辛巳重修と如〜〜　摂社 山神社　神宝 庵谷の湿一領 文和三年

四月五日水地貞信の家迎うり　祠官 久米氏

緒川城址 因村にあり水地義人貞守こゝに居る其孫義人貞勝之子名産干海老 因村にあり右馬之丞忠政より下所ち信元に却るまゝ〜生城す

澤瀉井 因村地蔵堂の前にあり武地義忠の昔治中より出現し多に牡蠣殻の粘着風味甚美なるハ世ハ是を川治老と称す

ハ我等祈願を以て陽意ハてもわんうこと

懐妊せり　ハ水地の家紋ハ沢瀉と永樂銭と酷ち

宇宙山乾坤院 因村にあり曹因京大原派　文明七年乙未水地義人貞

守創建して川僧和尚を開山とし明應元年庚申八月ち

以来ハ代〜〜輪番持〜〜ハ孝〜人家に塵寰を

離れ老松茂林のうちハ巨堂高屋を結搆〜屋上ハ瓦ぶて茅

とん〜〜葺く古色隠然境堺清浄朝ハ老衲香を焚き磬

鳴ら〜て大乗般若を演〜夕べハ雛僧地を掃ひ水を灑ぎて

供花燃燈を捧へ凡俗の到る者稀うて白雲常ハ廻廊を鎖

せる奥に塵外の一乾坤ハて寺号山号ハ空〜〜ざる清

涯うり　○本尊 観世の木像　末寺 尾三の二州ハ四十余ヵ寺あり　寺寶 唄鐘 永正十年癸酉小川下地氏寄進　水野藏人貞守繪像及び木像

又水地義人貞忠政及び三子の墓ハ寺　禅尼貞貞逝と称ハ　乱燈臺

二世延翁禅師の作うて　式外唐画

の製作等絶うり　舞台天の画縁ハこゝハ名人の筆ハて壁上ハ懸け香花と供じ

動ハ沢ハ微妙の音曲ハとゝハ世ハ水地家代〜の古證文多〜ハ中世紙

失して信州董揮写せ　舎利數千粒 文明十九年五月十八日名古行年五

清文の〜今にのこるり　十一歩ハて病死す周雅の後三日ハに

ハるハ　放生池 山門の内にあり池中に卓杖碑と建つ

〜〜　毎年八月十五日放生会と称ハ

伊久智天神社 ぜ沢村にあり信に八幡明神と称す糸神木花咲耶姫本国帳に従

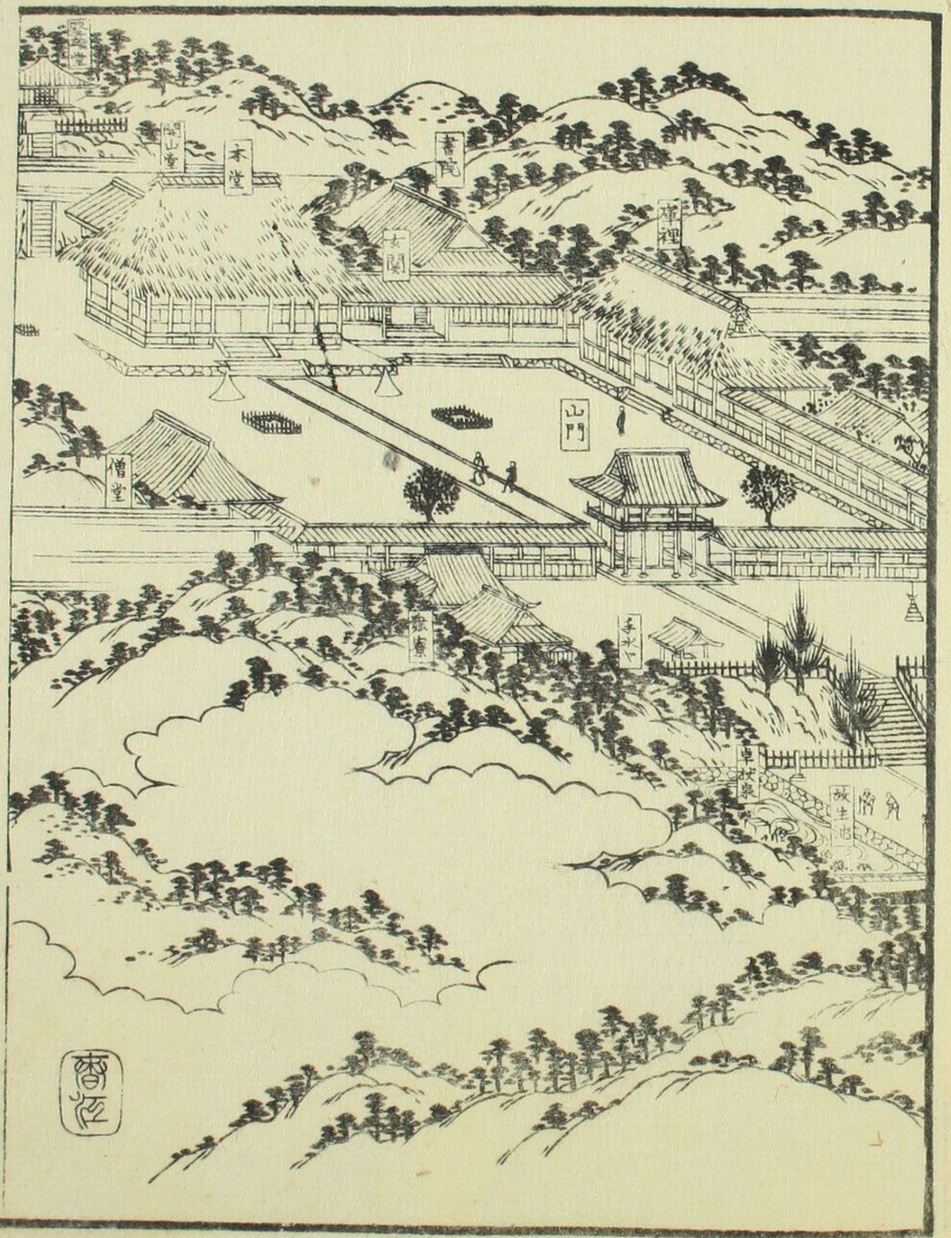
三位伊久智天神〜〜ハ是うり享徳三甲戌年三月廿日従五位下因

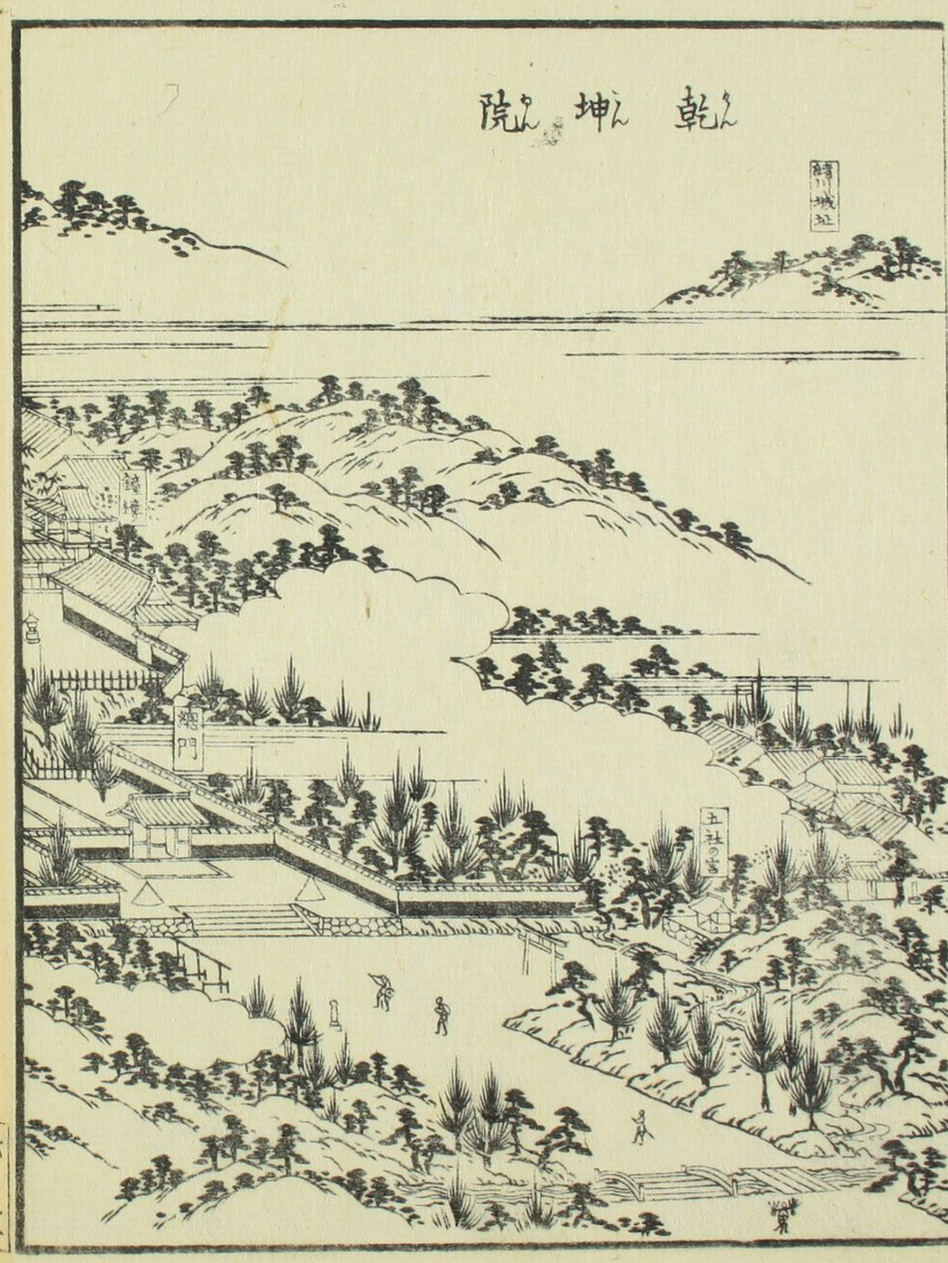
伊豆ち因幡国ハ　摂社 神明祠 天王祠 八幡祠 天神祠ハ行ハ例祭

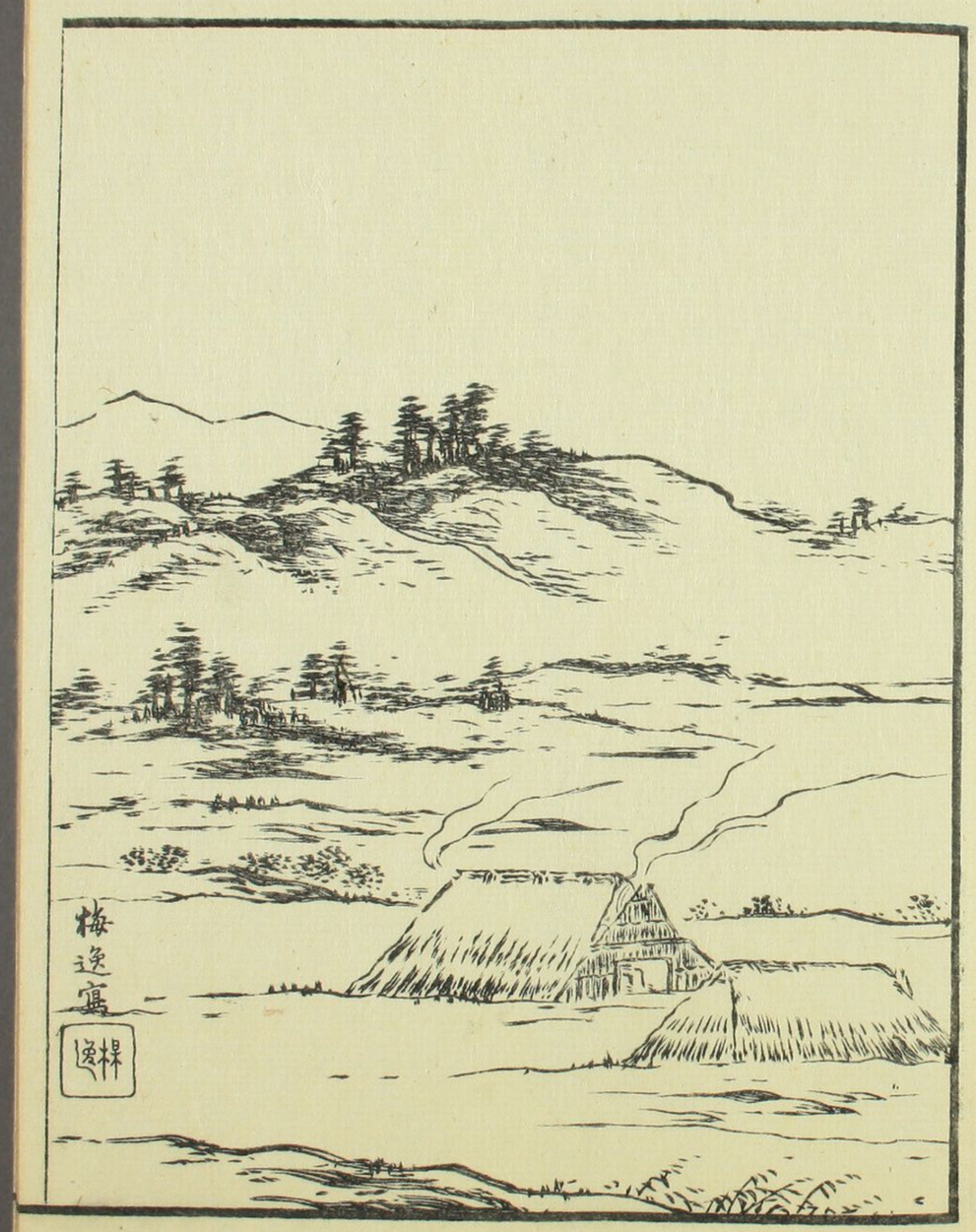
られと修造せり　八月二日獅子神 ハ馬の懐と又幸魂の〜〜

生路井 因村幸照庵の下にあり信ハ弘法大師ハ〜ハ悲と万里和尚ハ常照菴

藥樹詩序略曰知多郡有邑曰生路昔奥田霊祠東征先入是境射猟渇甚


本堂
書院
山門
僧堂


乾坤院
五社の宮



生路塩竈の古覧

延喜大膳式ニ云

東寺中台五佛左方、
五菩薩右方、五忿怒、
料生道鹽日別五合
七勺海藻六兩滑海
藻十二兩未醬四合
五勺醬一合五勺
右每年十二月以前、計
來年、日數、申官、行之

取弓弭剝岩則泉忽湧此泉至今存号曰生道井若汚穢者汲之則水色穢濁云云又
名のゝ殘りて其泉ハ屢ゝ昔ハ生道ゝき文和三年奥田神領注進に生道郷と
改まりしとう

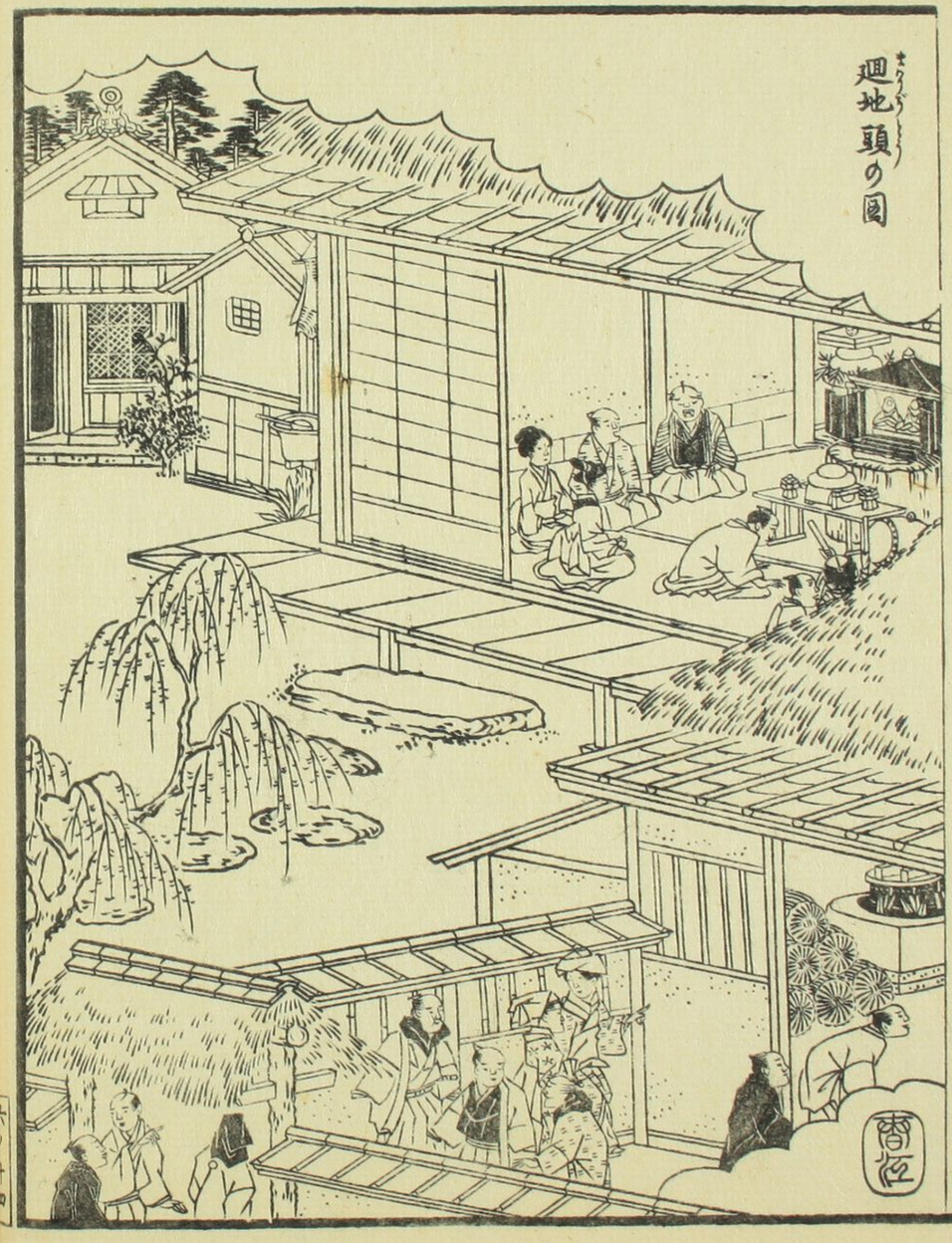
生路塩 同村の產うり延喜主計式に尾張國生道塩一斛六斗と見えたり
つゝきれバ其産の久しきるべし今ハ東浦の諸村多ハ焼塩を業とす
三盆砂糖 享保の末同村れ奥田某遠り路一由物類品隲に砂糖昔ハ和産なし享保中か
名命ありて琉球より種を傳へ南部に植ゝ岩ゝおもと見えたり今も奥田氏なり
よりつゝその連絡りてこと也と謂しゝ毎年
國君ハ貢ぐとう

塩竈石 同村及び有松村境と後の地ハ昔ハ塩竈の產ハ岩ゝ出石ありうと三尺の產にて色黑し村民
昔ハ塩竈ありて搗う為り塩をやく竈の產ハ岩ゝ出石ありうと三尺の產にて色黑し村民
ハ塩竈ありて腹ハ腫まれバ病腹痛うゝの諸病と
信ずる神祭ありて実に効驗ありしとう

坂部城址 坂部村にあり從五位下久松紀前守藤原定益南城と築きしとう子
英比の々と称し世に英比殿と称せり久松氏ハ則英比丸の裔孫にて
其子孫大多信後に再嫁しまひしとう世に知る所流之又傳通院大夫人佐治氏
龍溪山洞雲院 同村にあり曹洞宗同郡加木屋村普濟寺末明應二癸亥の年南
寺院の位牌及び系譜一卷を寺傳せり邑の城主定門主子孫代々
定益ハ永正七庚午年十月十九日卒

北原天神社 白沢村ハ傳ふ曰人皇六十代醍醐天皇の御宇菅公
流謫へ左遷の御公達も西へ流されまひしかゝの中に英比丸ハ

知多の浦に左遷ありしが菱公と天満宮と称せしが後公達方
も都へ召返されまひしと英比丸ハ形南ハに住まきとう奏せ
ハ勅許ありて知多郡れ住まきとう英比丸郷と用き
其比氏社も創常しまひしと今英比五々の白髭と称せるハ
南村里民正月白髭と帯ゝ菱氏を報せしとう称せり
英比殿卒しまひし後南村民崇敬の余り彼像と作り今に
ありまで民家一日ゝ供奉ハ彼像を帯ゝ立臼の上ハ新薦と
もきゝ安置ゝ見と奉る号して四方地区とう称
地蔵ともう其の像ハ古雅うて信ずるに足まう菱公の公達
ハ菩提寺ハ菩提寺ハ菩提寺



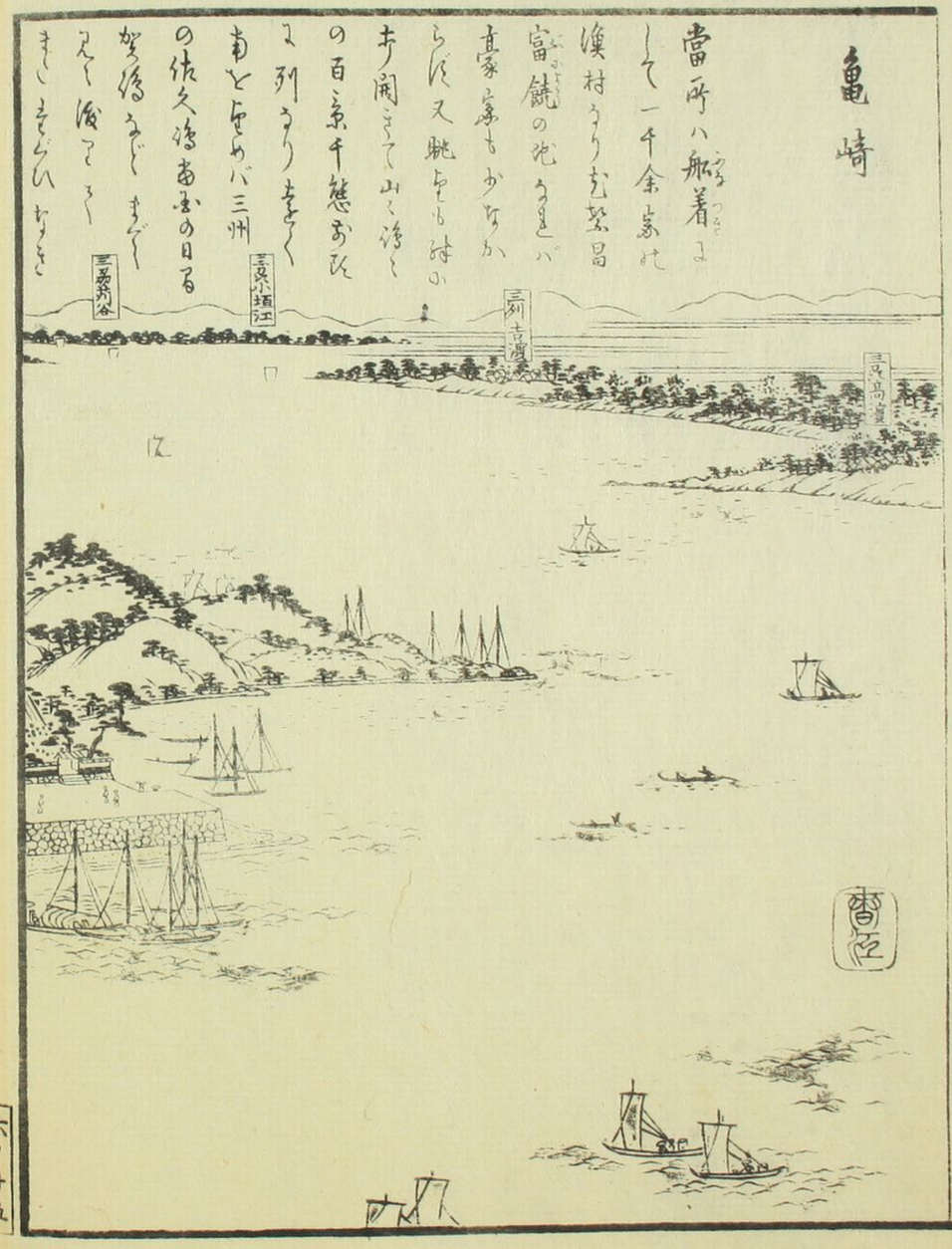
阿弖と書きて例
比英比をよめり

延喜式に阿久比神社本國帳
に従二位阿久比天神とあるを又一の宮と称するハ神名式
ハ従二位阿久比の神社稗宮村にあり俗に八幡と
称す又一の宮とも
に当郡三座の内当社とハ
おなじく中一ノ宮なれに一の宮社号
おなじく村名を業とする稗の字を用ゐるなり
ハ英比をあやまりて稗の和訓比英なるゆえいつの頃
箭比天神社矢口村にあり今無住なり極楽寺国帳に従三位箭比天神とあるもこれ
鳳凰山平泉寺角宮村にあり圓月坊と号す天台宗地田素義院末
開基ハ法市守愛之丞大乗坊と云ひしが又古き棟札ハ
当寺創建の年月詳ならず
平楽寺ハ是ハ平泉の泉の或ハ樂の字に誤まるなるべし
相伝ハ文治六年八月十五日右大将源頼朝公当寺に投宿ありて
泉院堂ハ月を賞しまひし所坊の名を四泉と号ふ寺号則大
乗坊とも号せしが右大将月の明らかなるに擬ふべきものもなくさえ

亀崎

當所ハ船着よ
して一千余家ハ
漁村うりを繁昌
富饒の地なれバ
豪家多ク少なか
らず又船をも造ル
事聞きて山と積ム
の百余千態あり
よ列うり来ル
南とをめバ三州
の佳久修山の日ル
望絶ず まぢ
見て飽ざる
ましきなり

三州吉濱
三州高濱
三州小垣江
三州苅谷

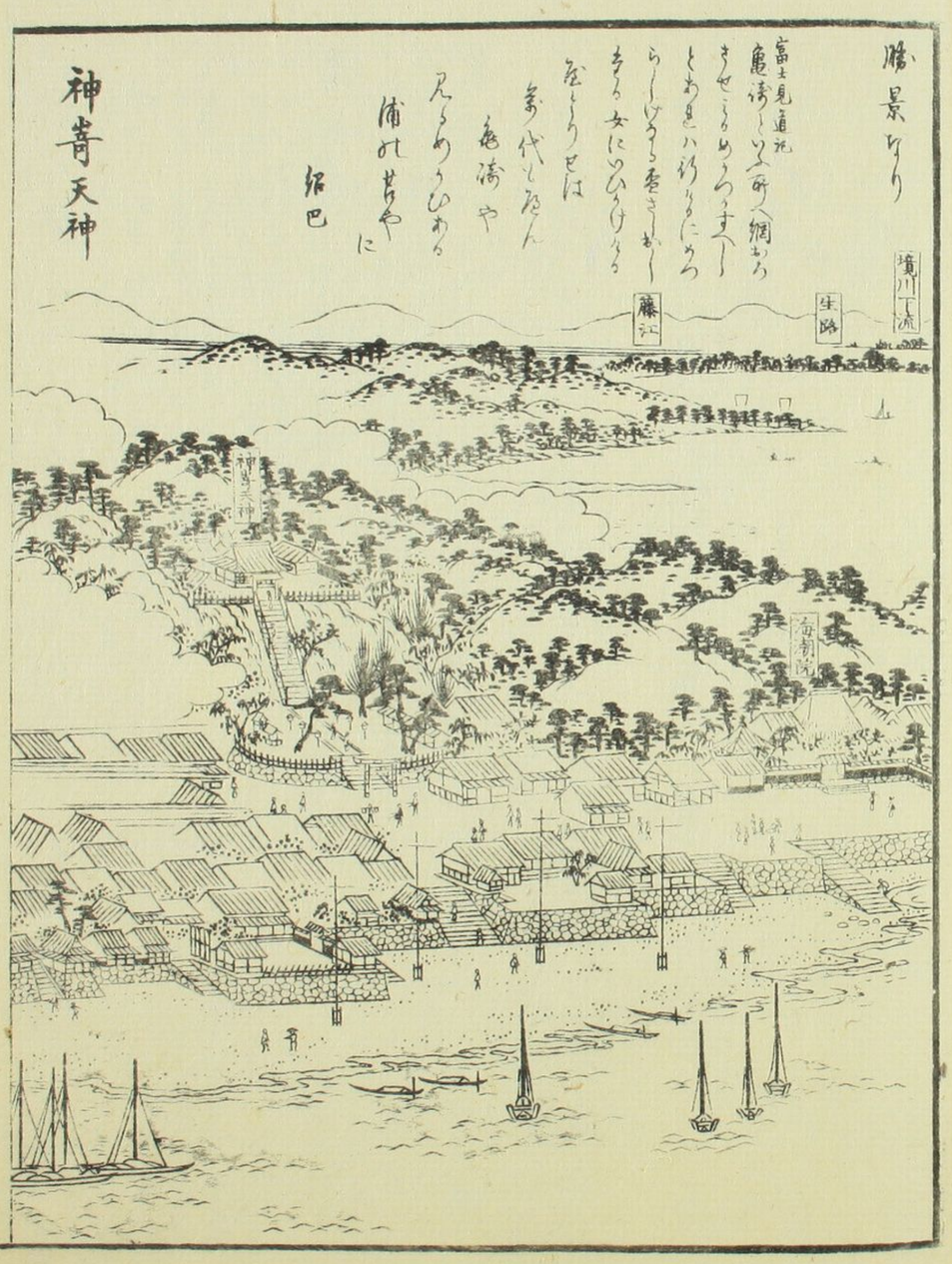


勝景なり

富士見道
亀崎しゝ
ませうめ
とあ
らしげる
ちる女に
をしうとは
家代とゝん
亀崎や
見るあうひあ
浦れ芦や
紀巴

境川上流
生路
藤江
海部川

神青天神



後世ぶ圓月坊と称すべきなり　命じ給ひしなり　東照宮文治六年十月廿九日杉樹の大御堂
寺に住ぜしなり　又に立ちうひ　本尊　不動明王　客殿　阿弥陀の木像と
八月十五日と　又ハ他へ移やまりしなり
安置せる尼光大師の作にて　什寶　今英比の史料に用ゐる所の阿弥陀の一軸
御本三尺余の尼像なり　村くの田ノ杭ともなり　もと南方に出れ什宝なるべし
氏神祭多あれども　これと畧す

唐松井　同村ふかり里民多々是を吸むこの水甚清し　是慈光大師加持ひ
　名水なりとぞ　いつも元旦ハ井中に杉新見出るなれば迎きい
たるに杉の木なり　人皆是を汲やしむ　盛杉の井なり
を伝給に唐松の井とハよひうハせらるべし

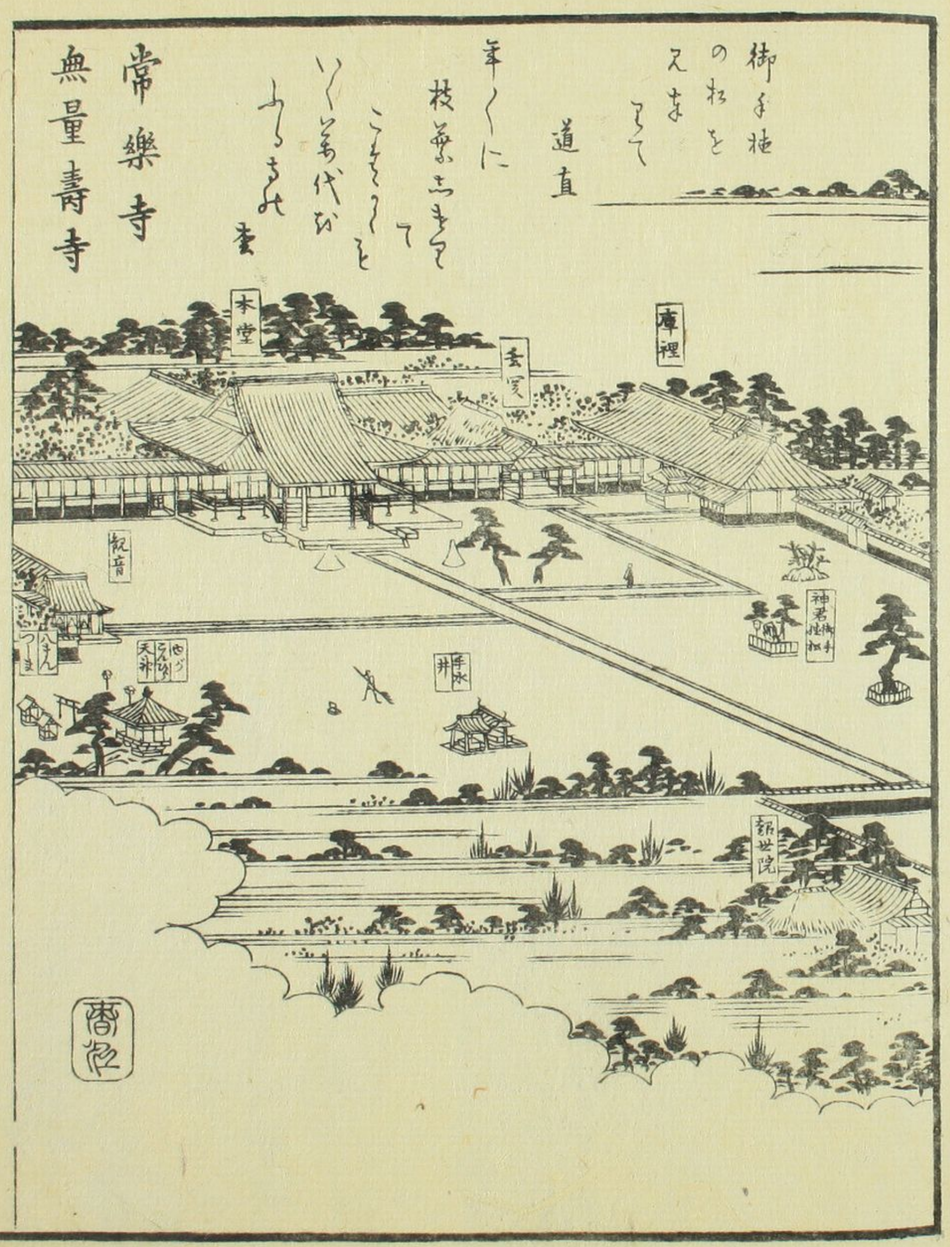
亀崎　乙川村字田村ヨリ一里余東の方　流れ　西面ハ三方ヲ渓路ヶ等
　小お数し　山ハ境川の下流に入て　初く　流るる　又南ハ山下に一の
名井ヲ　寒暑ふも　増減なく　水面ハ　清れい　村中皆と
汲むを他の井ハ　ふかうて　用ひ　ずと　いへり

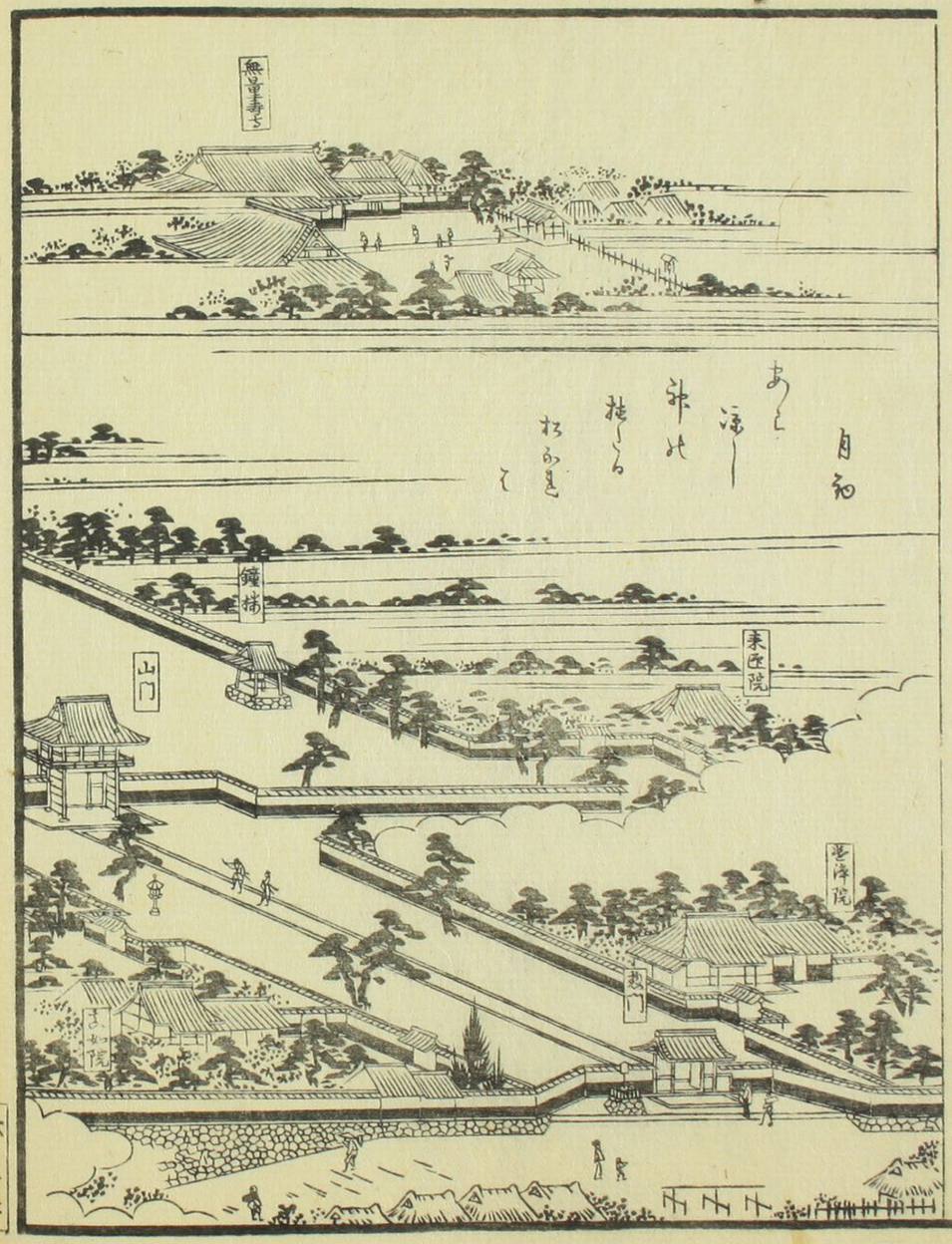
神崎天神社　急傳村ふかり　今神改と称す　祭神　神日本磐余彦ノ尊　天照太
　神と　奉る　本国帳ふ従三位神階　天神と　なる　これ　なり

例祭　二月廿五日　三月十六日　摂社　天神社　山神社　鍬神社　蛭子社　南社ハ頗大社なりて　敕百礼の上
　ふかう　眼下に海面を見おろし　島嶼　を　指點　せるま
で　分明清朗の一勝槩　なり　又ハ図を見て知べし　○祠官　山本氏

業葉天神社　下字田村ふかり　本国帳ふ従三位業葉天神　なる　なり　紀るに中
　世八幡と称し　奉る　南社の神宝古假面の裏書に業葉天神之

物也　とあるにより　是　なり　　例祭　八月十六日山車　なり　南地八人家千軒に及び
　の神号に改りしなり　　　


常樂寺
無量壽寺
本堂
玄関
庫裡
観音
神君御手植
井戸
朝世院


無量壽寺
鐘楼
山門
来迎院
惣門

さては鞍とおさんぬ爾して鞍澄及び板捷第ふとも賜ひしぞう
今も松寺宝として後天正十七年堂前に二本の松と清水づ
ら植うしと今も清水植の松と称して枝葉枯小祭茂り侍
昔ハ弘法わうしぶ秀吉公阿尼と渡収と又 國祖君和多浦
小清水の瓶の御面ちに教日清面ひ弘法の必く賜りし
り今に歴然り遠き沢米田村ハ小栗某とりし為旦那寺
なり数千の資財と寄附堂内の庄厳と経理ひ七宝と
鏤め朱粉と施して其の墓所ハ九品の浄土小弥陀の想
いとうせり ○本尊 三尊佛 塔頭 延世院 遺清院 真如院 来迎院の四寺あり

成石天神社 同村にあり今八幡と称す本國帳に 六月十五日 八月朔日 十五日
従二位成石天神と記せり 摂社 若宮 熊野春日 稲荷小の教河あり 例祭

羽塚山無量壽寺 同村にあり東本願寺 面ちと天台宗なりしが釈
生まれ院家なり
了善の阿今ハ宗旨に改り中興の開基なる了善初ハ大河内

義家国連しいしく久く 禁中に奉仕せしが出家の後面ちに来り
親鸞上人と面会して改宗 三河守も同号のちなり世に 阿弥陀 の立像
塔頭 信光院 浄土寺教 光坊の三寺あり 寺寶 聖徳太子御作の阿弥陀の木像 小野寺品許多あれど略す 本尊

武雄天神社 去尾村にあり俗に天王と称すなり非素盞烏尊なりて大己貴命
少彦名命と共に祭るなり本國帳に従三位武雄天神と記せり
元大社なりて境地の幽邃 例祭 六月十四日 同十五日
神威の後然るべき為
峯社 大日霊尊社ホ境内 祠官 岩田氏先祖ハ岩田果負
及び境外に多し
城址 砂塚又出田塚 ○ 摂社 居守社 弥五郎社 神功皇后社 八幡社 若宮社 山神社 白山社 天満宮社 祠
墳墓 ○ 岩田果負 ○ 面村の城主なりしと伝ふ
豊石天神社 大足村の伝説林の中にあり本國帳に従三位豊石天神と記せり
方今ハ放火の水天に映ぜる 伝説林の中にあり 文月小ハ此地の上なり 花火とわぐらなり 多数集大
風流実にいちんくなり

壬生天神社 古市村にあり本国帳に従
三位壬生天神と記せり
富貴城址 富貴村にあり戸田孫八郎と云ふ者多くハ富貴と称せり 村名と呼ばせり
阿奈志天神社 矢梨村にあり俗小八幡宮と称す本國
帳に従三位阿奈志天神と記せり
海苔腸 大井村の名産なりて毎年 國君より 朝廷及び 将軍家へ献上せり
其製れしめ代に持戒者の美味なりしが腸醤と同和するを飯沢

しおせに浦人腸を取り洗い清め壺に入れば波潮ことと窺ひ効れ多少に洗ひ白塩と
撫拔まれば浦人木箆をもつて攪拌し二三日うして常に炎未最妙なり
けもの終に本あの名産ともうしつ能焼松茸に及ぶべきもの南部すべくこれを繁す
るといへども此村及び所浦とて繁するを最上品とす浅味の淡白いちじるし既所の
海苔一品と称するもの又交に数壺と
傾けしむ交に比類なきの名産とし

章魚壺 同村の海濱少て茶臭七浦を業とし海苔を捕る口の狭く細の深き口の狭く細の深き壺を
水底に沈め置くなり壺臭に捕る西浦中てい文とるの多く傾と解りて遠入を拾こ
口の狭くて小ぬるを引き上げ捕るもの捕るもの多小臭にて多くしぬ此系れ古きと或ハ水抵抗を防ぐに用ふ人ありて拾く
こと章魚壺
とす

寶珠山醫王寺 同村にあり去る寛永七年万徳寺末永亀二年乙丑行基菩薩の創
建なりて去る八十変文政しば破壊頽敗して
今ふたつに宝常院北宝院利生院 本尊 某仏ハ朱日光月光の像と
赤義坊赤地四寸ばし沙弥 左右にあり立寸巻に巻の像 明星水
弘法大沙弥井と称て
護摩と称せ[illegible]

寺宝 鰐口 小宝院の銘あり 三年山田郷松尾寺の文字あり

但馬 和名抄に智多郡但馬郷行て古き地名なり
已今田島の庄に称ふ此也

幡頭崎 伊濱村にあり又羽豆ともかけり

濱 知多郡の中南海小島の形箭れ
ごとく此濱ハ東南のそとふあり羽豆の称
あるに新[illegible]此濱ハ一ツの山にて断岸千仞巉岩百尺地油

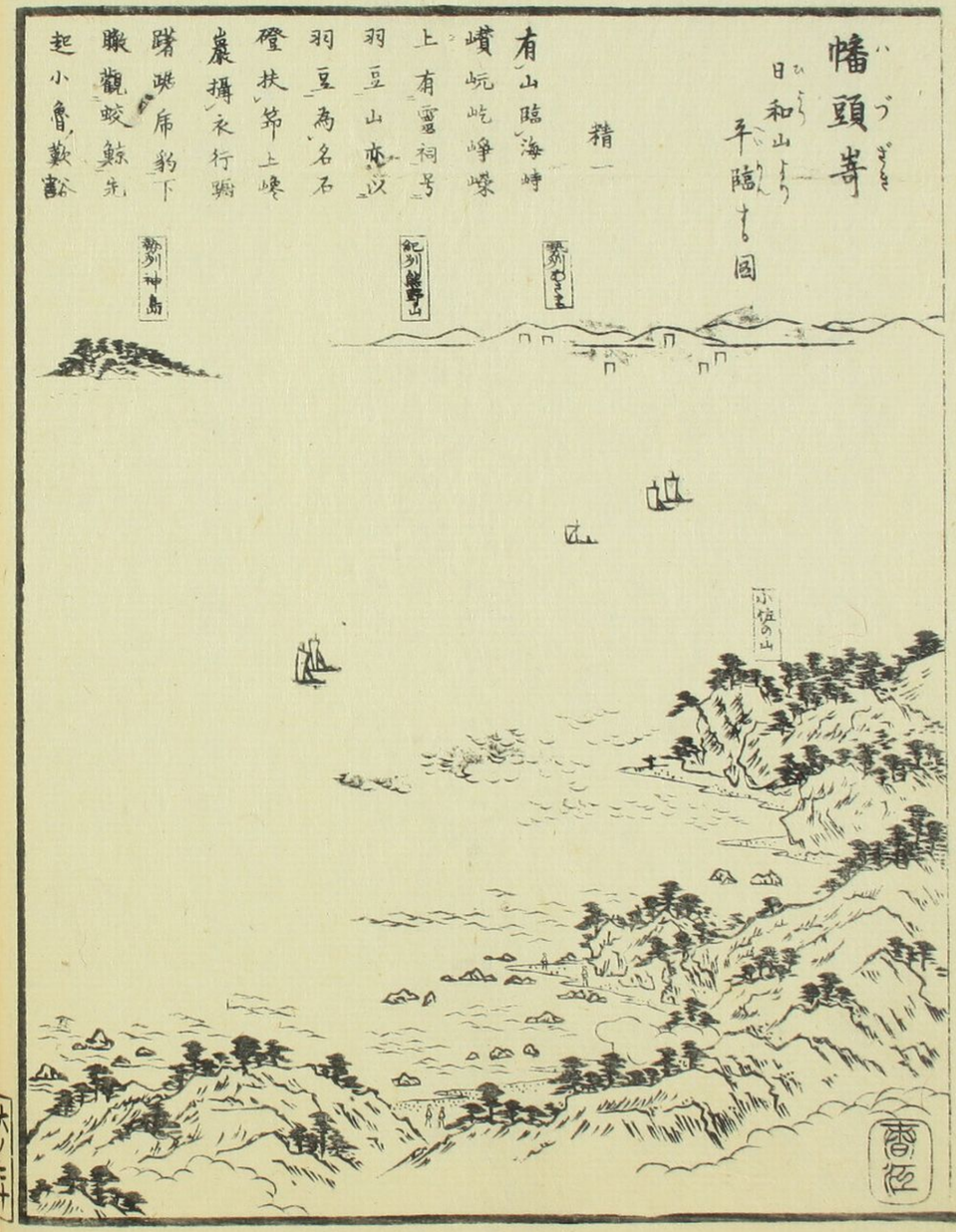
と絶そびふこと峰ちと古木表然にして僅小歩を通ず絶
頂の風系ハ三面ほぐふして蒼海の無也世渡と眺み西ハ
伊勢の朝熊嶽非濱志摩の日和山まで見え渡り東南ハ
三河れ佐久島から濱伊良古濱ものく海中に出く翠帯
とうがごとく又朗晴の時ハ此方小南て富士れ雪望海の赤
小浮び遠くハ隙濱日間賀濱北濱松濱大城濱鯨濱濱考
濱濱平濱かもの濱木島濱[illegible]濱嵐濱内地濱名びと濱小と
ちどりこと余の小島ハ数と[illegible]沒枠面小棋子と布るがごとき
只一瞬息ふして双眸小入る山水の勝槩実に此地小まるハ也
此禁に小るき石山あり土人日和山と称し近き沒こと山上に
支干と彫る石と置え方位と定く風雲陸面と候い船路
の役[illegible]又海天と[illegible]山無碍の佳境うう又此也て鯨
と捕ること行く漢和数十艘あり又とうく密留ることと捕

幡頭嵜

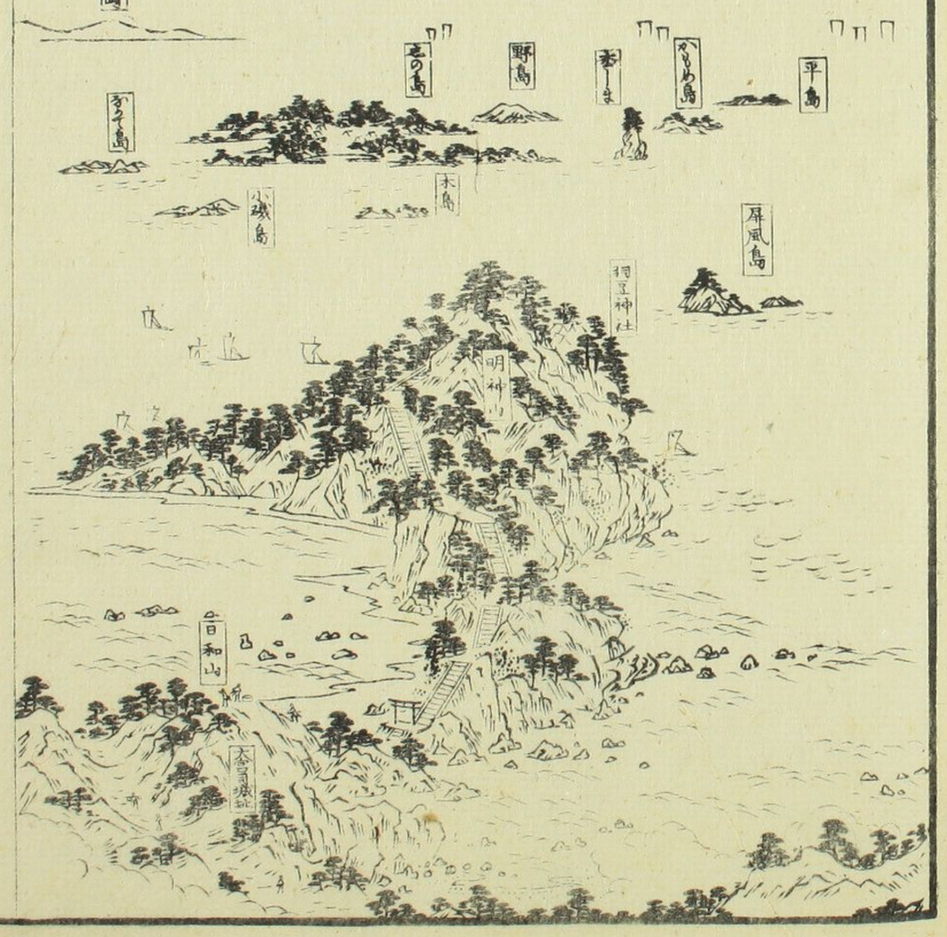
日和山より平臨する図

精一

有山臨海峙
嶙峋屹崢嶸
上有雷祠号
羽豆山恋以
羽豆為名石
磴扶筇上峻
巖攝衣行躋
躇跚斧豹下
瞰鼉蛟鯨先
起小魯歎畜



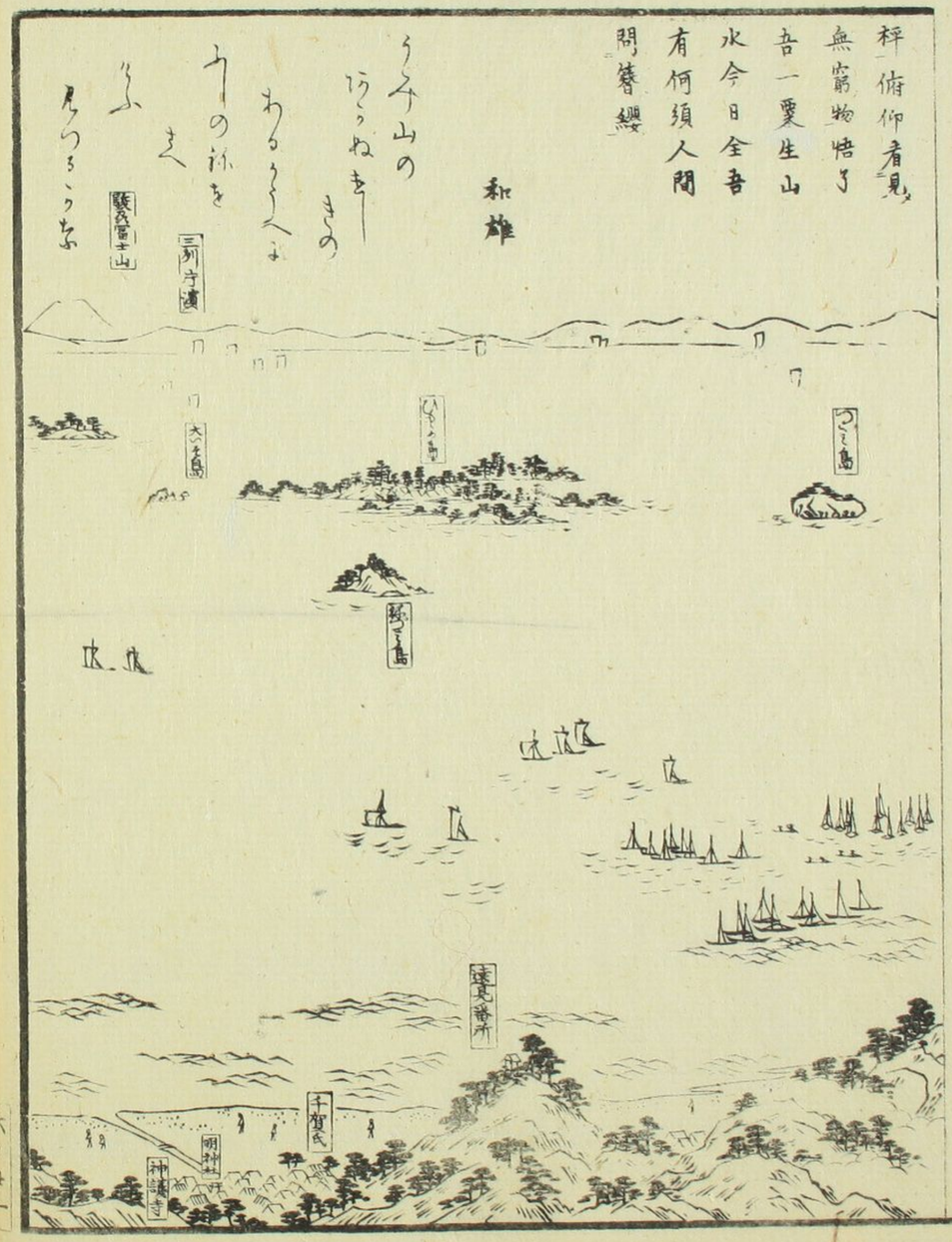
然朝徹情堤
興至此開羣
象乍分明海
瀾水深潮有
力風緊船小
布帆輕南溟
無邊水汪洋
与天平青山
無古今態潮
汐消長僅視
虛盈山高地
勢極虹銷雨
初晴怒濤兮
駛浪鎮日拍
巖鳴島嶼峰
巒海面浮布
置參差似棋



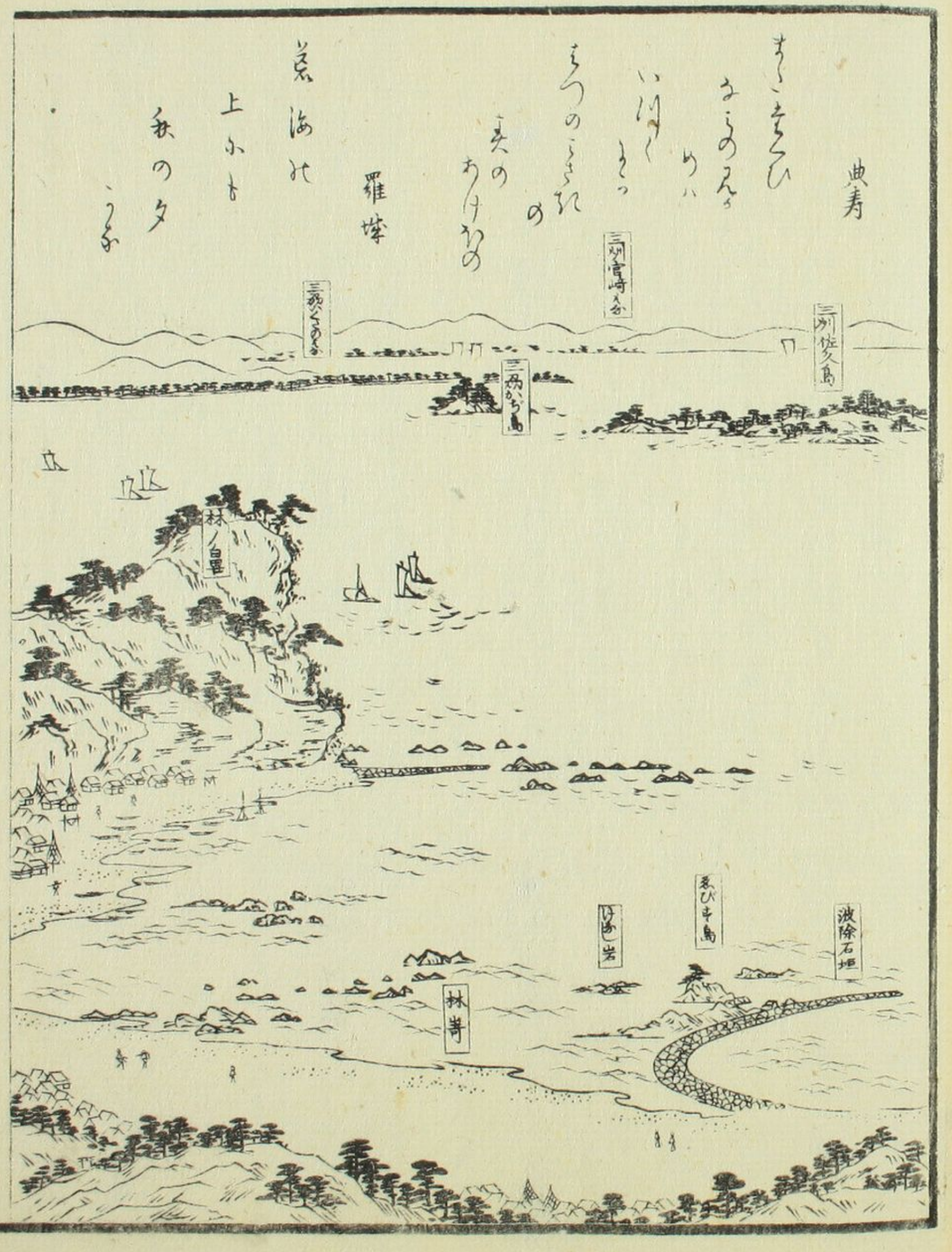
秤俯仰看見
無窮物語り
吾一粟生山
水今日全吾
有何須人間

問簪纓

和雄



典秀



羅堂

岩海社

上ふち

秋の夕

尋大さ四五尋或ハ七八尋ありてその指揮を定むるなり今も稲の白貴大木の朽るゞ如きその比城也に数多あり凡訓ぬ人ハ朽木のゝ思いるとぬべし

神のまゝね豆のゝきたの滅也ハ清のゝ流ゆふ日ゝき 成昌

ゝゝの糸神ハ千ゝ波寄ゝて城ゝゆゝる報豆ゝ清ゝ道直

山多ゝ尾ゝゝゝふゝのゝやゝの姿ゝゝゝ 師清の浦 相房

羽豆神社 備後の国上郡にあり糸神 建稲種命 俗に備後清八幡しるす **神名式に羽豆神社本國帳**

小従一位羽豆名神とある是ゝ尾張氏師介ゝゝ

ゝの比地小縁ゝ有ゝ **祝神建稲種命**と称して比祠と建ゝ

又古事記ハ天押帯日子命者知多臣之祖也ゝ姓氏録ハ

羽東首天足彦彦國押入命男彦姥津命之後也ゝ

比神と称ゝゝんゝと本國帳集説ハ云ゝ齒社ハ海中に在り

ハ一枚十仞ゝ岌上にありて数百の石磴と聚登り絶頂の徑ハ

僅ハ一尺余の中ゝて其左右ハ滄海の漫ゝたると虫下に

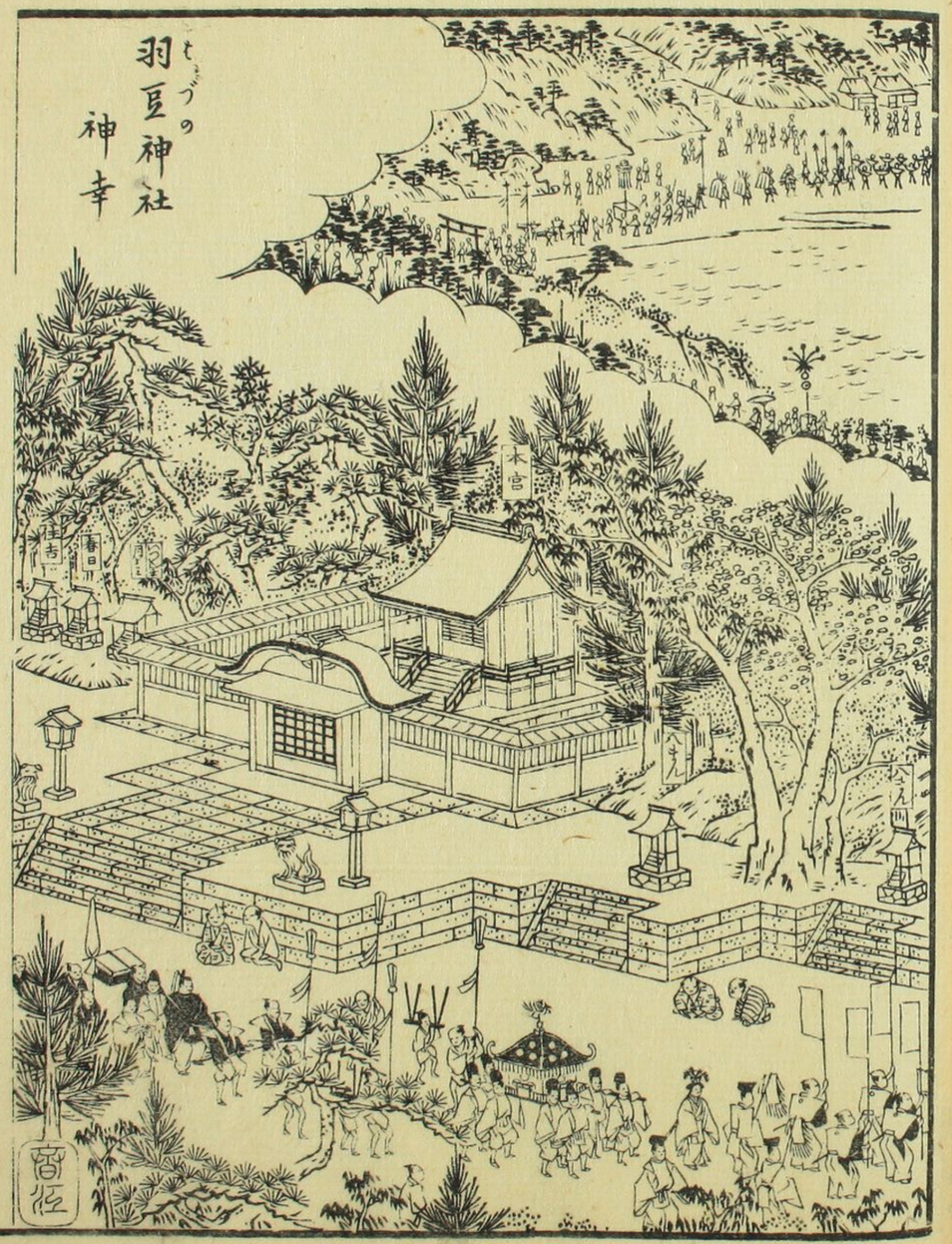
視おろゝ四方の眺を絶糸ゝ如ゝ

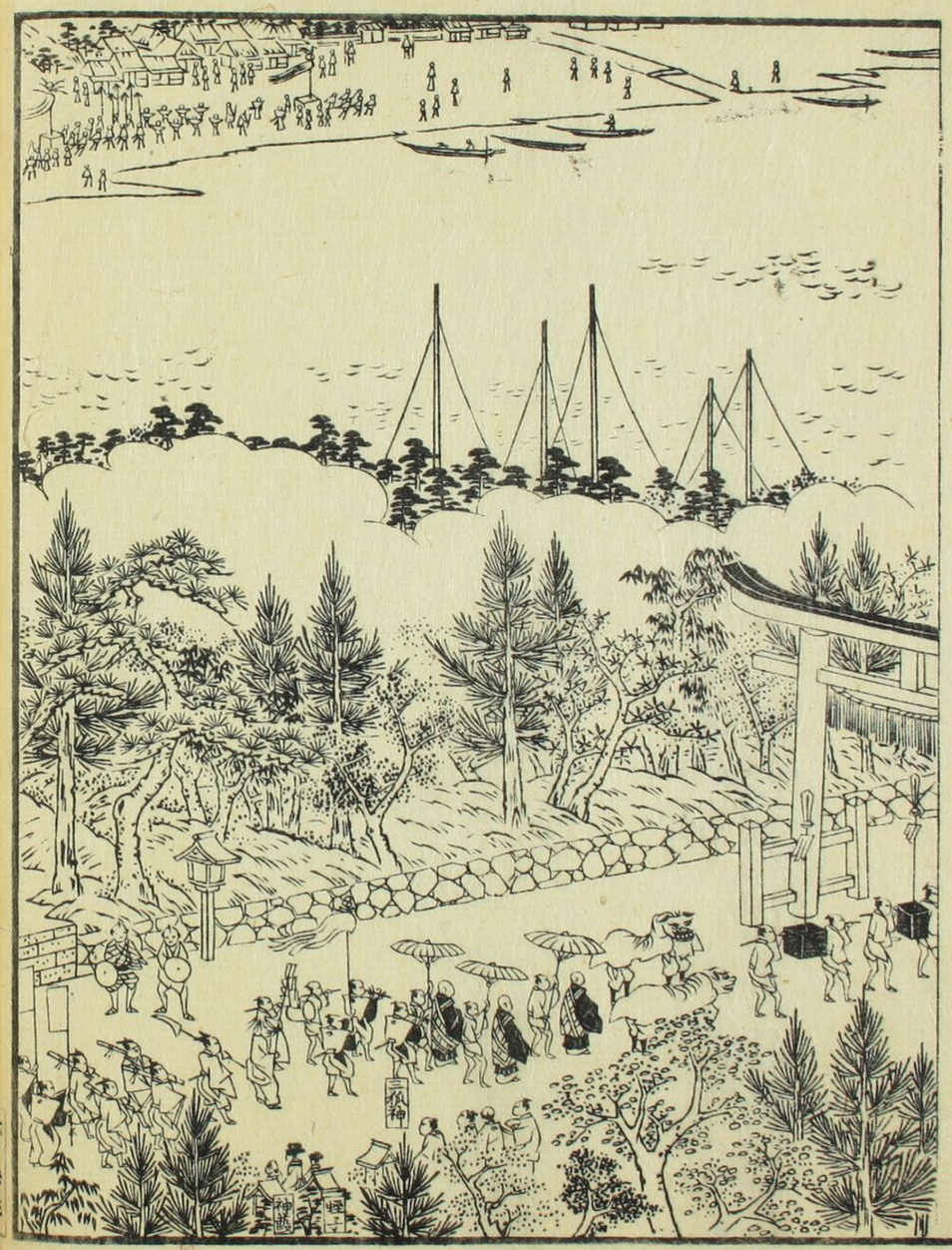
又比山をいまゝ樒のゝ生ゝげりて交ハ他樹と交ハ比ゝて南部

の山ハいまゝ樒ゝに多ゝ

○**攝社** 神明祠 住吉祠 春日祠 三狐神祠 龍神祠ハ行宮 **例祭** 八月十四日 神輿と行宮ハ迎ゝて糸ゝ十五日本社に還御ありむゝゝハ奉幣使発ハ橋の南泉 備後国ハ行宮ハ下向ありて片名村に旅館につき今片名神明社地也 ゝ

ハ行宮撃ゝ撃ゝゝて相撲の式ゝゝゝ


羽豆神社
神幸
本宮
春日川
住吉


三狐神

一品將軍宗良親王まゝに伊賀の山太平記に應永三年九月十八日紙屋刑部大輔入道康水に
郎々義助吳陽の水根尾の城水楯籠り河内國刑部大輔入道康水に
美濃されて郡内七十三人とりぐ微服陽ゆ〳〵て樊田大宮司の城尾張の國
陽ぬ陽へ為きを引十余日伴内にて敗軍の兵と行方失せり伊勢伊賀と紀
て吉野殿へ參ぜんとさるゝ人々信濃宮の御水一品宮宗良親王八十余年の去
秋と上せ給陽のるに送りむ人さをひ正平二十四年の夏光資と信濃に留り
亟きをひて尾張の玉犬山へおさせまゝ〳〵同玉羽豆陽より渡永たりされ伊勢路と
紀て芳野へ帝上て行ゝ志ゆ一細川掃元の吳蔚集と云る書水も尾張玉
番沢陽の城代が士卒の名員人等民郎水感冒せるゝと
黄疸陽と引いて投療せゝ水ゆ水ゆ度會郡水原一山
篠嶋 伊陽のもゆ上一里許水にあり
めぐり三里民家頗る饒うり

三島と所の者ハ三島と称すと伊陽の名所一山
田庄絶橋ゆとゝ〳〵されバ伊勢沖供年中の干鯛三百六十頭
と貢す又伊勢礼宋社十六社あり神明宮頗大社うして
あゝ〳〵の神社と云ふ所水二見が浦水ハ遥拜所あり又八王子
社あり是も大社うして伊勢迄宮の年ゝの古殿の伊金具
とれハ西社遥景あゝ〳〵ぞ中世志摩國水も属せり神鳳
抄に志摩國答志郡篠島とゝ〳〵の答志郡へハ甚

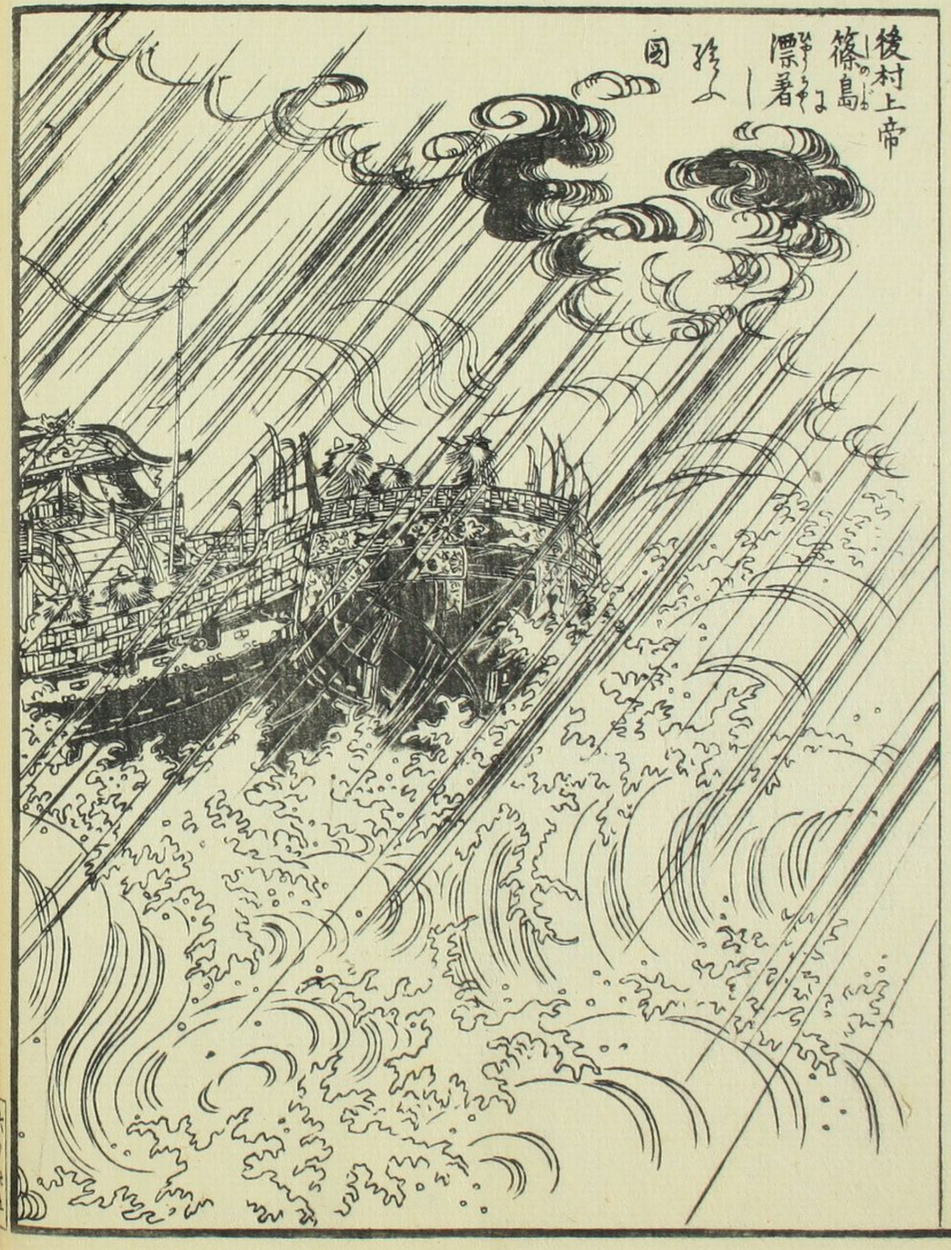
近ゝ寺院も亦十一宇ゆり文禄年中豊太閤尾張海西郡
の長陽とゝて伊勢水篠陽を尾張水定られしとゝ水陽
より四方とゝ〳〵バ勢志三の陽山一回顧水ゝゝり微風とゝ〳〵
供陽山岳と動ゝ舟行基羅ゝ南ハ海上渺ゝとして眼と
さへぎるものゝ〳〵無の大洋水通ぶ奥に一小天地うして民
屋二百余家水及べり又南の方の人と代ゝ水ゆ驅ぜるとゝ
ゝも土人ゝハ混ぜと孟の中水ても區別せり

弊帚集 篠島書懐
翠篠囲孤嶼神區天一涯寺留 松平君山
家五瀬連山近三河隔帝子迹人想地仙
花魚眼輝朝日蜃楼擁暮霞若无左遷罪見月送年
華

古城山妙見齊

篠陽にあり曹洞宗
同所正法寺末なり

南朝の延元三年宮軍東國へ
下らせ給ふ附伊勢の大湊水ゝ船とゝ〳〵風と待ゝ水九月十二日の
言ゝ風止ゝ雲收りて海上ゝ〳〵ゝ船人纜とゝ〳〵て海天


後村上帝
篠の島に
漂着
図

小帆とゝぶせり兵船五百余艘義良親王及び北畠顯信卿の淨船
と中ふたゝび逢江の天然瀧と通ふる所海風暴ふ吹あれゝ逆
浪天と蔽ひ或ハ帆柁を折ら是或ハ櫂を失ひ多くの兵船伊豆
の大海めゝの泊ふ吹よせられぬいかりうち親王の淨船も陸ふ
うちあげられんとしるる所よ光明赫耀る日輪淨船のへさきふ現
せりたに折ゝ暴風も去べきもうく伊勢の玉神風の渡 新葉集 小篠海
もとし小ぞ漂着しぬへうかゝて吉地ゝ日御碕正と 勅使と
して比海に下しぬよりて親王吉野ふ御ゝ世ふ 後醍醐帝
九濃とうけ即位ふ 後村上院是ゝ 新葉集 きるハ太
平記ふ見えたりこゝを

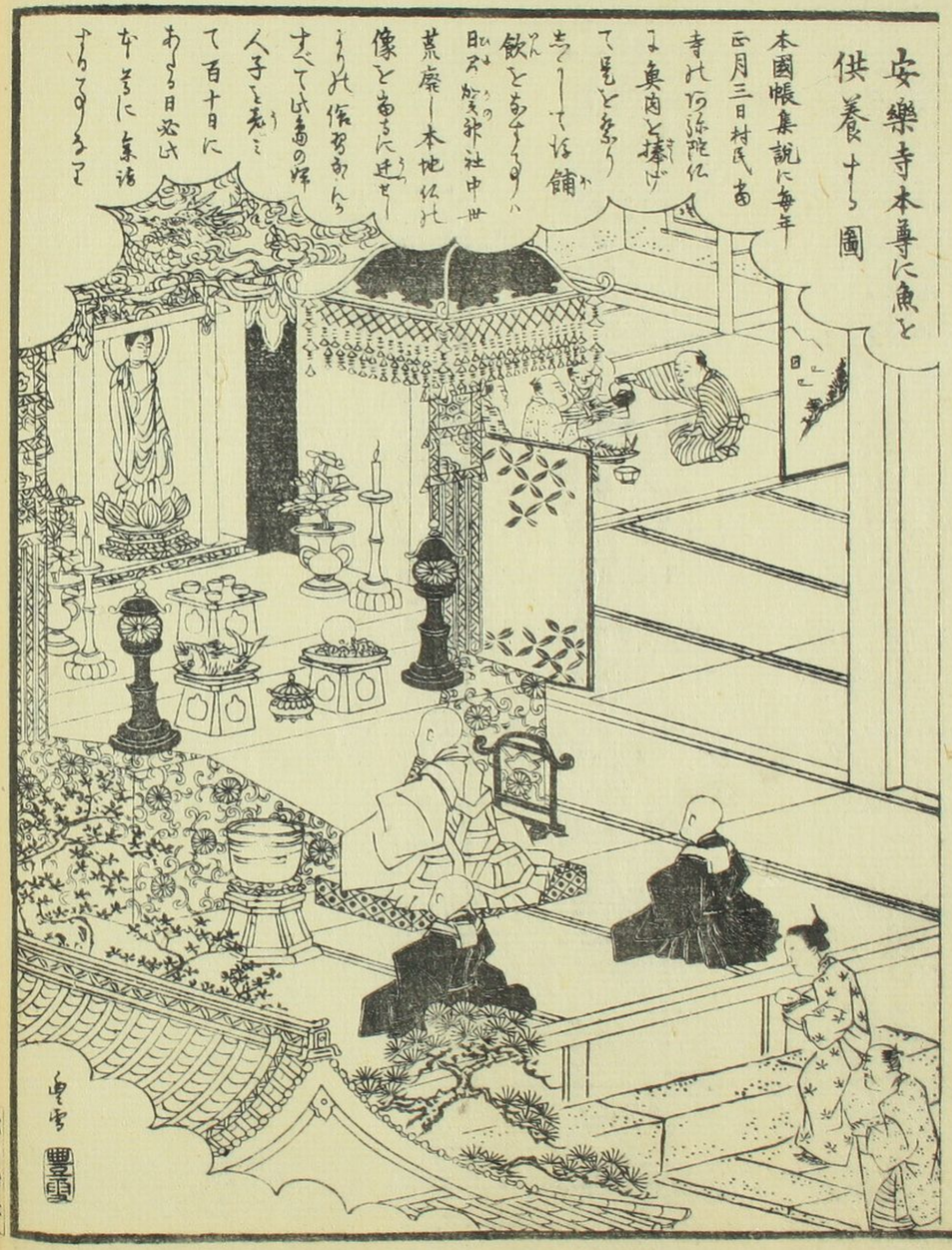
帝のまゝ西ゝ海ゝいひ伝ゝ古
城山ゝ見けゝ今も帝井といへるわゝてるまゝ村の伝波ゝ

延元三年秋 後村上院ゝ奏して陸奥の国へ下ゝ世
まゝくるにいかもうゝ淨ふ伊勢の玉篠海と
いふ所へゝ 勅使ゝ
ゝうふこうるひたる大風のゝうゝ波ゝ
あゝもゝあゝくゝん風れまきれふ淨ふ

日間賀嶋 師海の東一里ふ行て列篠島の西にあり西一里余漁家甚多
しまて篠海ハこゝといせの地ゝて海石多く比海ハ自ら地形美ふ
して古色石質もまゝ師海に比べ且比海ふて捕ゝるゝの蛤仔ハ其形大ゝ
味美ゝうゝ所に世人日ゝ賀あゝゝと称ふ其殼甚ふ大ゝゝものハ往ゝ三寸四寸に
及ぶゝ又他ふ比類ゝき名
産ゝゝこと推て知べし

比摩賀天神社 因幡にあり人王八王子ゝ称ふ本國帳に
正四位下比摩賀天神と行ふ是ゝ
永峯山安樂寺 因幡に行ふ曹洞宗
遠州金剛寺末

南ゝハ文亀二年壬戌備月伝
の創建ゝて本尊阿弥陀佛の木像ハ之作基古ゝて甚ふ
霊験ゝ 比外に三ヶ寺ふ行れゝ是を略ふ物語が義ふ元亀二年ふ書写せ字
引の奥書に于時元亀二年戊午二月五日ニ是ヲ書畢珠二日間賀釣深
菴公用ニ二代メ宗珠藏主五十六歳ニテ書置也と志ゝ釣深菴ハ今廃せりや
是ゝうゝねど比ヶ寺の内何是ゝ
野嶋 篠海の南にあり小島ゝ
うゝ呂ゝ本ゝ志ゝ
松島 篠海の西南に行ふ小島ゝ
ゝ上に一松樹あるゝ故ふ
平島 因幡にあり其ひゝく平坦ゝ
ゝ名存ゝ是ゝ人家史に



鷗嶋　松浦と平戸の間にあり一巨石嶋として水上に突出し海鷗多くに集る故に名く又怒龜浦ともいふ

木島　篠浦の北にあり民家多し　竹木暢茂せるの外

つくみ嶋　篠浦の東にあり松樹多し　以上の諸浦ハ皆斷岸嶮崖にして舟を繫し難し　故に繫るものの稀なるなり

荒嶋　日吉突浦の北にあり　て松樹多くに多し

大磯嶋　日吉突浦の東にあり巨石のみ　海潮高く打ハ僅にも頂をのこす

小磯嶋　篠浦の北にあり　茅木茂繁茂し

鷲渡嶋　弐嶋崎嶋　内地島　以上三浦ハ共に日吉突浦の北にあり　潮涸れバかくれ汐高ければ現はる

惠比壽嶋　阿浦の海濱にあり　の岩なり上に孤松樹あり

奈加天嶋　ほくみ浦小筑浦の西にあり　人家なくして茅木のみ

屏風嶋　幡浦の西にあり　是まさに民居なり

夫本朝に尾張國ありて浦あり松葉集秋藤花小野もとら浦と尾張の名所とされど今さる浦なし按ずるにこれに又る浦くのうち何れか後世改号して名

須佐入江
続古今
冬ごもれ
すさの入江に
こもりぬる
この見さむ
つら
木
木

かにりう
常無井入道
前大納言大臣
続拾遺
風わたる
すさの
入江の
波こえて
わらき
なれ
て
ゆく社哉

とうらいしゐうるべし

白雲山圓藏寺 須佐村にあり天台宗北田村密蔵院末天也 本尊十一面 紀主 五年の創建 ときて頗古梵刹なり

須佐の入江 須佐村の海をふしてふいふ佐の山西ハ須佐の地をへて入江なるもの一名なるもが浦なるもいひ或いひ

井なるもの又類字名所和歌集に接津の名所なるもすべて難

沖洲の勝地吐懐編ふ須佐の入江ハ東國の地名なるもの編

あるべく 名所ハ

のとむすきの入江のこと也ハ万葉卷十四東方に あちこ

ふるこゝろハ

りて松 丹葉 味乃住渚沙乃入江之荒磯松我手待兒等波但一耳 又人丹佐

同 阿知乃須牟須沙能伊利江乃許母理沼乃安奈伊佐豆加思美受比佐爾指天

後拾遺 秋とさむ須佐の入江ふ月ちらす氷る月ふ明く 後拾遺 後拾遺 雅律師公猷

みさこなるすきの入江ふ月のかしやくふ月ハ 登蓮法師

夫木 あやめ刈とゝの入江のこうぬふ月田ふれ神もめるし 後鳥羽院御製

為家千首 いらけとむすきの入江のあしの葉ふ露きらぬ夕ハ来ぬ 為家

鱗魚 西部東西の浦村にてしる形大きく味美ふ他ふまぐとたゞハ齒形の名考ふもしる

ときき須佐のあぢハ夫木抄の歌ふ他ふまぐとたゞハ齒形の名考ふもしる

うきぬあゝぬあちきうれ世やしるれ世ハ万葉ふ古ふに

うれすれぐもあぢをと奥にしるうれ

あぢハ美れ名うる

うしあちたまう

須男天神社 須佐村にあり今八飯社と 本國帳ふ從三位須男天神と

称を創建の年月詳らかぐ

ある也うう天孫本紀ふ宇摩志摩治命十一世物部真掠連

公須佐連祖とこそされば須佐連の祖神のこにまをあ地名

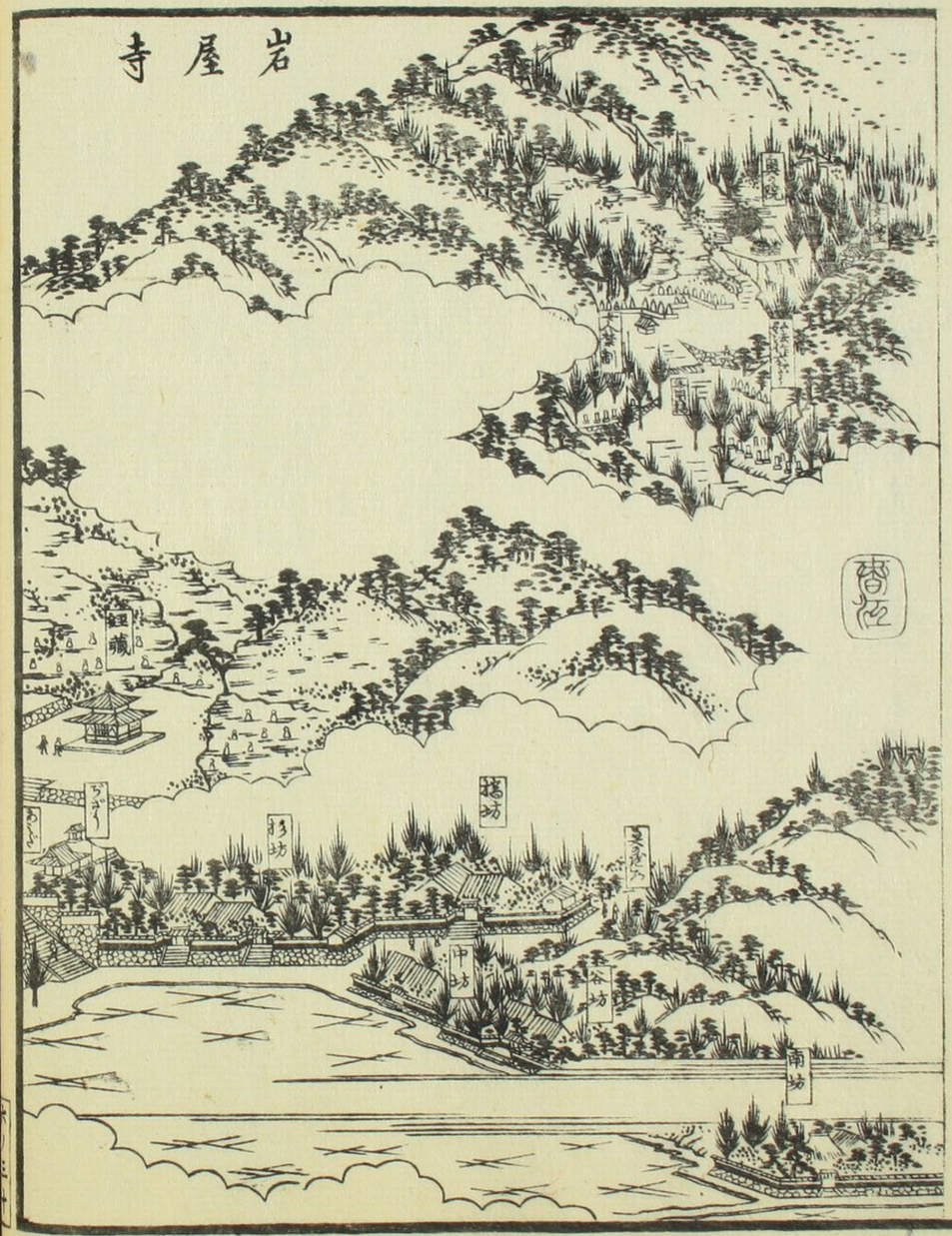
とうう又ある須佐男社うう本国帳に佐文字脱しなる

なるべし ○神寶 古鉾の柄あり深に徳佐二年九月十三日荒木田刻表丸の字九印

池水山正泉寺 同村にあり曹洞宗清天沢院末創建の年紀詳らかぐ 往昔長面寺と号を建

久二年 教翁大菩提寺と号を附寺院若干を寄附あり

澄性今も佛と其末文ふ云 兵衛佐寺也 高藤戦中守可知



地清寺亦古
嵌巖抱山欹
巖頭石羅漢
坐立各參差
含花和鳴鳥
来訪陀羅
尼

精一

行之と云へり末に花押あり志賀建久二年ハ新羅之院ハ
右大将ハ任官なり之と岳寺佐と云ハ頗る清舎ハ之く且教反
戦中ハ密所ハ軍家に仕へ一人にて時代もそなひ之ハ
く後考と俟のみ

○本尊

新迦の木像服士聖観音地蔵井 **錢拳梅** 境内にあり南年九鬼大隅守氏侵掠せり此梅独岳大の延焼ハ及ばされバ今も枯枝幹共に繁えり

大慈山岩屋寺

岩屋寺村ハあり天台宗北田密蔵院末なり巖窟寺と書り一山に巨巖多くあるに依なり号とす尾陽雑記ハ勅使押ハ的中納言尚爲卿より終ひて千眼先寺と勅号とす云々

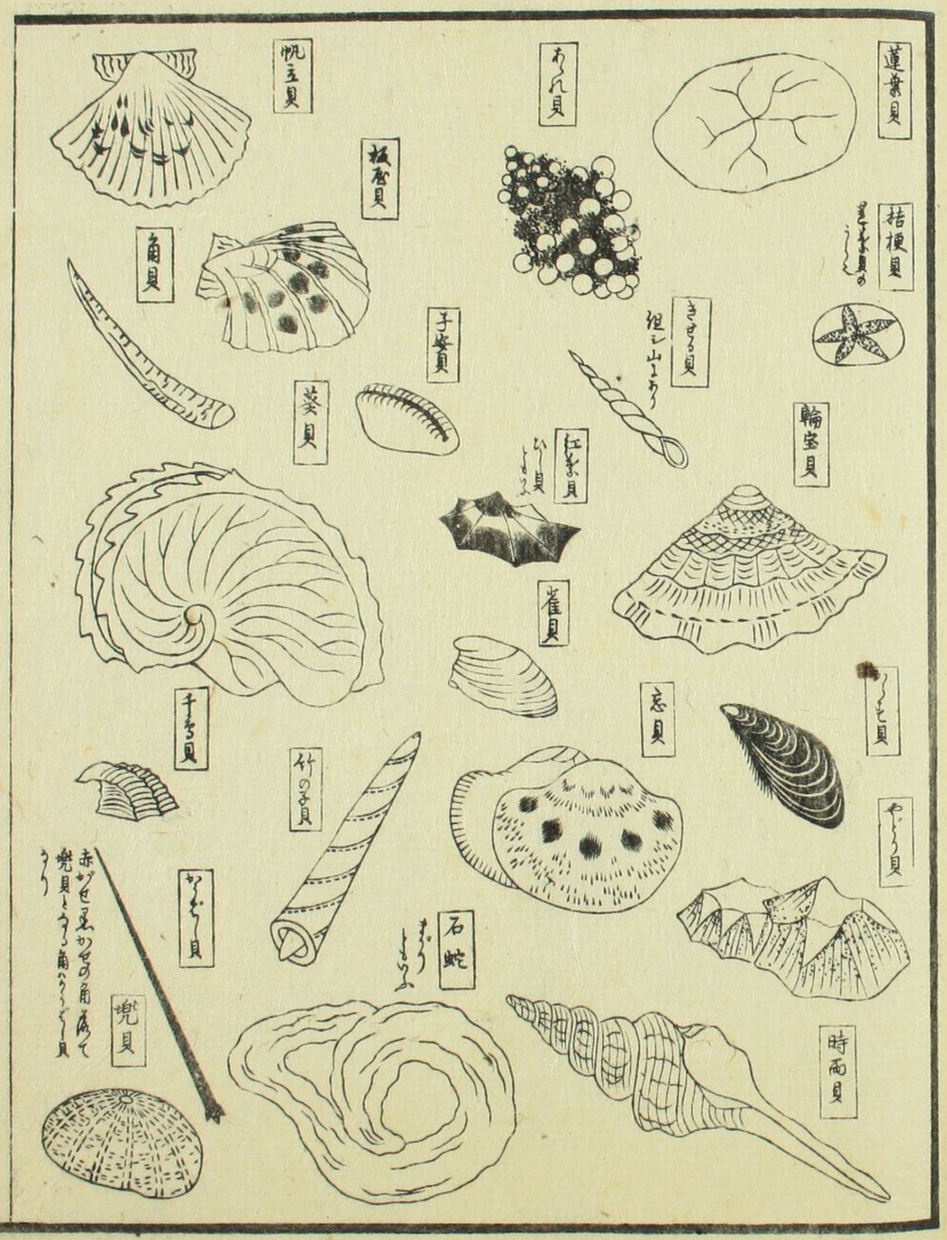
基善薩とん〻 **開山**〻と 本國名勝志に岩屋千眼先寺須佐掃部助長治等創と云 **永享九年**己巳 **亦災**に記録ハ焼亡すと云へども **弘法大師**曾て此地に来り清浄の密場なるを以て百日の護摩を修し正観音の霊像と巖穴ハ崇りなるを則南に奥の院を建て女人結界の格と架し此所と女人の拝ハ寺之五年九月秋九鬼大隅守寺宝と奪ひんとて堂宇ハ火をかけ遂に焼

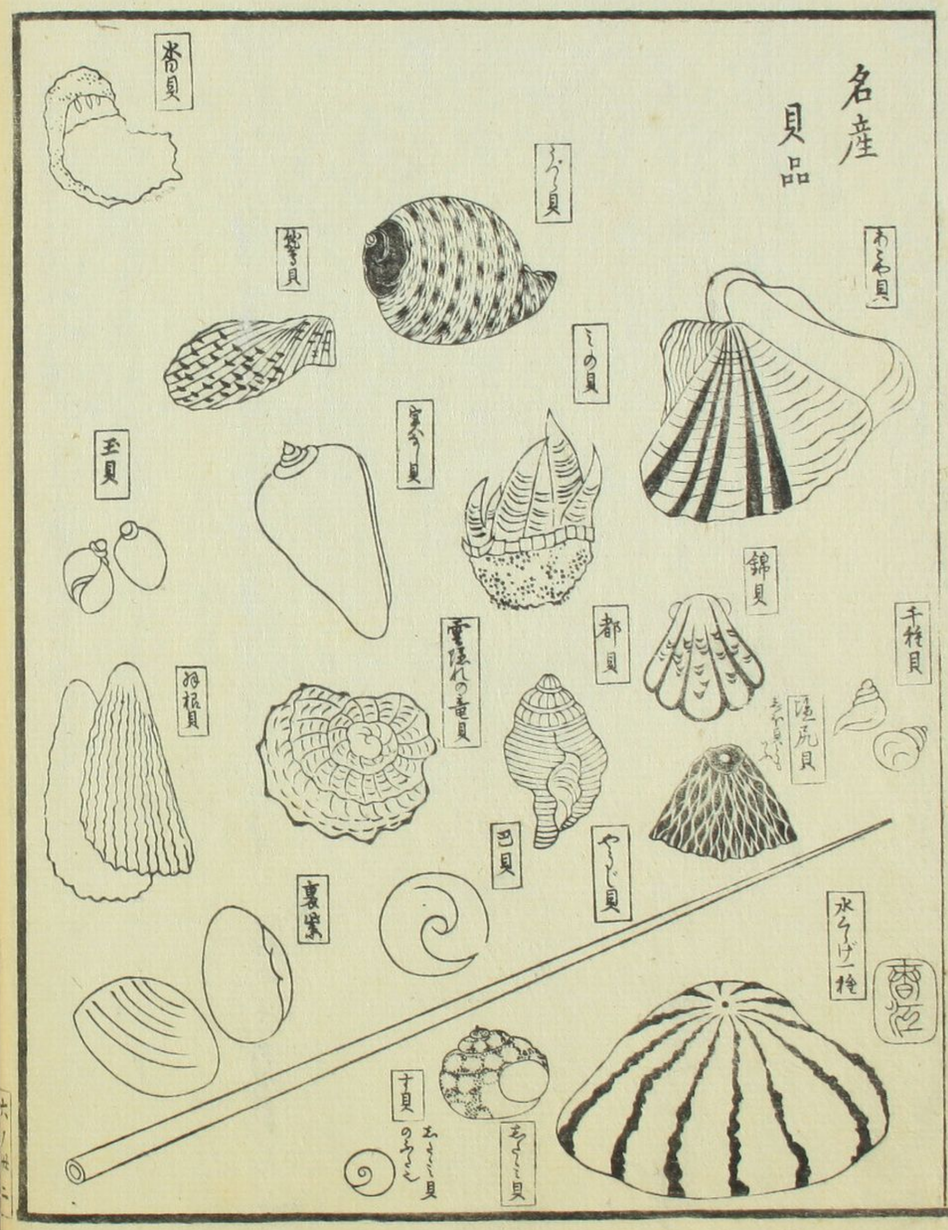
止ると雖痕今も拒ハ残り往昔ハ十二坊ありて南を堂
宇と称し頽廃し今絶ハ五坊のみ存せり中坊橋坊
谷坊南坊杉坊是なり

○本尊

千手観音ハ文殊井の湧泉に浮 **檀金**の造像にして唐の楊生処の作ハ霊験度々ら大海の衆生救度の為一体作者なり南方に巖窟の霊場なり法井新田の清浄界と云へり近世南那八十八ヶ所の札所と定り三十一番目なり

土像 弘法大師の作 **涅槃像** 北殿司の作 **紺紙金泥法華経** 伝教大師の筆 **寺宝** 宋板の一切経 嘉祥 財政光宝 住三年の寄附 **阿弥陀**
陀経同心経 中将姫の筆 **役行者錫杖** 一枝 **此外三十余種の奇品あれ**
ども略と 文化年中宝海律師資財と称し本堂及び五百羅漢の像まで悉く安堵し庭生結縁の方便と
石を以て彫刻せる佛井 名ハ豪術 南方に位せり数多れ
ども今ハ枯て苔むせり 又律師ハ近世の名僧なり
師の功徳も廣大なり 及び儒学ハ書画と善せり著述ハ書多し
久須天神社 相村にあり俗に八幡と称し本國帳に 従三位久須天神と云へり **摂社** 橋太宮社 厳神社 山神社ハ村ハ
伊勢山 東端村ハ村ハ山ハ岸ハ険しく巨石多し 蔡れ海漢に巨石多し 天照大神 戦に擲きも


蓮葉貝
ちりん貝
帆立貝
拍板貝
角貝
桔梗貝
子安貝
きさご貝
葵貝
輪宝貝
紅葉貝
雀貝
千手貝
忘貝
竹の子貝
石蛇
時雨貝
蜆貝


名産
貝品
皆貝
ふご貝
鶯貝
あこや貝
ミの貝
宝ら貝
玉貝
錦貝
都貝
千枝貝
海根貝
雲流れの竜貝
陸瓦貝
巴貝
やしら貝
裏紫
水くげ一枝
十貝
ちさご貝

[illegible]石[illegible]に[illegible]石[illegible]に[illegible]玉[illegible]に[illegible]玉[illegible]に[illegible]玉

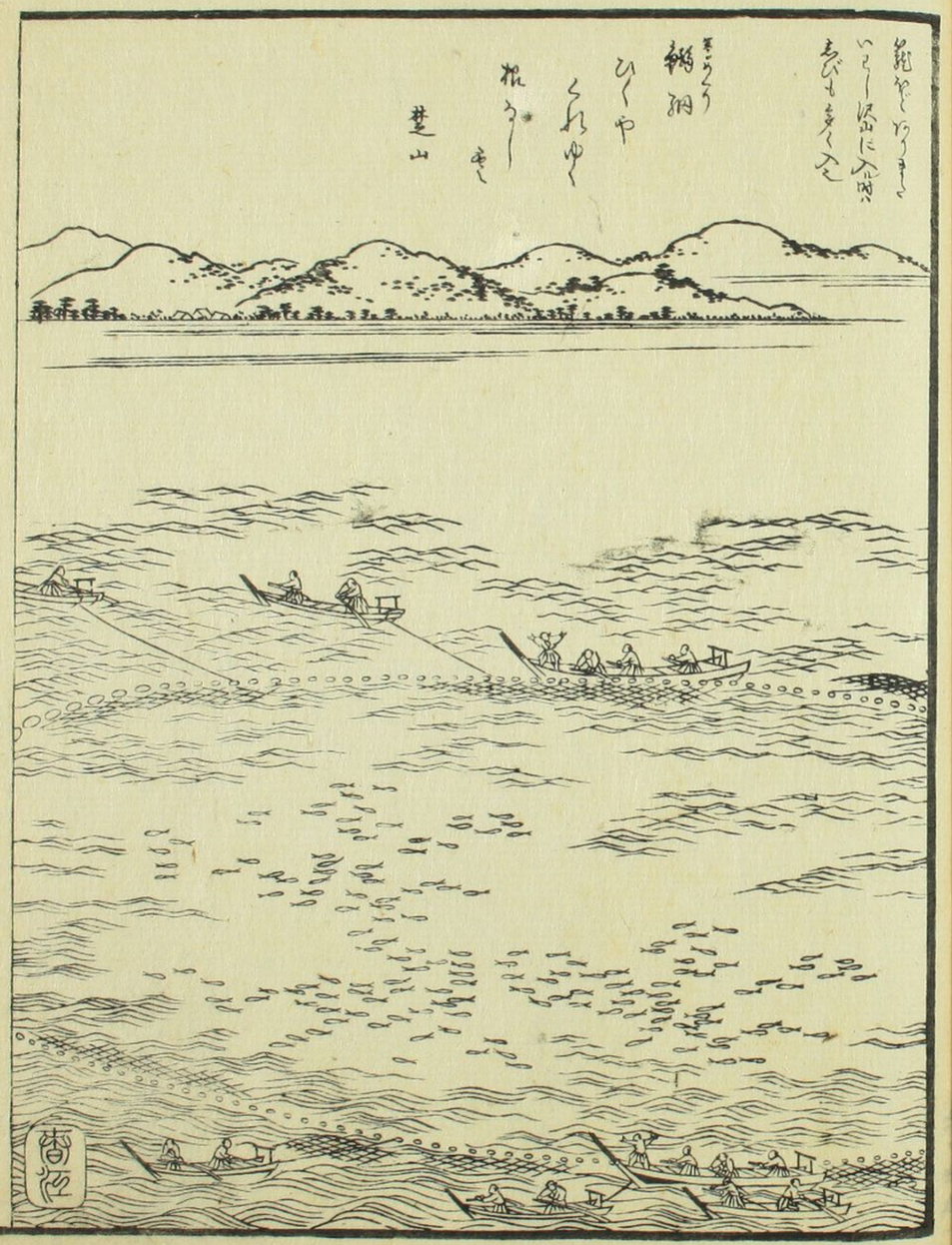
内海浦鰯網

鰯網は五月より十月迄海に有る一網の人数百人船数十九艘と伊予大船二艘網は二艘船は二艘サイトリは十二艘と合せて大網一艘しゝ網の大サ長三百六十二尋巾六十五尋ばかり海上の漁父のお暮ゆて奥の多ゆと知り俗しゝあしゝおろうろ知奥網へ入て始たゝり網奥ゆたゝり入しゝ少々しゝ知て奥と大船へ引き込夫より五寸入の船しそサイトリ船へ乗る大船一網ハ千三百

網をしけるまゝいろ〳〵品に人間多くも多く入る

鰯網

ひくや
くれゆく
船うら
楚山



井際山持宝院　馬場村にあり志賀寺ともせ村万徳寺ま

当所中世頽廃して只観音堂一宇のみ存せり寛正元年庚辰

金子いつる備前走して今の寺号に改むるも今も往観音

堂を小倉と呼び観福寺と称す　又小倉と云むし仏法大師加持のいて湧

あり　東の井　今も山かにあり　さて数百の石塊と登れば観音堂

糸いふ井とす　又境内及び近き山々に桜机数多株ありて

春花秋紅雲ふまじい高と歌く風糸はさらぬ　憂怨動揺

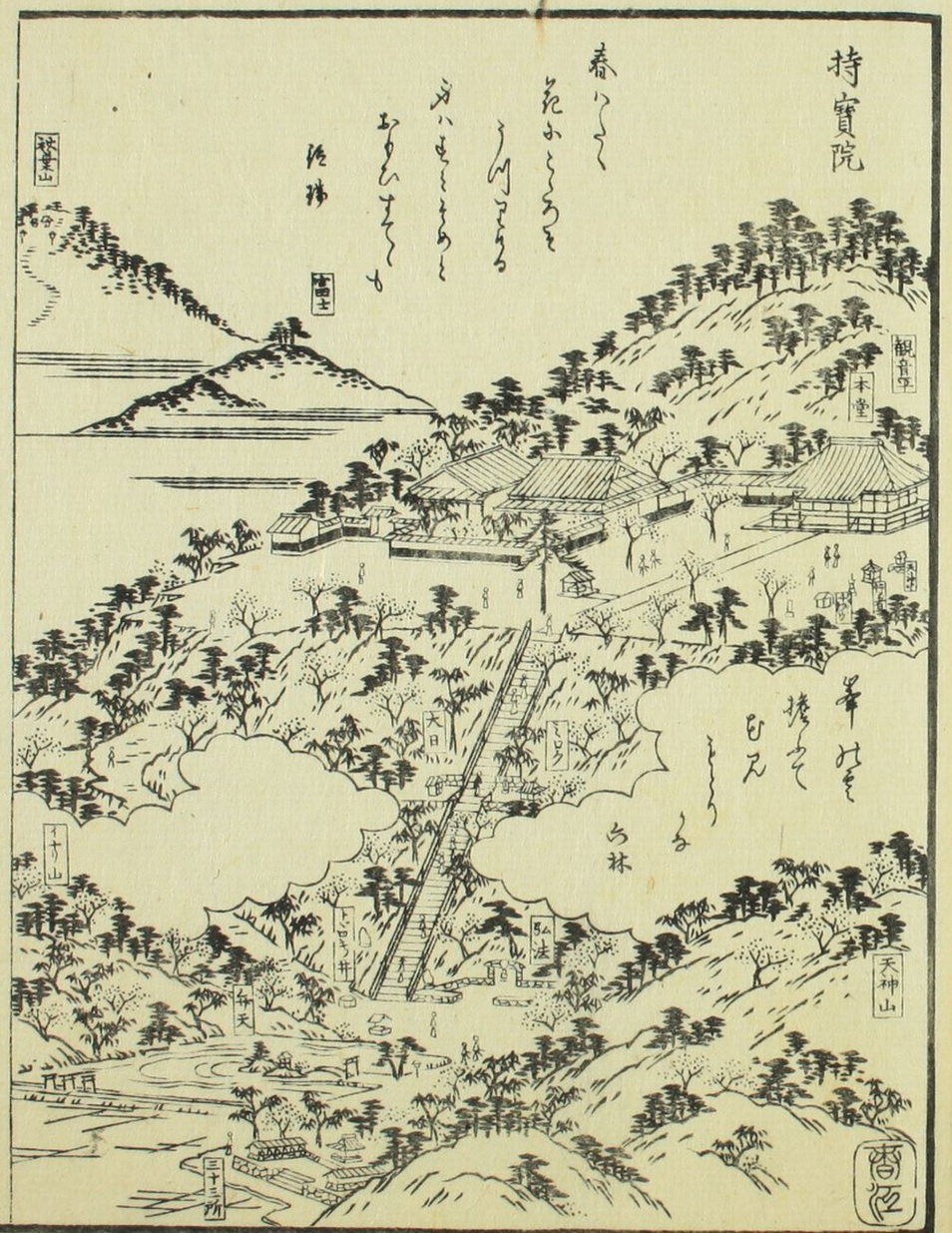
もる画図のして実に絶倫無儔の絶地と中ふと観音平

いろう山ぞいつるハはか十倍せり　○鰐口　応永二十二年の銘あり　救世尊額　晁文閣の手

春ふかみ　ねの雲ハ消えもしくふりよりつる花の雪　栗田知周

山ざくらてやうん桜花　流れこふちせる　鈴木真実

美事ふりやて花の細くきいそん毛とさて　大橋直亮



あるにあらずかの家路ふかちる花とけうちおくる春の山風　活田柳陰

秋葉山

田村にあり苗那西浦中一の高山なりて眺望の風景も他にまさるなり
中古山上に秋葉の社を勧請せしよりかくはなはだ高くはせるなり
ちなみに村は山上秋葉山をうつしたる山なりこれきまる者
を偽りて雲門に入るなり東西の街道眼下にあり
南山の村里草鞋にさわる斗り
八郎平　八王の御跡小まんの事

竹有

金王丸足跡石

田村の山中にあり古くより伝へられども今彼石を焼
けり石といふなり侯に焼捨てしふ所なり
多く時忠殺思ふ中に金王丸近侍せバ大臣の妨をなんと奥様にすすめ
いりむされば金王丸行方なく渓也にいたる
迎にも逢中老婆に問ふ金王丸
丸怒怨に堪へず老婆とともに彼老婆急作して石となる
丸の浦ほけ一石と足跡石となる
流大神宮ちの伝説も古跡なるべし
松井田のもにあり者大臣れ足跡石の説のごく
俚語に似れども来由久しきまこと小ちなり

入見神社

中々村にあり五男三女
と多くあるに八王子と称す

式内入見神社本國帳に従二位入見天神と号す

社前に古樹一株あり唐木なり
ようにて名詳なり

祠官

市川氏

摂社

白山祠　熊野祠　洲原祠
敏神祠　大将軍祠　金毘羅祠

例祭

八月十七日
試楽棒の子
行列ホあり

内海十六村の本土神にして延喜

式に

姥ヶ石の古事

龍海山性海寺 同村小字曹洞宗三州萩村珍原寺末永正五年戊辰佐治重位ちれ美剣小字てを〻寄郷村小字〻と文禄元年壬辰佐治備中守為縄令れ地にうつ〻猪子九郎兵衛吉重法名勢雲徳威の為小伽藍と加へ〻勢雲寺と改号ちしかるとび旧号に復し佐治代〻れ牌子ちう

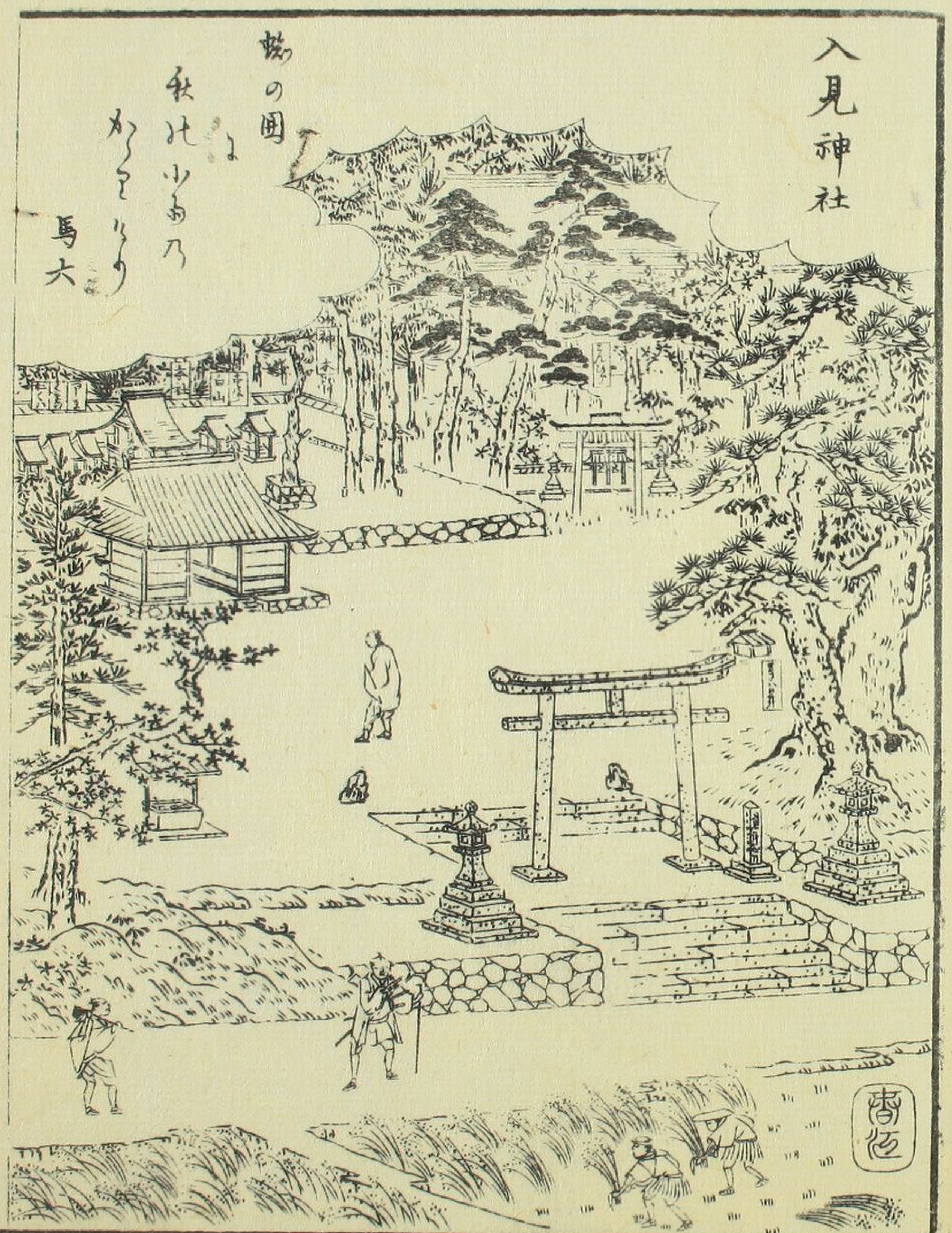
本尊 釈迦の木像 寺宝 鞍鐙 佐治備中守ちのおの所にしてそなへ寄ちへ寄附す

富具崎 細目村にあり石磴回旋懸崖突兀〻て漫〻たる波浪に洗み流時に女碍の如風多し 尾張風土記残編云此山諸木欝〻四時為緑西崎嶇臨海東岩壁洗潮天清氣朗則勢州山岳在一瞬中云云 最〻その風光を形容せり

富具天神社 同村小字俗に風宮と称す素神級長津彦神本國帳小従三位富具天神と称す是〻清産の年記詳なり波永正六年己巳当村の城主緒川氏之を再営と称当社八海岸絶壁の上にあり〻〻往昔此船舟氏社前小玉ぶ多必帆を飾りてゐきしそ是氏神と崇敬ちる所なり和名抄小も富具と称れば此名のきゐ〻ちへ〻〻

○ 摂社 神明祠 多賀祠 天王祠 楠祠 八幡祠 恵比須祠 船玉明神祠 魂神祠 山神祠 富士神祠 等多〻 村小字林ノ内に多〻 例祭 正月上午の日水戸系〻〻 村民林ノ内に多〻ちる所なり 六月十六日祇園会あり

大御堂寺（柿並村にあり 真言宗 当地万住寺末）当寺所蔵の天文三年甲午三月九
勅進帳ニ 白河院の御建立義暦年中草創ありて東澄
小文治二年閏七月廿二日前廷尉平康頼法師浴恩澤可為
阿波國麻殖保々司（元平氏家人散位）之旨所被仰也故左典厩（義朝）墳
墓在尾張國野間庄無人于奉訪没後只荊棘之所掩也而此
康頼任中赴其國時寄附水田三十町建小堂令六口僧修
不断念佛云々仍為被酬件功如此云々とあれより或ハ
白河院の御宇既よ此寺ありしこと志るくと康頼別に
一堂を建るとみえたり享禄四年十月十三日兵火に焼失し只
大御堂及び楼門のミ存せり天文三年甲午三月伽藍を華
修せしと覚ゆ五年の秋九鬼大隅守当寺を侵掠せし時坊舎
を焼拂ひしより頽靡せり近年重修して又旧のごとく堂宇
儼然たり 抑平治元年己卯十二月左馬頭源義朝京軍の為に



入見神社

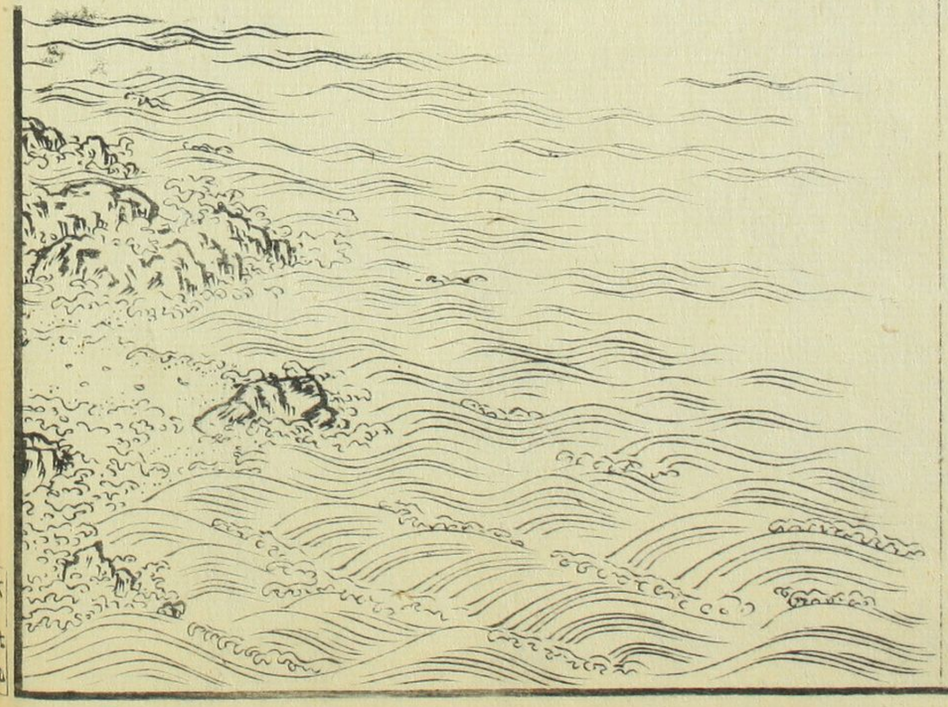
内海富具崎

晁文洲

暫厭塵囂累言尋
物外遊蓬琴倚怪
石載酒望行舟万
壑既鋪雪千林早
謝秋幽賞未云徧
唯見夕陽收

戸田壽平

望入南荒不見山
蒼波渺々遠連天
風帆幾片飛如鷺
知是東行萬斛船



森真齋

鵬雲飛盡大溟闊
潮送千鯨響若雷
參勢相歆恰似闘
銀濤百疊直排來

敗ふして濃州青墓の里者大炊が許ふ落ち走り東国へ下らんとすれとも大炊ハ慰ふとて年を送りもつふ
ふ上方あるべしとて多ゝ尾ハ海道ハ思ひ切るとて尾張乃
神官ふ知り里田と教むべしとていもがせるふそや宮の者共を
つけて二三百人押寄せり是をとんとう佐渡武郎夫捕重成討
死して通ふ命ゝとて馬ふのり寄せ者と敵に戦ひし
子安の森ふ入り左馬改義朝自害をるべし名のりて面の皮と
もぎ腹掻切て空ふ散りふるひひふ義朝ハ大炊が弁驚の
栖丟光と教ふ夜ふまぎれ小舟ふ乗りて揉瀬川を下て十二月
廿九日 終佛に廿八日 南西里田左馬頭忠宗 或ハ忠致が事に作る 山伏
ふゝ海田長政清 或ハ正清政家ふに作る 平賀四郎義宣 渋谷金王丸
及び丟光ともに四人と忠宗ハ普代の四家人にて ともも政清が
舅なれバ君臣ともに心解て 弾ふ有べきゆゑ忠宗

外ふハ崇敬の礼と厚ふ義朝と書院ふ請じ直隠居の壮士と
共ふ別るに懇ろ酌ふハ山海の珍味を集めて饗応ふ
夫ゝとして人ども内ふハ竊ふ逆意と挟ふ主婦子景致 或ハ義宗ふ作る 式
一ト方ハ招きつゝ方ゝ六波羅殿より北御教書ふ義朝と討
て進らせなバ勅賞ふ与ふの御使ふ来るべきよし ちらぐと語るバ家致
迷ふ思ふ ふ方ふ ふもあれ我君見よ ふ方ふ
ふも平家ハ栄勢豊ふ上ハ必定人ふ ふんとも吾ふ御
首を討て平家の悪党と為永く子孫の栄華を
せんとハ素懐と密談ふて君を武勇猛威の名将ふ
ふせバ小勢ふ ふ ふも討ん ふ大半と十余騎ふ
湯殿へ ふ入りてその内舞の政清とバ ふ
ふ答すべ ふ付ふ ふ少ゝ走ふ ふ景致妻戸の陰ふ
待合せ彼と斬伏せん又楢七郎ハ安房の大力ふれハ組ふ

弥七郎及び浜田三郎は遠藤の武者なれども、さし数まうせよと密かにうごかせ三人と、床下に忍び出でき時は正月三日忠政義朝の供に侍前に参り此道をぐられ侍ふ共と休みたまへ湯殿にうつるべしと懇に申さるれば彼方に湯殿に入給ひぬかくて金王丸は侍刀を抜き個候せしが程ふまじき侍法衣着せ共諸共に持たるに隙に床下より搦七郎彼方に組付と義朝さいなむ所を捕て押へ膝の下に踏敷き弥七郎浜田三郎も左右より抑へかゝり安二安三に脇のかと刺通らぬ内政清はみきり金王丸に切ひもわへど終に寄せ切りて侍首と切取り本国の忠に渡して有る所を金王丸は彼方より三人もに湯殿の口に出て斬伏せ政清は夫も忠家がとゝゝ

行年三十八

所にうつゝ妻戸の陰に隠れ渡けるを景政遁さじと一刀に諸搦斬て討伏す

行年三十六義朝と同年く最後の始末に法皇ゆれ書す

玄光も既敵の討を知ひしと少てこは政清が所為なりと思かひこみ走せ出るに政清もやゝ討とゝ少くきこは出田と云て討んとて金王丸と二人ともに乳母ゆて数多れ敵と斬て出り

乳母は田上と出田が宅のるふわり

出田と云るとても又子文ふ尺えざれバさてハ侍首と持く上洛しつゝ遠江の国とて庶よ入く馬二疋と引おゝ寄て三度嘶へ出さ〳〵て見よと呼りるとも意矢ゆ射うけるの〳〵敢て近くこの玄光も大音に我今六十三才軍に金王と十度いまゞ一度も敵に後と見せじと逆馬に乗て独りき終に引のとに出まうゝ金王丸は郎へど上てるさて政清が妻かゝる夫の横死と少う走来り屍を抱きて大に悲歎し又の不道と恨つて終に夫の刀とれて自害せり

法皇美目わ見じも墨に かくて

大日本史
鎌田政家妻平氏長田
基司忠致女也平治元
年源義朝兵敗將走
關東路抵尾張野間
殺忠致家忠致戒義
朝併殺政家妻聞變
至其死慶哀慕悲慟
遂伏政家刃而死

義朝最後の図

其二

長田父子ハ池小源太ガ首ヲ洗ハレ先血ヲ爰ニ流シ又傍ニ下馬橋ト云フアリ義朝ノ廟所ヲ造テ下ラレシ橋ナリ今ハ池水ニ臨ミ門前ニ血池ト云フアリ

賞ヲ賜ヒ忠ニ清盛ノ表奏斜ナラズ重賞ヲ加ヘ給ヒタルヲ悪ンズ重賞ヲ彼ラレ号ヲ与ヘラル長田業ニ相遠ル相模守誅戮セラレンモ疑ハズ尾張ニ下リ給フ非道ノ父子ヲ誅ス天理ニ遠ヘリ先非ヲ悔イ義ハ分レリ

ハヤト棄テ免角シテ年月ヲ送ルヲリ新羽公ハ武威日ヲ追ヒ烈シク成リ給ヒ羽ヲ奪レ遠流ヘ流サレ已ニ所ヲ父子十騎斗ニ

ハヤ命ヲ惜マズ援軍ノ軍功ハ罪ヲ許サレ美濃尾張ヲ宛ラレ給フ

ヲ思ヒ出ル長田父子誅ニ臨ミ義朝ノ心地シテ敵ニ貴賤ニ徹シ拝州一ノ谷ノ軍ヲ忘レ敗ケ後戦功ヲ奏シ給ヒ然ニ新羽ニ

天下平均ノ後上洛ノ序ニ当地ニ詣ヲ相ラレ先考及ビ源田ノ石牌ヲ建テ菩提ノ為ニ大御堂寺七堂伽藍ヲ再興シ紀州ニ立ル一山ノ僧侶ヲ請ジ供養ヲ加ヘテ長田父子ガ

ハヤ墓ヲ引来ル墓石ノ如ク今ハ絶ヘタリ

礫ニテ埋ミ給フ

ヒケン

イニシヘ

ヲ

ヒテ命ヲ

ハイキノ

ヲ分ノ

ヲ

ヲ

ヲ

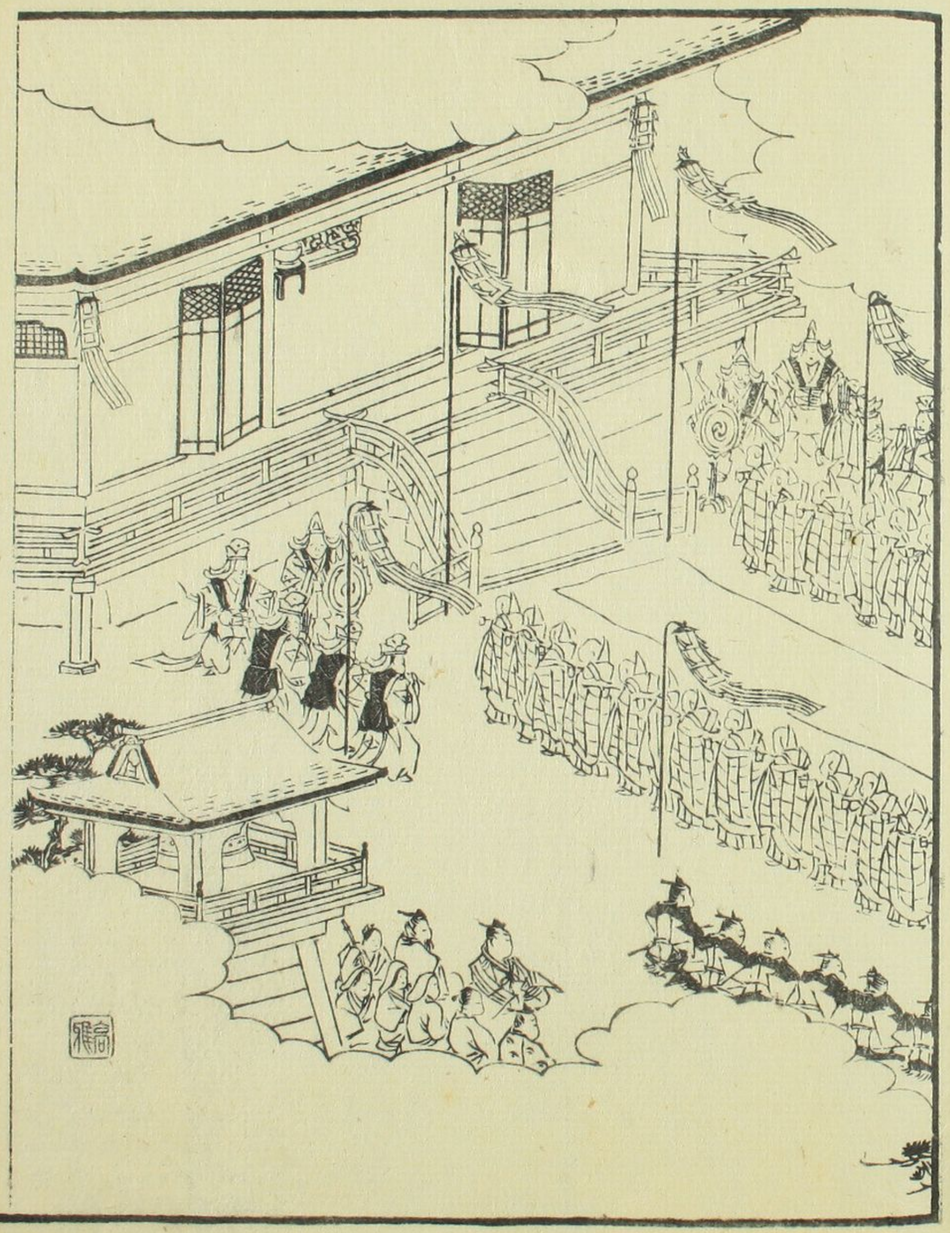
右ノ如ク書テ以ヲ一族ニ八幡田ガ辞世ト云フ一首ヲ記シテ小くまぬ者ハ

已上平治物語参考平治物語東鑑及ビ修行者ヲ参伍考訂シ仕ガ一ヲ異物ヲ

糸ヒ

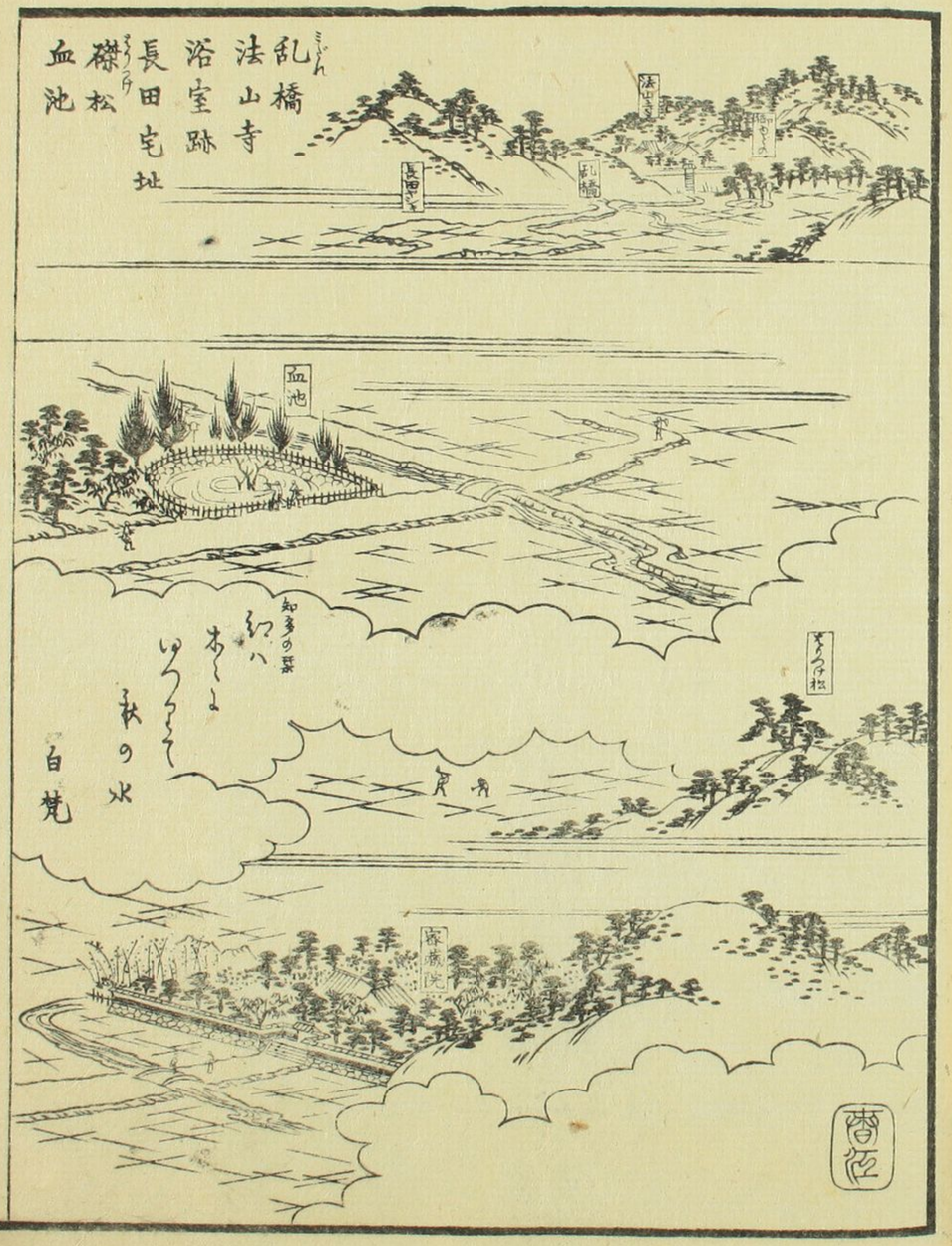
ヒ

ヒ



義朝公尊靈供養の図

東鑑
文治六年十月廿五日丙午
以尾張國御家人須細治
部大夫為基為素内者到
于當國野間庄拜故左
典厩廟堂（甲冑有事奉筆于山所云）
給此墳墓被掩荊棘不
拂薜蘿欽之由日來者
於関東遥令遣懐給之
處佛閣排扉荘嚴之
粧遮眼僧衆擂座轉
経之聲満耳也二品
怪之為鮮數氷被尋盤觴
之處前廷尉康頼入道寄
于國之時令寄附於水田三
十町以降建立一伽藍奉
祈三善提云云

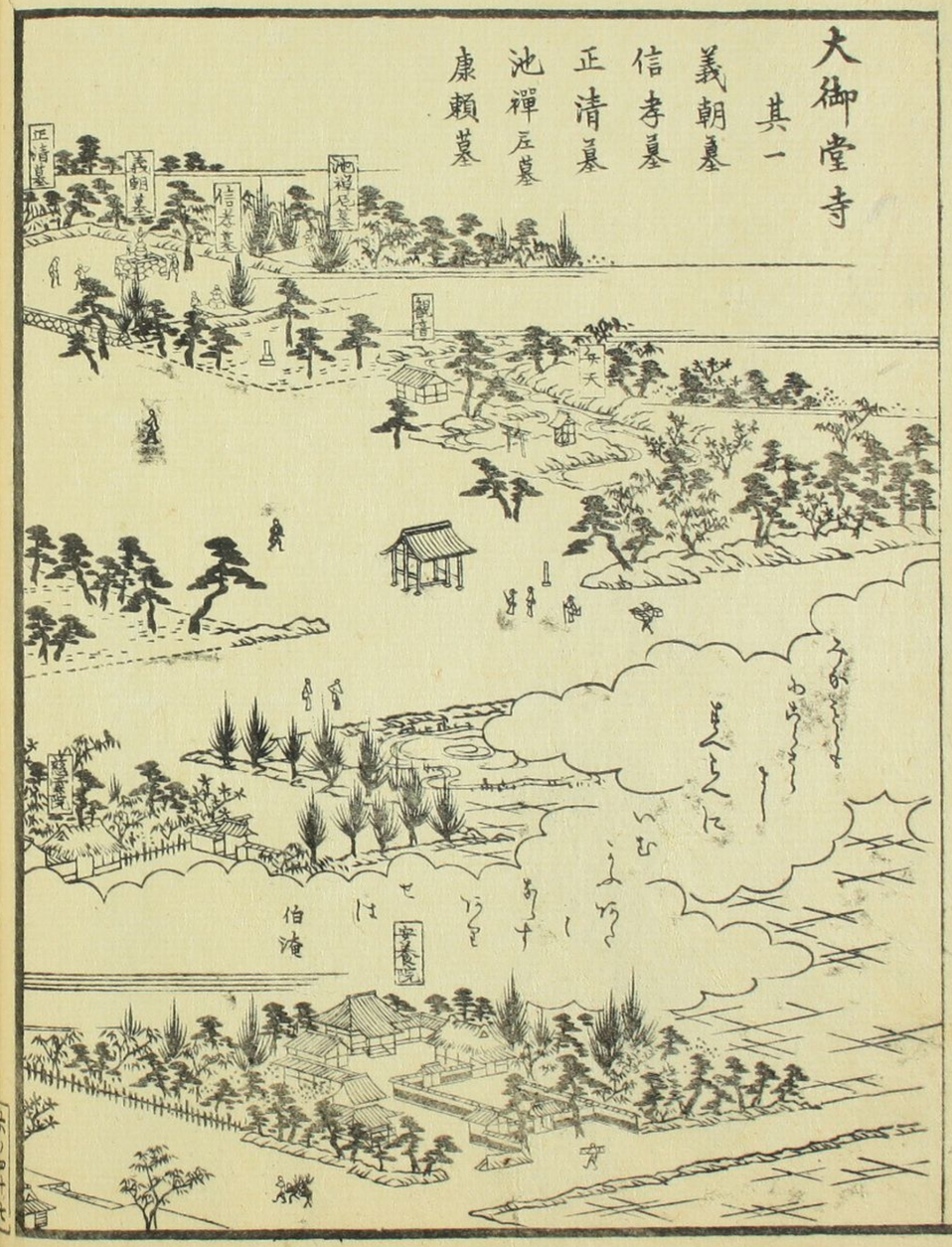


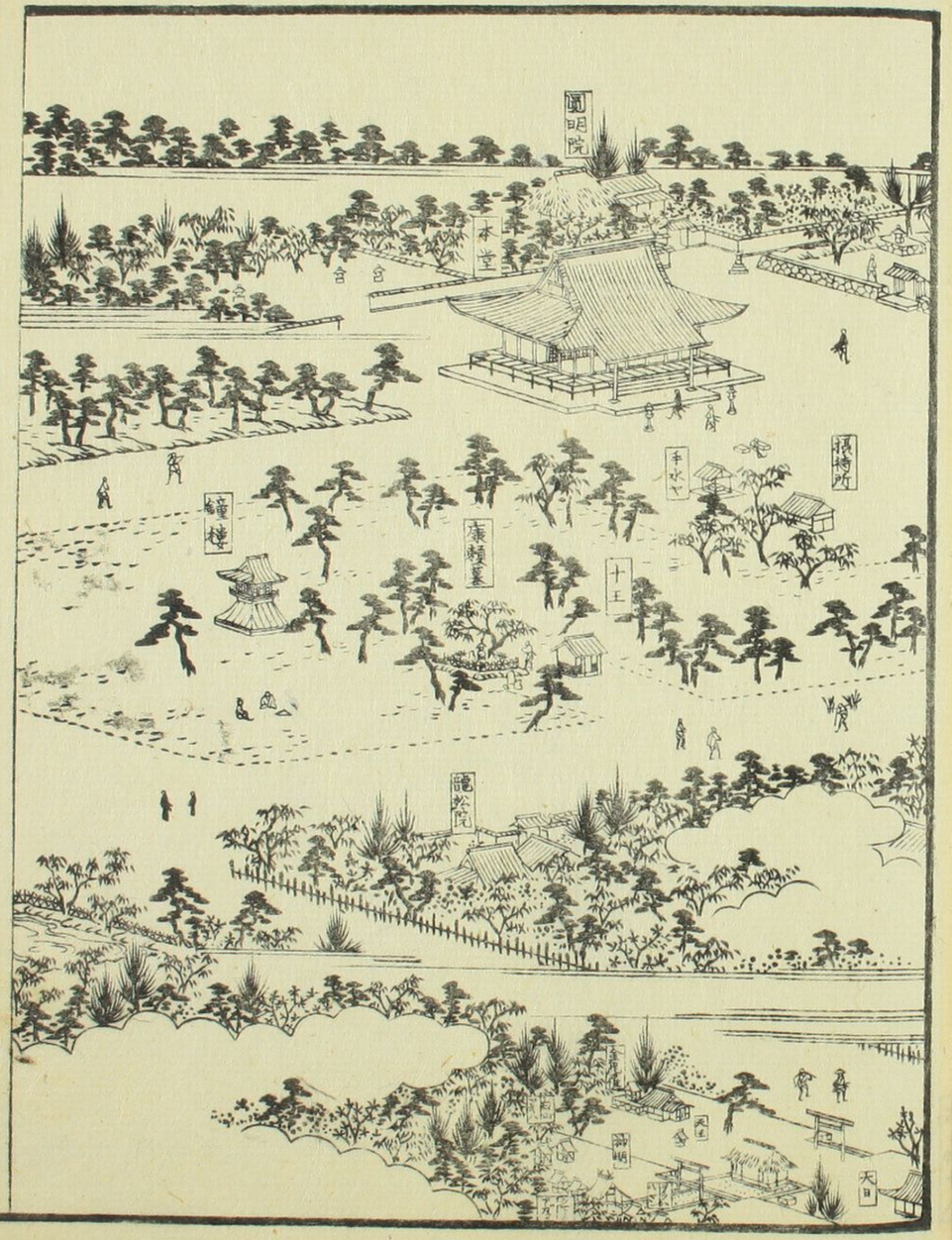
子実ハ既ニ奏聞ス 平判官康頼墓 山門の西にあり治承元年後寛法師
丹波少将成経等と平氏を讃ず
とゝろうるあるべくして鬼界ヶ島へ流されしが其途中ひそかに髪をきり名を性照と改め彼
島に居ること三年のゝち赦免に逢ひ帰洛の途中の双林寺に宿りて室物集と書せり又
丹後国の保司に任ぜられしが任中あるべき水田三十町を寄附し一寺を建立
し義賑の遺福とせり 少将成経寺僧に石碑を建立せり 池禅
尼墓 義朝墓の北にあり平治の乱に義朝の平家のために敗れ失せるべき所を平清盛
の継母池禅尼憐愛深く請ひ求めて命を助け出家して尼となし京都
に住ませ給ひ尼墓の上に鐘楼の亡息左馬頭家長
が祐佛と称せしが平家滅亡の後肉に一堆の墳墓を築き自ら八軸の妙典を書写して塚中に
収め尼の遺福の資にせり又義朝の墓をも尼公の所望により命を助け出家入道して父祖の菩提を弔ひ此等の
ことを物語るなり 大坊 大御堂寺一山中六院の巨擘なり 内殿の本尊は阿弥陀如来にして聖人
の彫刻なるべしと 聖人の像は紀に見えたり中興の法師ハ
大坂夏冬の陣に勝利あるべきを予言せり 南山僧紀に見えたり中興の法師ハ
神君ハ仏門なるもあれば慈悲を本とすべきなり 心のまゝに廉恥なるべき地を奪ひ先
仰ありしとかや 出典戦国の風に考へあるべきなり 簡廉等及び
小鳥の法華経を作て有司より下し給へり 実に不律乱世の中に次の伝説秀
国法師なりしが 神君不法のゝ事なりしかども 簡廉等及び次の伝説秀
波多廉の男と名乗りて法師の門弟となり
長田ハ水戸氏の人なりしに 神君の法華経を作て有司より下し給へり 実に不律乱世の中に次の伝説秀
を物語り 霊寶 故左典厩太刀一柄 頼朝公像一幅 長田忠宗弑義朝

大御堂寺

其一

義朝墓
信孝墓
正清墓
池禪尼墓
康頼墓



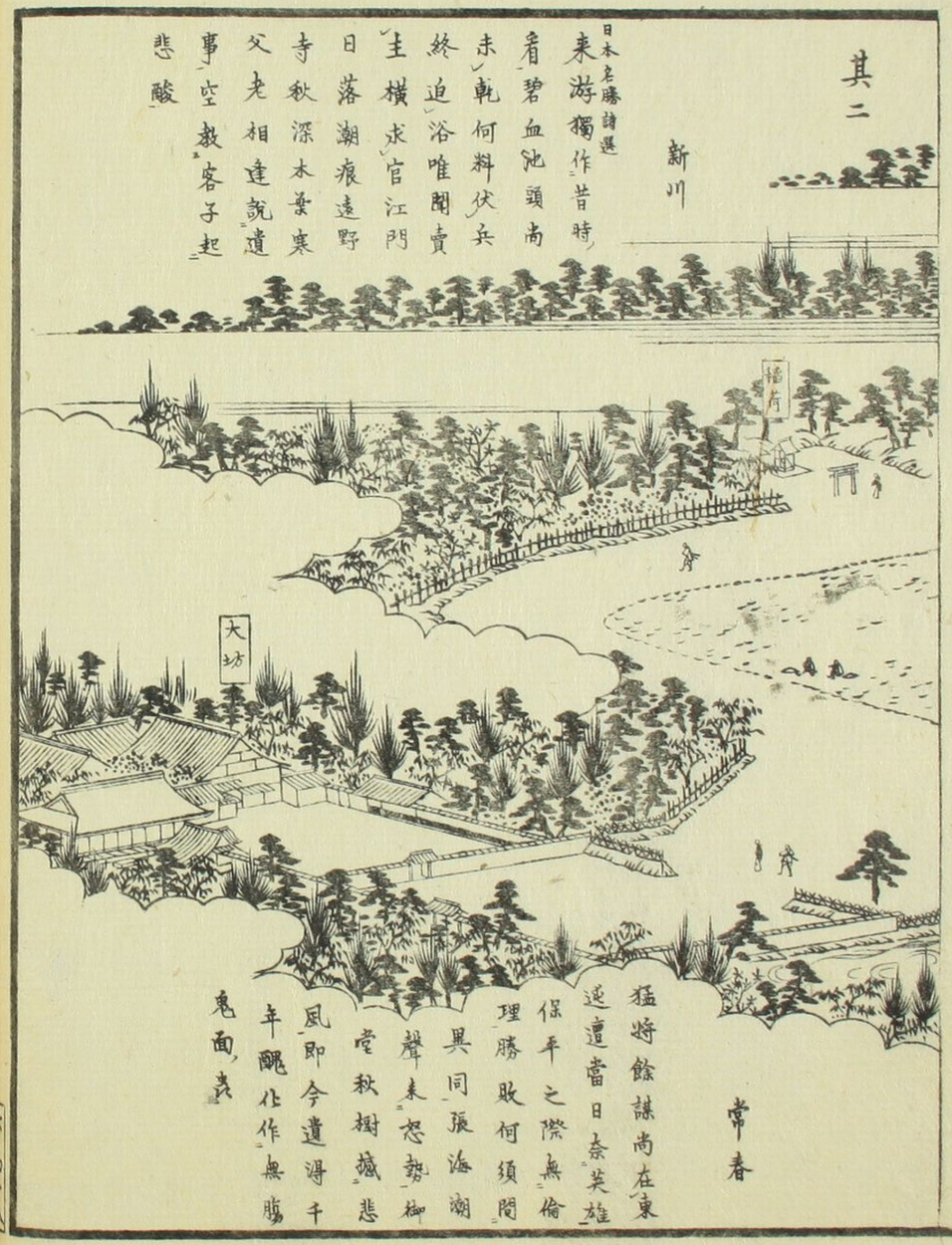


其二

日本名勝詩選

来游獨作昔時看碧血池頭尚未乾何料伏兵終迫浴唯聞賣主横求官江門日落潮痕遠野寺秋深木葉寒父老相逢說遺事空教客子起悲酸

新川



猛將餘謀尚在東
遥遺當日奈英雄
保平之際無倫
理勝敗何須問
異同張海潮
聲未怒勢御
壁秋樹感悲
風即今遺得千
年醜仕作無腸
鬼面表

常春

圖及大御堂供養式圖二幅

国祖君自ら書ひ給ふ

義貞最期の殘付り

神君洟漏の殘あと以て表見し旦

血池の染紙

往昔池水血に染まり今に傳へ紙と

安養院

織田三七信孝の位牌あり

て右大将平朝臣淨岸大禪定門神儀と云へり天正十一年癸未五月七日秀吉公の為に初めて生害あり未期に一首を詠ず

むすもとうみのせるれ

然ひとまてや羽宋流爲

一軸あり其賞三日夜

和夢到西湖月下見花思老逋忽有鐘声來呼醒

行一

舉頭半幅墨梅圖

樵嵓豎納永瑾題云

圓明院

鍾田政清が位牌あり

密藏院

龍松院

慈雲院

已上六坊あり

文集

大御堂中持善寺曾聞信孝避讎來寫懷歌詠思猶

雅辭別封書情欲推自割肝腸三尺刃獨留骸骨一

堆灰行人今日問遺迹竹雨松風声帶哀

阿部松園

狂濤拍岸晝冥冥知是將軍怒未停洗元池水依然

在潛血時飛陰火青

長田庄司宅址

大御堂寺と法山寺のある田中に畑あり

雲華山法山寺

同村の支村田上村ふあり

大御堂寺に屬せり

行基菩薩の開創にして夢想の師

本尊

菩薩の來大御堂寺に

伝せり

狀の雇州知多郡田上菩薩傾之事云々

文中の鈎り岸相接

郭

公ヶ服ちの谷にる島の地名あり

浴室の古蹟

法山寺菩薩堂の後ふあり

寺の乘下に詳し今古松樹あり

傍の陽殿あり

大御堂

遠く尋ねて探索に及ぶす

杉風の序文の抄

乳室山報恩寺

南更田村にあり曹洞宗澤天沢院末寺なり乳室貞晴
祖元の創建なり貞晴は播田政清の乳母なり
石碑今も寺内に存せり東海の野間報恩寺と云へるは今も俗に改名せり永正十二年雲岡と云ふ俗今は家に改名せり

武東

金王丸轡洗池

北更田村の地名の緒にあり云へれども今大きなる畑となりて僅に
其に侵す者あれば怨靡と祟むして里民大小恐れとなるなり今も尊信あり
もと付近地にて轡を洗ひし所なりと云ふ又鶴と絵一面にて寺内に平地少し

長田蟬

せるれ沙漠に生じ甲に人面のめき紋あり是を長田の蟬と称す
附の怨魂化して蟬となれり里人もこれを蟬譜にいとり庫
場にて採あり沙村場と云ふ西沙少し武文場と云ふ
ことあるなれど天也田の跡迄と疫人口にかかて後世にも悪名を残せり
あるんなるべし
ちしむべし

名小流

薄とたのもうさ

長田蟬

大庭

野間天神社

上北名村にあり本國帳に従三位野間天神と云ふ是天孫本紀
小宇摩志麻治命十三世物部金連公野間連祖也と尽えり寺内
森林繁茂陶として
頗る大社なり

廣石天神社

廣目村にあり俗に廣地と称す本國帳に従三位廣石天神と云ふ
是も又此地に昆沙門堂あり是古は伽藍なりて一乗山廣目寺と云ふ
寺内の神宮なり
寺も年中にも御垂廻ひしなり

大谷洞

大谷村にあり海岸崩れ岩洞
陸奥小樓角れ碁石に似るこの布くが如し土人これを大谷れがけと
云へり是て此地は沙時と尺合なく沙漠と称す本来は水海なりは
上の山へかりて寺戒を山沙崎岨小して去ると迂を云ふ

御嶽山高讃寺

西阿地村にあり天台
宗也田密義院末

天武帝の勅願にして七堂伽藍の大地なりしは

三百坊ありし

文禄の兵火にかかりて悉く灰燼に帰せり

長祐と云へるが再興して堂及び大門を建てこれ八院あり

又寺院失して南北坊一院のみ残りて今は寺院と古は伽藍

の跡は今も大きく田畑となり

床島

宗頼の廉後孝子は南北に入る又宗祇の方角抄には内海を又西に近き
ちなり是今は床島と云へり是は床島と書き也古く永正
四年の宗長の宇津山記に伊勢多氏に一日連歌を七月十七日に大湊まで行て尾
張国熱田郡寺津と云ふ津に渡るこれは床島は海の中にて寺津まで急ぎ
行くこと紀しこれは床島は海の中にて寺津と云へる宗牧の東国紀行にも寺津まで急ぎ
渡るなれば海の中に渡りたるなり

本尊

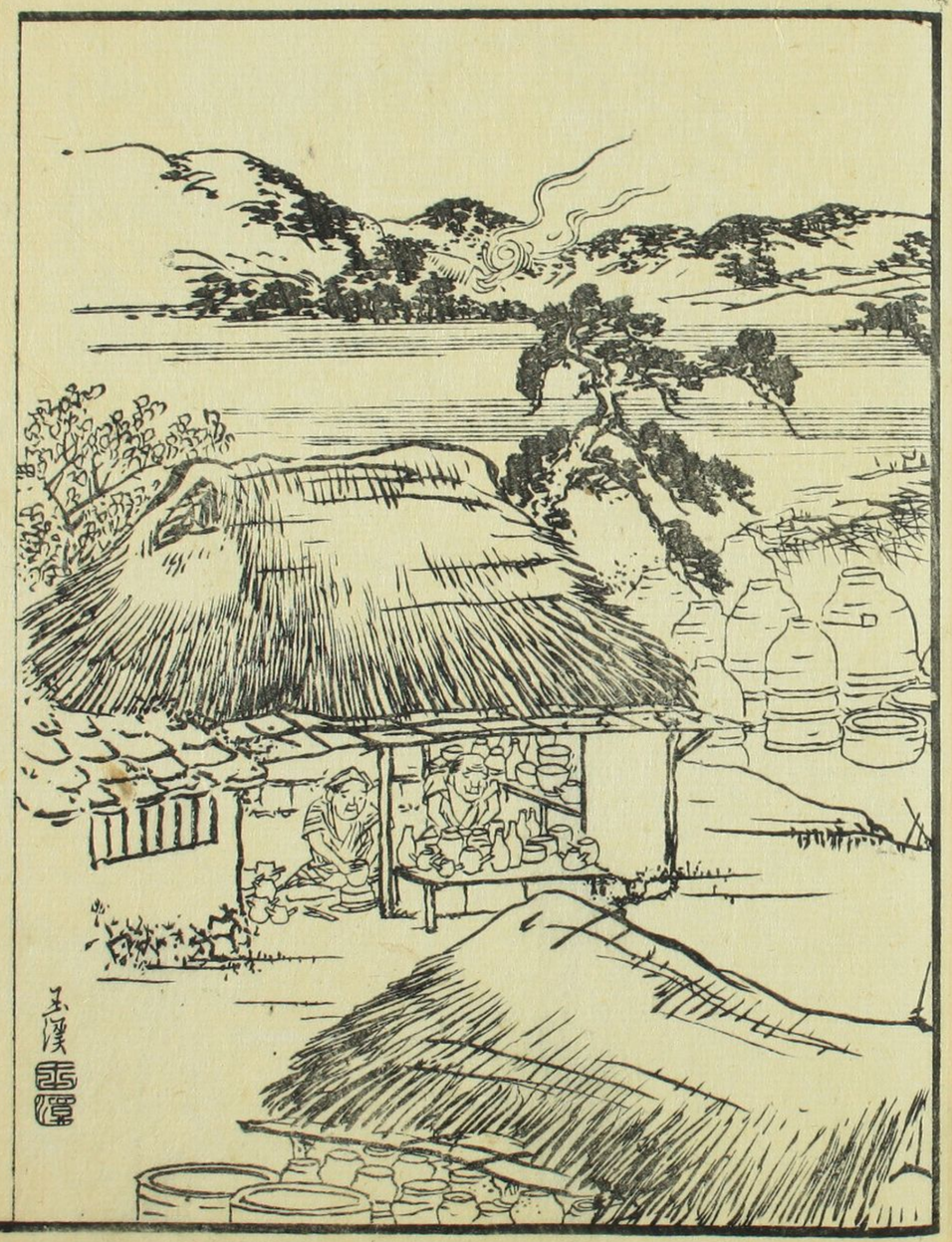
聖観
音

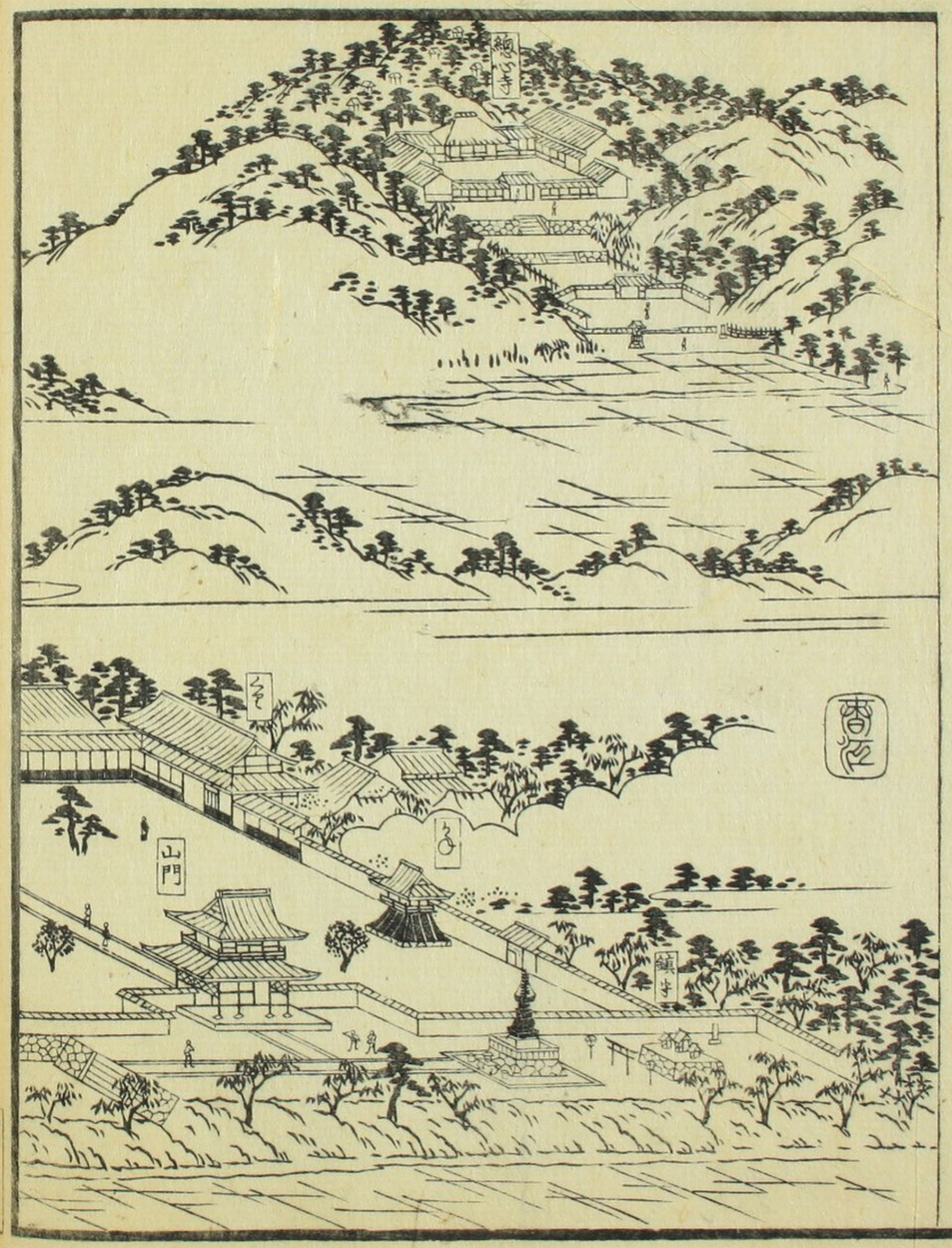
○

本尊

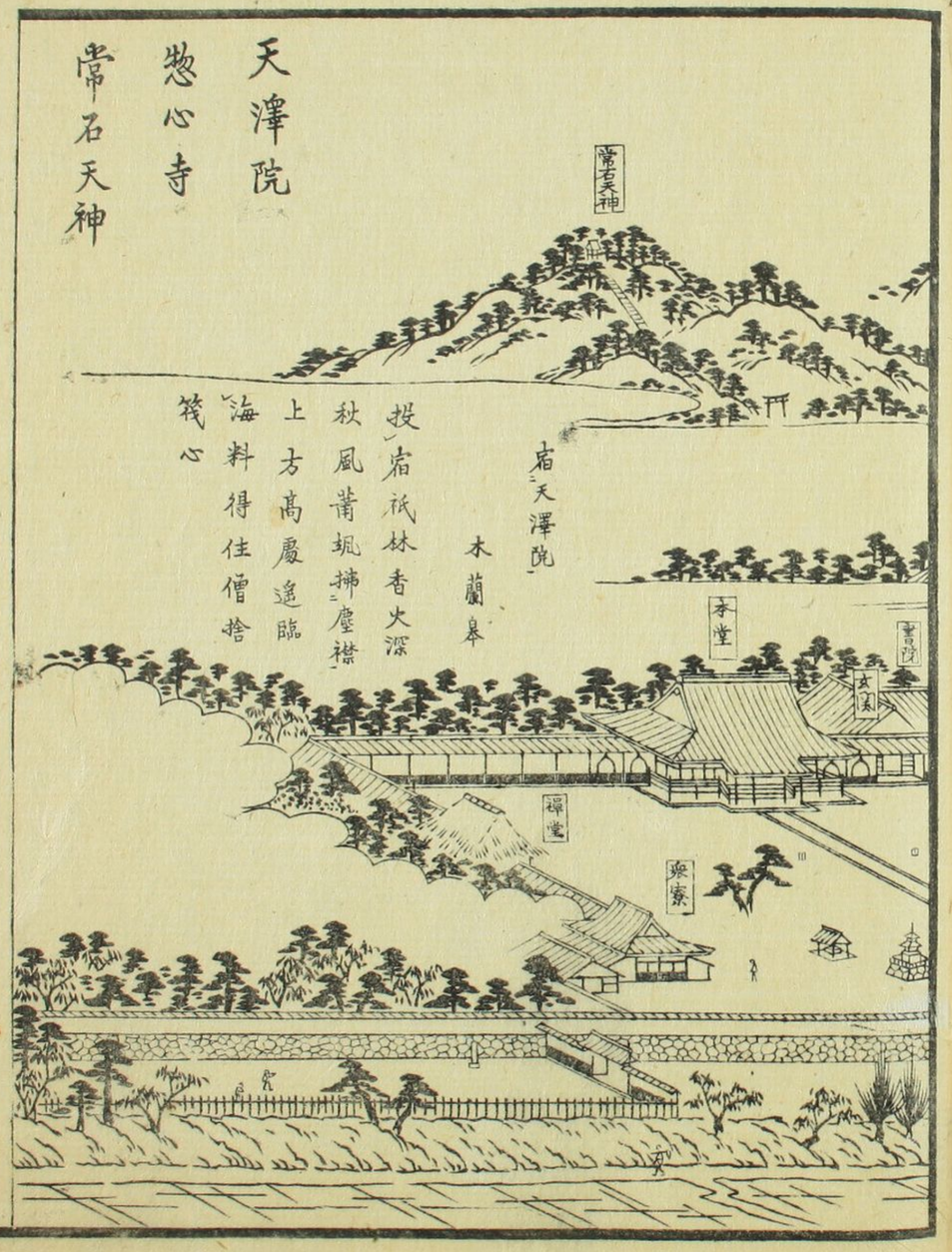
聖観
音

常滑
陶造





天澤院
惣心寺
常石天神



宿天澤院

木蘭皐
投宿祇林香火深
秋風菁颯拂塵襟
上方高處逸臨海料得住僧捨筏心

常滑焼 常滑村にて製する所の瓦器酒壺花瓶及び茶器の類をいふ世人是を常滑焼と称して貴ぶ

古へ尾州

陶器と多く出せり延喜式朝野羣載に見えて古へ

朝廷に貢献し尾村は即陶器窯を築て陶器の地と今の世俗陶器と呼

て瀬戸あるいは尾州春日井郡瀬戸村に作る所の陶

器上品にして天下に普く流通し焼物多し

でうべくかく通称するなり

武州に瀬戸あり世に称れ天下に弥倫せり

今も此地の山中と城崎に古へ尾州は海も近けれ共瀬戸焼は

器を作ること多し是昔焼しものの地中に埋まれ全きもの

を稀に掘出す金きと得べし世俗珍玉のごとく珍重す

尾州にて造る所の大小共に竜の形をなしたる百年を経たる

を作りの急焼茶器酒器をもて焼おいて好る象の求

めに応じ中古も近き頃は三河及び白鴎俗に八兵衛

名工かるく出でこれ人之をもて白鴎亀の香合と作

りて後小路大納言有長卿之を称賛せり

老松浦なる夜の浦人はつくるる亀の年も知るべし

と詠じて賜はれ爾に白鴎は近世の名工なり

万年山總心寺 常滑村にあり曹洞宗法名方懸郡河村園成寺末 元和元年花影總心禅尼 天外は則總心禅尼の子 浮尼は水野千代寿の女則水野監物の後室也 の創建にして開山は天外和尚なり

寺院は 国祖君御参詣なり又後園は山に西国三十三の霊

場を移して観音を安置せり ○本尊 秘迦の木像 霊宝 神君御直筆の御書簡 大猷

寶壺山天澤院 同村にあり曹洞宗 緒川村乾坤院末 尾州に周鼎和尚にて創建

の年月詳なる ○本尊 十一面観音 尾州に周鼎和尚にて創建

常滑城址 同村にあり水野監物直盛の居城にして俗に常滑殿と称す今は田園

亟なり後にて三郎と云ふ宗教の東國紀行に常滑まで急き行くにやて水野監物

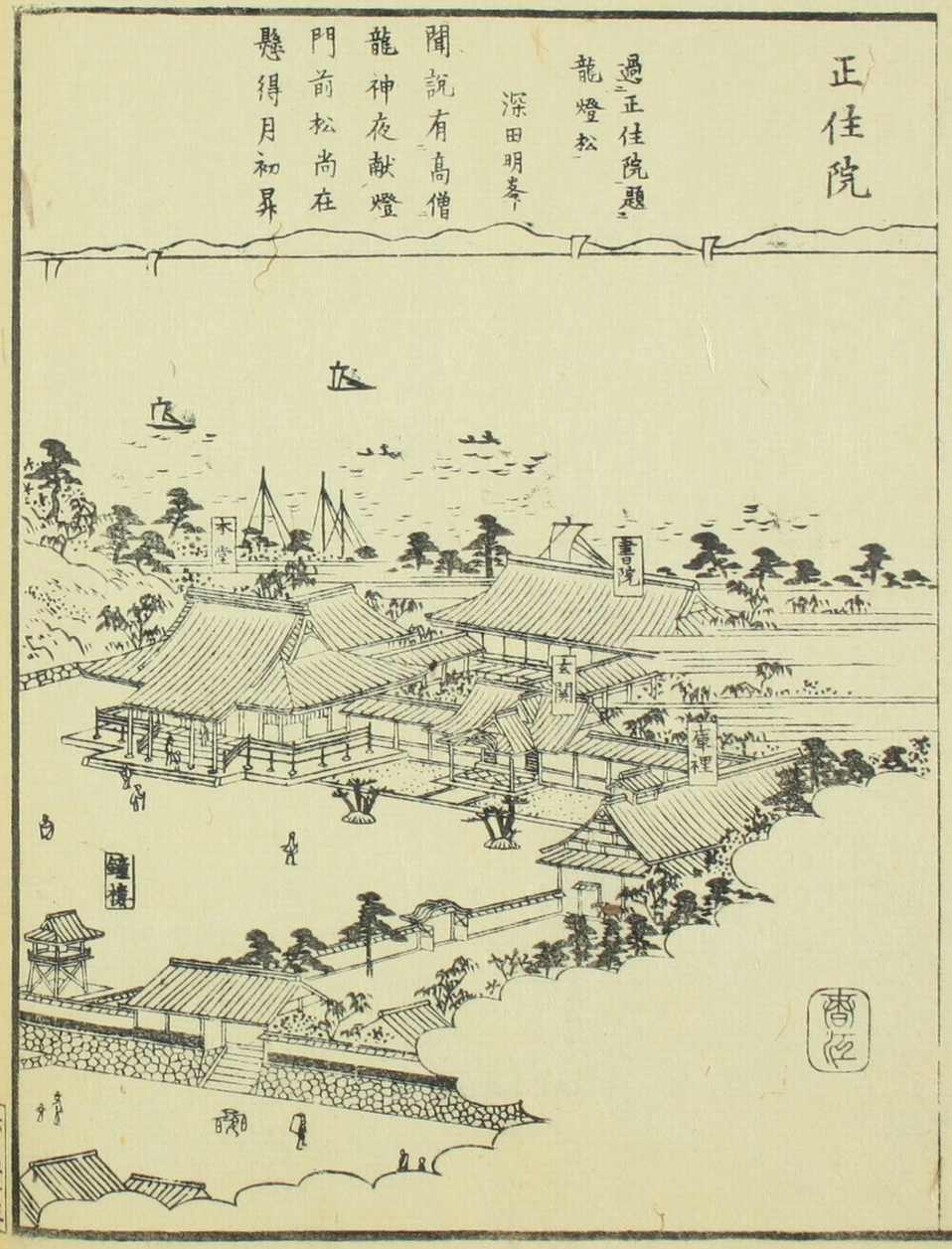
表三郎 常滑三郎と云ふ表三郎は忠重の幼名なり 手紙に常滑水野

竜松山正住院 北条村にあり浄土宗 成岩村常樂寺末 延徳年中空観業光上人の開

正住院

過正住院題
龍燈松
深田明孝

聞說有高僧
龍神夜献燈
門前松尚在
懸得月初昇



基うて則常楽寺うり寺と隠居退任あるゝ以上八道徳
うく沈神も是と考らいて甚頂夜あゝ門前の松小龍蛇と成せ
しとて故小今も寺松と竜燈松と号し龍松の山号も爰小起る
らゝ又天正十年　神君都うり浦小向の長威岩村常楽寺へ
威らるべきてまづ寺村へ帰着岸行ゝ寺小寺うり浦
案内ナシ○本尊　行基菩薩の座像　慈覚大師の作　霊寶　糸引名号　空蓮上人の書
て四十八幅名号の内之　一切經藏　文政年中の建立之　寺寺書院より海面と眺む風景
実小絶倫之
常石天神社　奥条村小ありて俗小　荒王の社と称す　本國帳小従三位常石天神とある是之
絶へ云昔社地千代ヶ峯　今の社の地　小あるゝ明應年中今此地小移り
言宮山と号ス又常清の小神祠三基あり中宮ハ日村大
善寺ハ法寺之西宮ハ小条村小あり言宮ハ則寺社之又清座
の旧地之修の年絶小に来歴伝由多けれども今是と畧之

八幡社　多賀村にあり社地三植山と称す保安四年癸卯之と建つむ山の東に
清泉あり栗井清水と称し正月十八日の神饌調進に之水と用ひ
田園と　今ハ
鬼ヶ崎　橋戸村にあり西南ハ海中へ張出たるバ眺を打開きて風景
又砂場に小松多くして松の緑り小蒼海の白波打よせる奇観
実に言語
小絶ゝ
祥光山龍雲寺　同村にあり隣所京美濃芥見清水寺末延宝四年竹腰山
城守春日井郡外原村の廃寺とうつして建立せり
本尊　釈迦の座像　寺宝　金屏風　竹腰家の祈願　竜の額　同家の考附うるゝ
庭の池に陳ゝと咲く仏人○竜雲寺殿大安三信　画沈晴　板おく
居士ハ位牌　ありゆゑに寺号とせり　
印月江　荷葉池　彩虹橋　一覧峯　神護松
金剛泉　遠帰帆　已上の八ヶ所を八景といふ　
美御天神社　宮山村小あり今天満宮と称す本國帳に
従三位三御天神といふ之うり
鍬山天神社　ア山村にあり本國帳に従三位
鍬山天神と行ふ之也ちり
鑄物司　久米村にあり代く鑄物を業とせり天福元年十月賜ハ所の宣旨と正
おす　近衛院御宇保三位礼政禰と射芸一付彼清ユ小命じて金燈
義と造らしめ庭の木に懸けく鶴の羽ヲ以て尽ることと好られバ
小就つて之を彼記詳小考して彼家に義す志んどもたりうるとも考ぶ
櫟屋天神社　北櫟屋村にあり　伊勢　奥田八剣　熱田　多度　八幡　天王　原之夫
と称る故に八所権現と称す本國帳に正四位櫟屋天神と行ふ

是ハ寛正三年壬午大業成ル　神室　大般若經一部　兼久年中ノ作ニ
一色岳郡ノ輔某重修セリ　て年久シクして朽蝕セ
と正和年中作製萬及び菱ヲ
景光ノ造と補修セリ
小倉海苔　小倉村ノ製ス是ハ法中ノ考ヘ昔ノ如ク曝シ乾ケ後モ黒色
と称ぜず　と減ぜず味も亦他邑ニ勝レて製スルコトノ能ハザル所ハ小倉
海苔ノ最上
の名品ナリ
小倉天神社　同村にあり　俗に三狐神と称す　本國帳ニ従三位小倉天神と行る是ナリ
但大地村ノ牟山神社と称スルハ大地ノ倉南村の本居神ナリ古ハ
牟山の神社と小倉天神
と称スルヲ定ムベシ
小倉山蓮臺寺　同村にあり　時宗法陽四条道場金蓮寺末　開山ハ光阿上人ニて
正和三年甲寅一色道秀の創建ナリ　紀巴ノ富士見道記ニ小倉
道場ニて　月ノ入ルヤ夕汐風れ始ル　とあるハ此寺ノ事ナリ　古ハ当所多くて
塔頭十七坊あり　三所法院　後ハ法院　法花　南部と称セリ　寺領とも考附セリ　秀吉ノ又是を没収
後ハ三坊と　又織田有ノ氏邦と称セリ　附もち所と考附セリ　秀吉ノ又是を没収
セリ　夫ヨリ寺院大ノ衰廃ス　てクニに一坊と存ス　慶長五年九鬼氏南郡を侵掠セ
附甚火ノ為メニて　亡孫什物
等まで悉く焼失セリ
壽山塚　南寺門前ノ法花宗の墓ニ法名齊年
寺山と称シ　ゆ名多くして凡そ法花氏ノ
ナリ　南郡に住セシ同氏の人丹波及び近江の甲賀郡にあり　と招きて度く所ノ　家昌セ
ナリ　是ニ於ノ近江ノ六万石邦ノ地と所セシ　ナリ　南郡ノ家
大地及び宮山ノ住也則齊年壽山ノ　その子上也介為貞　その子八郎　信方ハ信長ノ妹聚也て
天正の也治合戦に討死す　信方ハ妹ハ南ノ内ノ城を法花結中ノ為ノ縄の生ナリ　天文十三
年宗教ノ東国紀行に如多郡　大地に宮城　望日漢つるひて　掌清に西ノ条に　大地
庄今ハ是まで　なるひて　出て来　都ノ仰ナリ名称ナリ　の友社今の別也ハ　と云ナリ

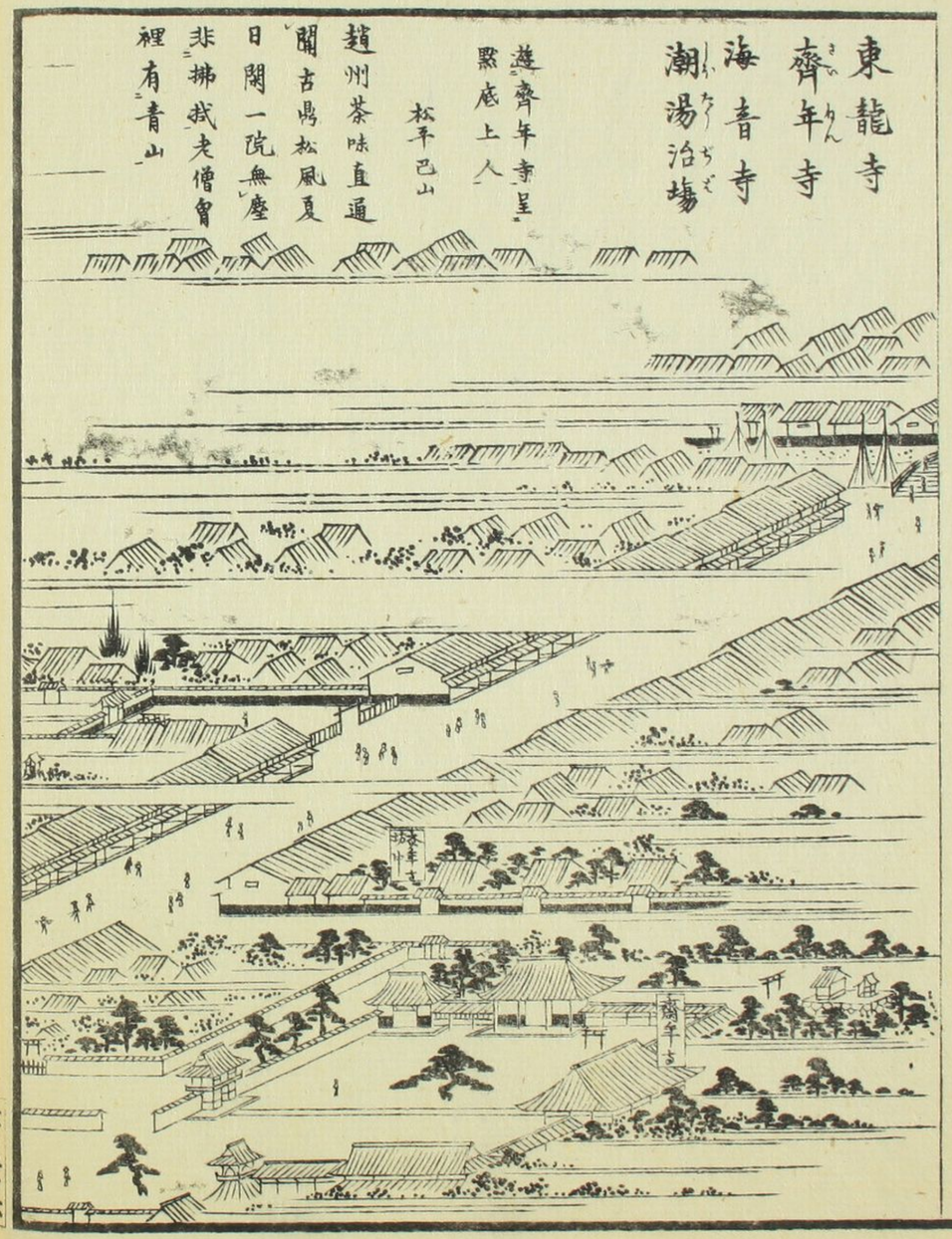
大地荒ハ氏法法
氏の人ナリ　本尊　阿弥陀の立像
左右観音勢至
福聚山海音寺　大地村にあり　浄土宗
京都　妙心寺末　本尊　教迦の座像　境内に藥師堂ナリ堂
前ノ来迎石と称して天然の立石ナリ　仏ノ某師ノ如来ノ石上に
立セ給ひて法中ナリ出現　如ノ　と云ク又南ナリ　磨毒ノ霊薬と
出ル是則某師ノ如来法夢想ノ名方ナリ　世に此ノ如来と称ス
渓某師と云ハ元ノ霊ノ著キ　峯て　数ヘ　委ク　板行
ノ縁起ノ如ク　て是と畧ス○　塔頭　廣修菴　鎮海菴
台雲院の三宇ナリ　書院の庭前ノ
薙鎌　鍛ノ　ノ巨大の絶品ナリ　ハ　ノ最ナリ　ノ南郡ハ
薙鎌　松ノ　櫻ノ　ノ　他所ノ縁ナリて甚ナリ
万松山齊年寺　同村にあり　曹洞宗　横須賀村長福寺末　法花結ノ　城を法花結ノ
天文元年ノ創建　華雲和尚と開山　法花ノ及び上野介ノ
負ノ　住
牌ナリ　本尊　歓迎の座像　寺宝　二祖立雪の図一幅　法花上野介天文元年の
の筆ニ　軍世の奇品　参附ノて雪舟七十三才
実に大幅の名画ナリ　塔頭　覚翁軒　少林齋　一陽軒
直芳軒の四坊ナリ
巖松山東龍寺来迎院　同村ノ浄土宗
三州崇福寺末　往昔ハ天台宗の道場ノて

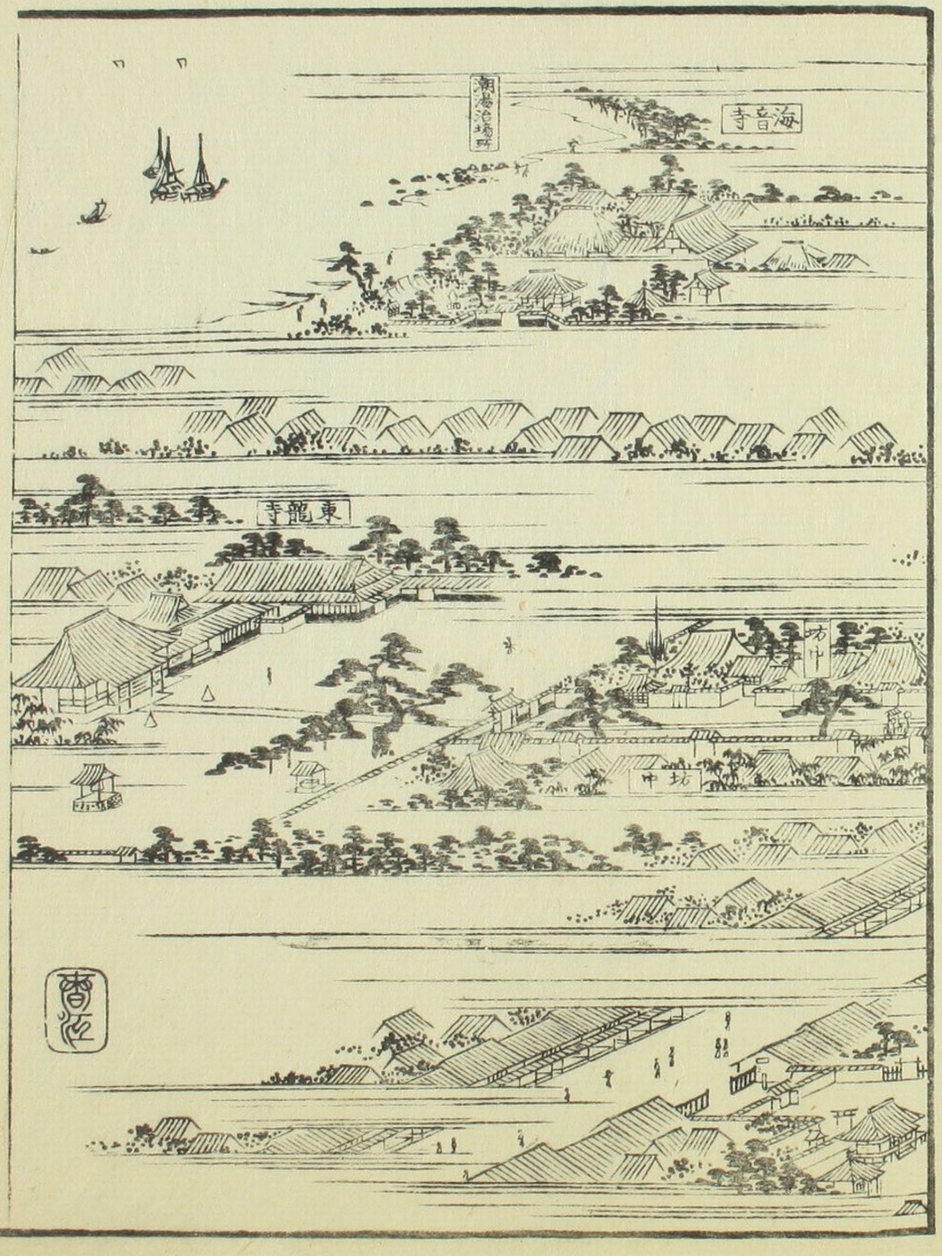
東龍寺
齊年寺
海音寺
潮湯治場

蓮齊年寺呈
默底上人

松平巴山

趙州茶味直通
聞古鳥松風夏
日閑一院無塵
非拂拭老僧曾
裡有青山





佛へりふ慈覺大師行脚れ日こゝに草菴を結びしが荒廢せ
を應永三十一甲辰年信東岩惠全再興し今れ宗に改む永禄年
中信長ゑ四十貫文の田地を寄附あるゝ又剃札をも賜ふ初光秀
ひゑを裁ち問　神祖泉州堺ふまゝ〳〵微行して勢州を
經歯村ふ到りゝ歯寺に三日まで停淹ゆあるせらるゝふ被信
長ゑれ制札を所覧あるべきれ所後收行ふ及ばせるゝ由愛ゑ
七年　壬寅六月　神祖駿府ふおりゝまゝ所歯寺れ伯俗洞山ふ
旧事を問ひ給ふ洞山所答に信ゑ寄附の田地ハ秀吉ゑ没收
せゝるゝゝゝ中上ゑ見ふよるゝ　神祖寺ふ若干の朱章を賜
ひゝ今も歯寺ゝ○本尊　阿弥陀佛ハ春日の作縁起ふ云ふ寄ゑ阿弥
陀仏ハ敵山摸川の楞嚴院ふまゝ〳〵
明應四年の秋の末或夜院ふ告て宣く我ハ地にありて台徒と利もるゝ年久しゝ
いゝ〳〵も程万機の中繁ふたゝず今ゝ所ふ送らべゝと院主答ゆあるく海示現とハいへ
ふ送らべゝと院主答ゆあるく海示現とハいへ
がゆゝゝ夏告連夜ふ及び剃へ一首の添ゆと示ゝあふ　山よりも来りむゝつる東海やゝの
とゝゝとゞ我ゞなゝとけん　と又の偈告ふ我と近ゝる者あるんゝゝゝ宗に送べゝしゝれ
む院ゝも今ハゞひゝくゝて歯ハるけれど未ゝ為きゝて歯ハるふ不思議ゝるふ歯寺

ゝ三世佛空上人も連夜の夏夢と蒙ゝ見もさせる方ゝそハみけるゝ都とさして上ゝる
ゞ江州ゝ場の宿ゝそゝゝ後も出合東西ゝ及ふ寄ゝゝと佛ゝに祈願を合せるゝゝゝゝな
ゝ是ハ二俗奇異の思ひとゝ〳〵終ふ歯寺に
来座ゝ〳〵寺ゝ夏夢著きゝ〳〵〳〵
宋微宗　山水二幅　牧溪　ひゝ
帝の手　の手
宝池院　實相院
德用軒　西の七宇ゝ

小林山光明寺　因村にゝ東本願寺末の院宗ゝ　ゝゝ因郡小林村にあゝて天台宗れ
道場聖德太子の御創　後醍醐帝の勅願所ゝゝ中世佛性
上人ゝ寄願元亨年親鸞聖人と協信て給ふ今れ宗に改む俗ハゝ
在原業平朝臣板ゝゝゝ歯那蓋尾里に来住せ〳〵ふゝゝ子孫代ゝ
ひゝ地ふ居ゝ佛性上人ハ則業平十三世の孫蓋尾ゑ平の子ゝゝゝ
甚ゝ歯ゝ住給淨念水地發ゝ行の女と娶ゝ故ふ水地下世ゝ十
町の寺産と寄附す又佐治上地ゝ歯ゝと住せ〳〵ゝゝも亦十町と增
ゝふ去ゝにゝ歯織田有系ゝ寄ゝ賞と減ゝ豊太閤又ゝ所地と悉く没
收せゝゝ慶ゝ五年の兵火ふ古記物及び什宝ふと殘亡ゝ寄ゝれゝ

寺宝　法然上人像　兆殿司作　耆婆像　林齊軒　福用軒　盛近院　甘露院

塔頭

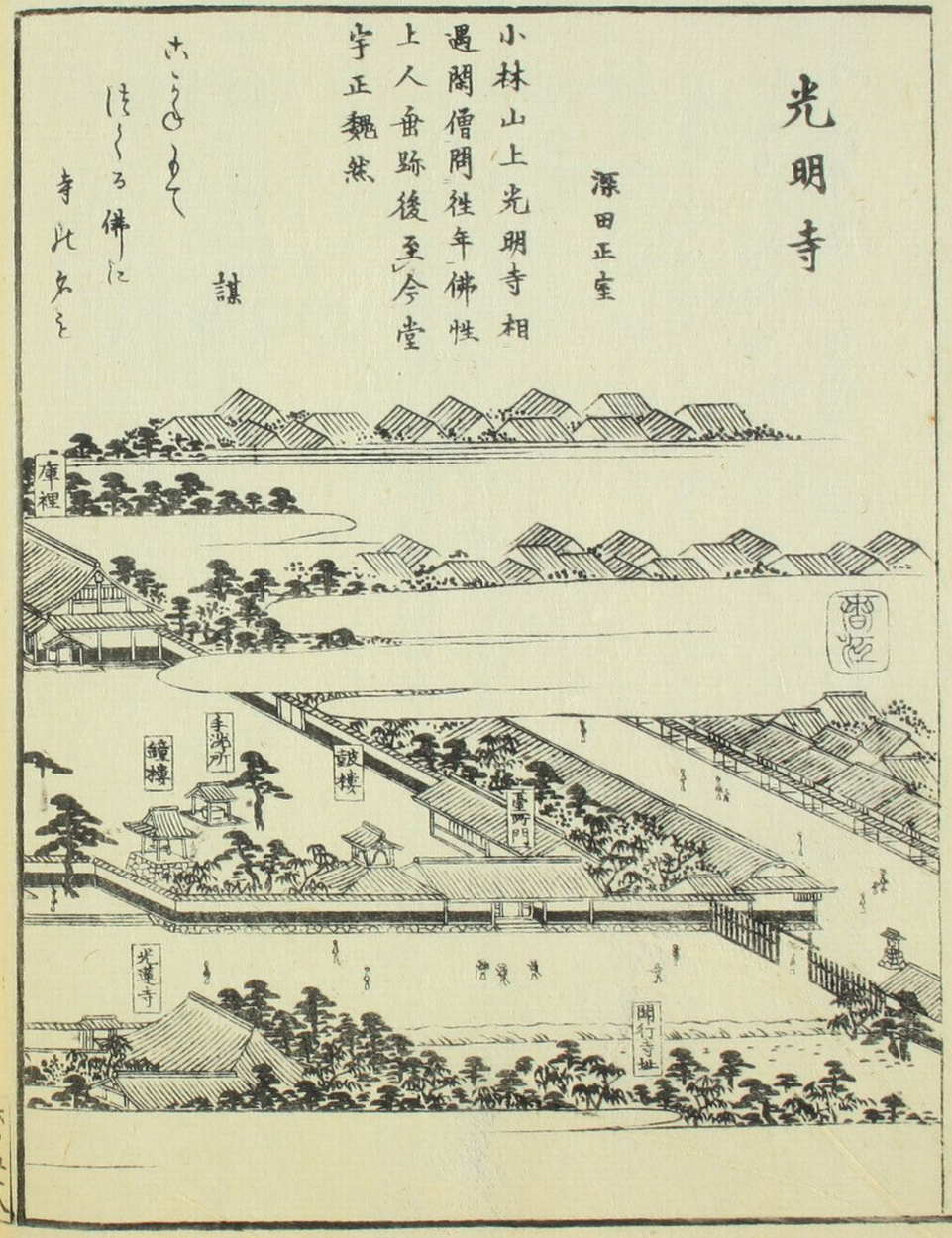
光明寺

深田正室

小林山上光明寺相
遇閣僧問往年佛性
上人垂跡後至今堂
宇正魏然

謡

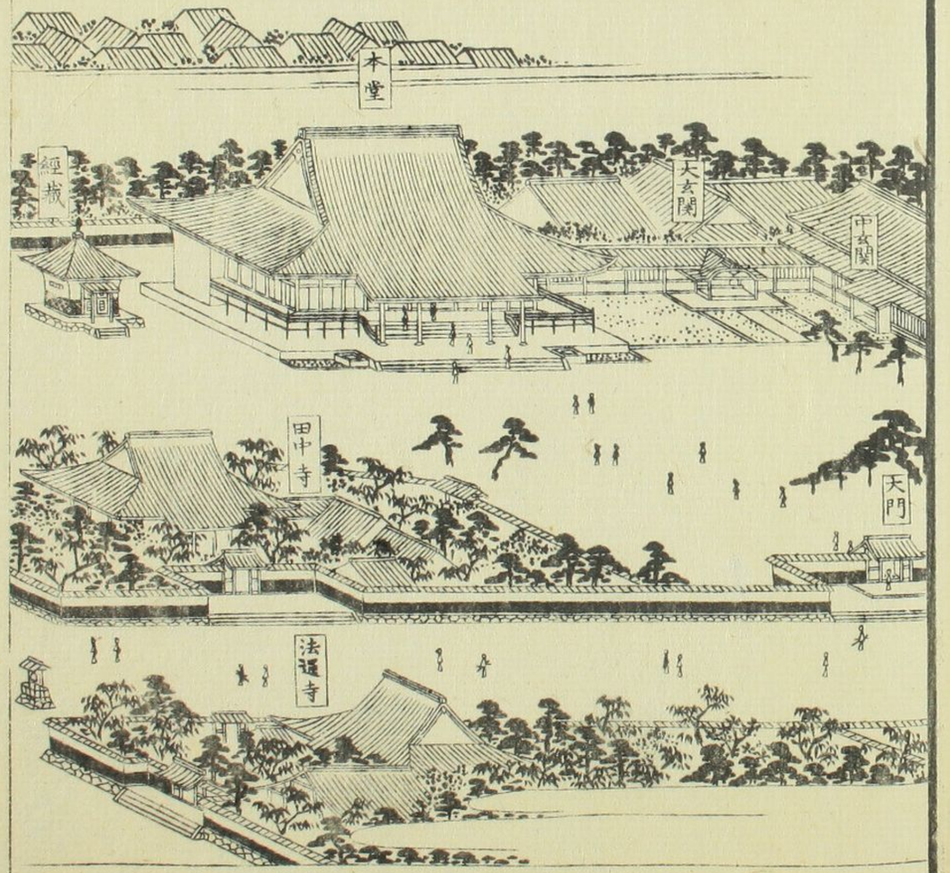
たふとさも
ほとゝぎす佛に
寺此名を



遠く代を
かゝやきに
けり

賣春園

縁起ゑ
杉ぬいを村
かきつゝ
さ〻を見れ
あるゝ
めて



甚後再営して堂宇ハ今と相倣然り○本尊 阿弥陀の主像 塔頭も

古坊ありしが今ハ光蓮寺 聞行寺

法通寺 田中寺の四宇と存す

内宮社 因村の海渡ふかり祭神 天照皇太神宮ハ也蒼松繁茂して

清陰万頃波浪千里風景なるよく又夏月納涼の勝地と云べし

牟山戸權現社 因村ニ云浪賀所の東にあり 本社 祭神新宮 伊弉冊尊

大明神 西社 那智事解男 稲荷保食神 大香山戸臣命 東社 祭神 速玉男 春日

近世勅許を受く正一位の神階を奉進ス

末社相鹿牟山の社と勧請せしなり 牟山の社号ハ伊勢の

牡蠣 因村の海中より捕る所他産ハ此を上ハ形状

風味共に甚美味して尚所名産の第一所なり

保命酒 因村少て製する所なりて甚美味他の名酒と伴ひ名を多く諸国に運搬せり

摂津ハ池田伊丹ハ等一延表式に 伊勢太神宮月次祭ハ此酒を

尾張より奉ることなれバ尚ハ遠酒の古きものと考べし

一口香 因村ニ云浪賀所 毒薬久を清の家ちゆうて是を製ス名ハ芥子香といひしが

或時 国君ハまりしハ村にそこ是を一口香と名ひしより是を名を迎に

云く三都をとりの諸国へ賜しハ遠国一製造日も亦ほとんどに至るより又湊屋と云

方ハも等しく是を製して所格風味ハ諸方を抜き高名となり家となるよりこを余

比屋習行て是を製すること又ハ二家の外ハこを製頗劣なり尚ハ一郡中の祭礼

うて街衢の善美高家ハ巨豪なる家なる家に宴饗ハ一の地なれバ名産も亦挙て是一

又世に大地鐘と云も尚ハに名工ハ少中絶に大地鐘と

云を恐らくハ尚所なりの名なるんなるに考て世俗考ハ作

温湯治 因村海音寺西北の方に尚ハ海渡ハ巌石多しあるて暑氣

の沈い甚近の諸人ハ海渡ハ於かく渡水ハ治しあるて又巌上に

憩ひ多く終日に幾度も出没ス五日七日ハ多ハ病

と治ス是と世に大地獄温湯治ハ暑月中ハ治湯ハ多集

夥しくて数多の旅亭家ごとに二百人三百人と常一他の温泉と

かくまで諸人の輻湊ハ少ハ又中人以上ハ旅宿ハ海潮を汲

ハ也ハ湯しく治ハ多ハ寄ハ多ハ効海中に身を浸せ

ハ少し劣ハ又温湯の旅宿ハ海中にて捕る所の鮮魚

と飽まで食して枯腸を潤し歴脂を補ハ又治療の一助ハ

一粒ハ渡ハ溢ハ東浦ハ尚ハ治ハ行れハ繁昌

推て知べし是則海音寺芳海の夢想ハ尚ハ

太閤記家集 海湯とあるて感ハ

三月九井ハ乾きてあり井ハ

汲来て清ハ清ハ湯一治解ハ

ハ多ハ清山ハ生ハ毛桃の

潮湯治

桂洲
濆水の
汐まくらえぬ
跳さる

汲古
夜ハ衣乃
うらかへしきつまや
汐湯治

[illegible]

千秋

日永崎 表村にあり西の方海中に出る松樹蒼翠なり奥田の浦より約多郡と
[illegible]
又川あり日永川と云ふ呂田の山中より出て海に注ぐ
日永潭 [illegible]江文明神の滝なり

日永神社 因村にあり祭神 日本武尊 倉稲魂命 社傳に 日本武尊とは日高神と
[illegible]

傳へいふ 日本武尊は地に来り給ひ所の名及び日の登暮と
問ひ給ひ小里民畏こまりて日をまくらもと對へまいらばば
尊はのたまはく名を日永と号ふべきと仰せられ
日永のいとはいとぶ ○ **楫社** 神明祠 風宮祠 八幡祠 八劔祠 天神祠 **例祭** 五月

白花山慈雲寺 呂田村にあり 法海宗 永祐妙心寺末 [illegible]二年 [illegible]国
師の創建なり 檀主一色修理大夫 [illegible]光 [illegible]二年 [illegible]月廿五日

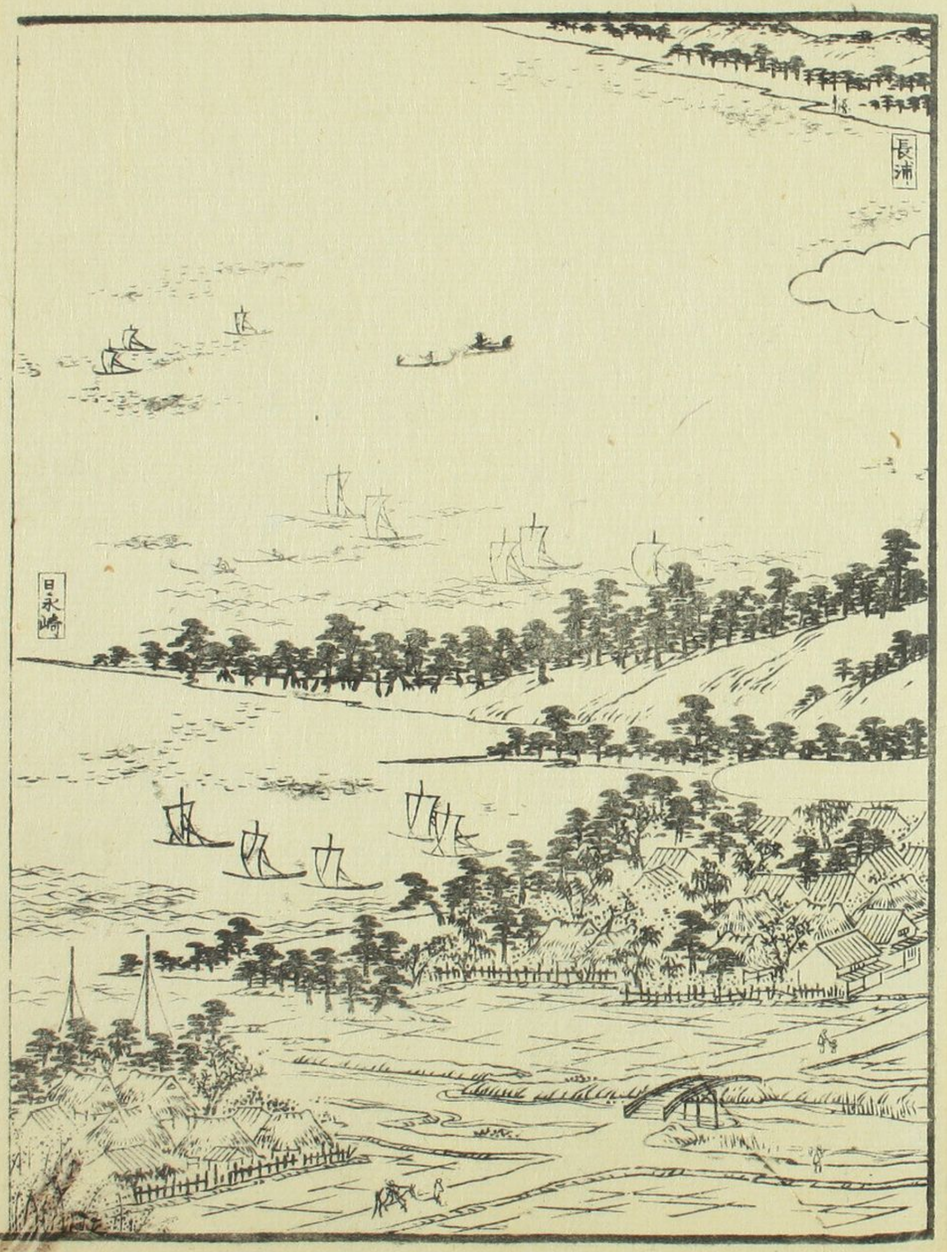
[illegible]

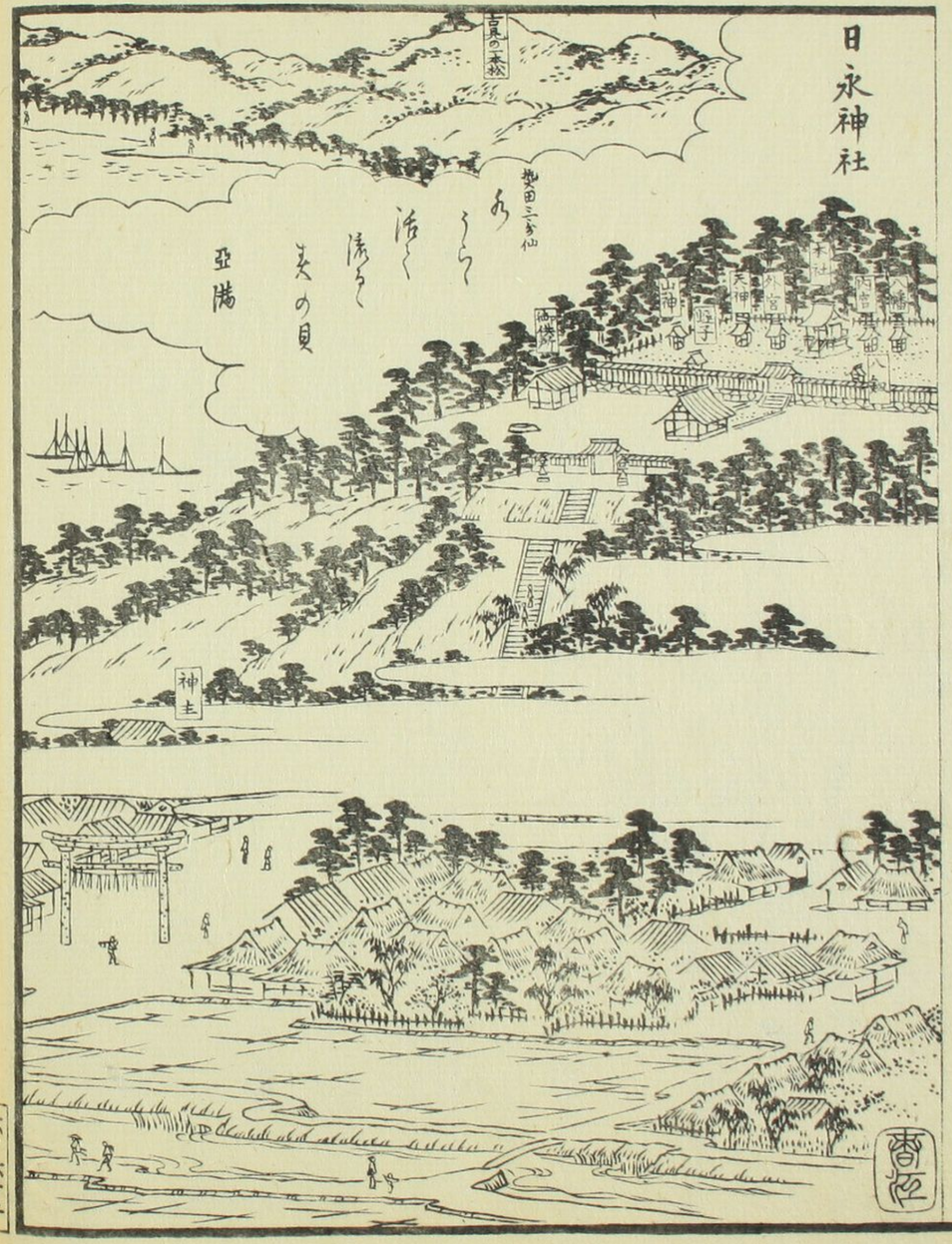
[illegible]ふ所にちなみとせり **本尊** 千手観音 **寺宝** 一色禅門の悔文ハ二条太閤の作にして徽書記の筆なり

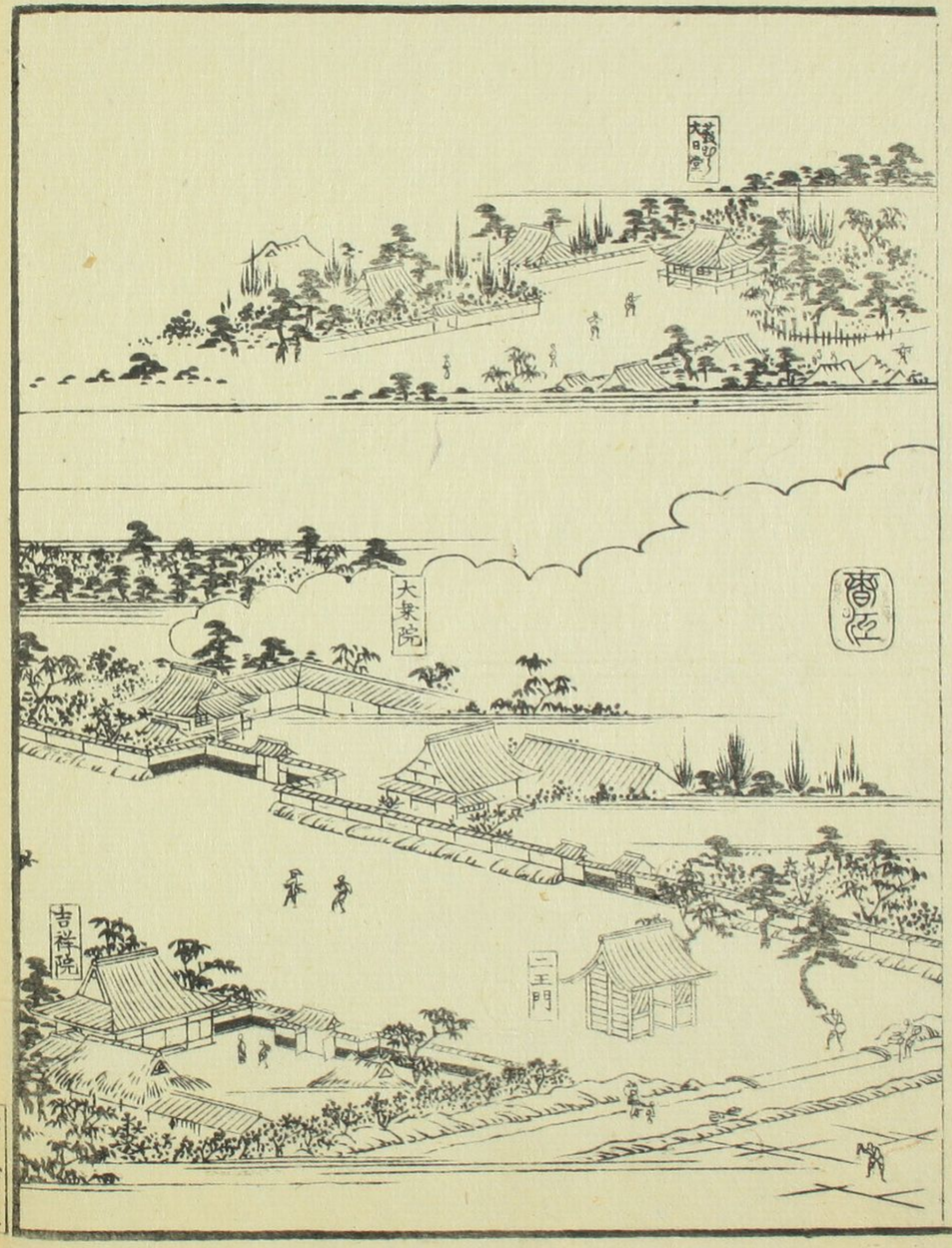
古見の一本松 古見村れ山上にあり古見の一本松と称して海路の標的とする

皇后井 平井村小字井植にあり底深く水常に湧き清澄なり
中に大なる鰐魚多し 此山上に 神功皇后の社あり

薬王山法海寺花王院 因村にあり天台宗 [illegible]田寺院末 **人皇三十九代 天智天**
皇 清水[illegible]時 勅詔ありて新羅の沙門道行春日
明神へ祈誓せしに童男と現じ自ら法海童子と
称し霊木を以て薬師の尊像を彫刻し給ひ紀道行に授与
し給て伝像共に光明を放ちうせ給ひぬ村人悩速に平愈せり
けるに光ありて天智七年戊辰当寺を創し給ひ彼薬師
の尊像を本尊とし別 勅願所とし
勅使と山号寺号れ 勅願所とし
勅勅 和尚と開山とす又山階清水呂[illegible]と改り
寺内の庄と号し数多れ田園を下し賜り夫より 天武持


長浦
日永崎


日永神社
吉良の一本松
梵田三多仙
あらら
清く
清く
美の貝
亞陽
神主
西座


大日堂
大集院
吉祥院
二王門

法海寺
大日堂
本堂
普賢
庚申
地蔵
十王
鐘楼
常丸院
白山

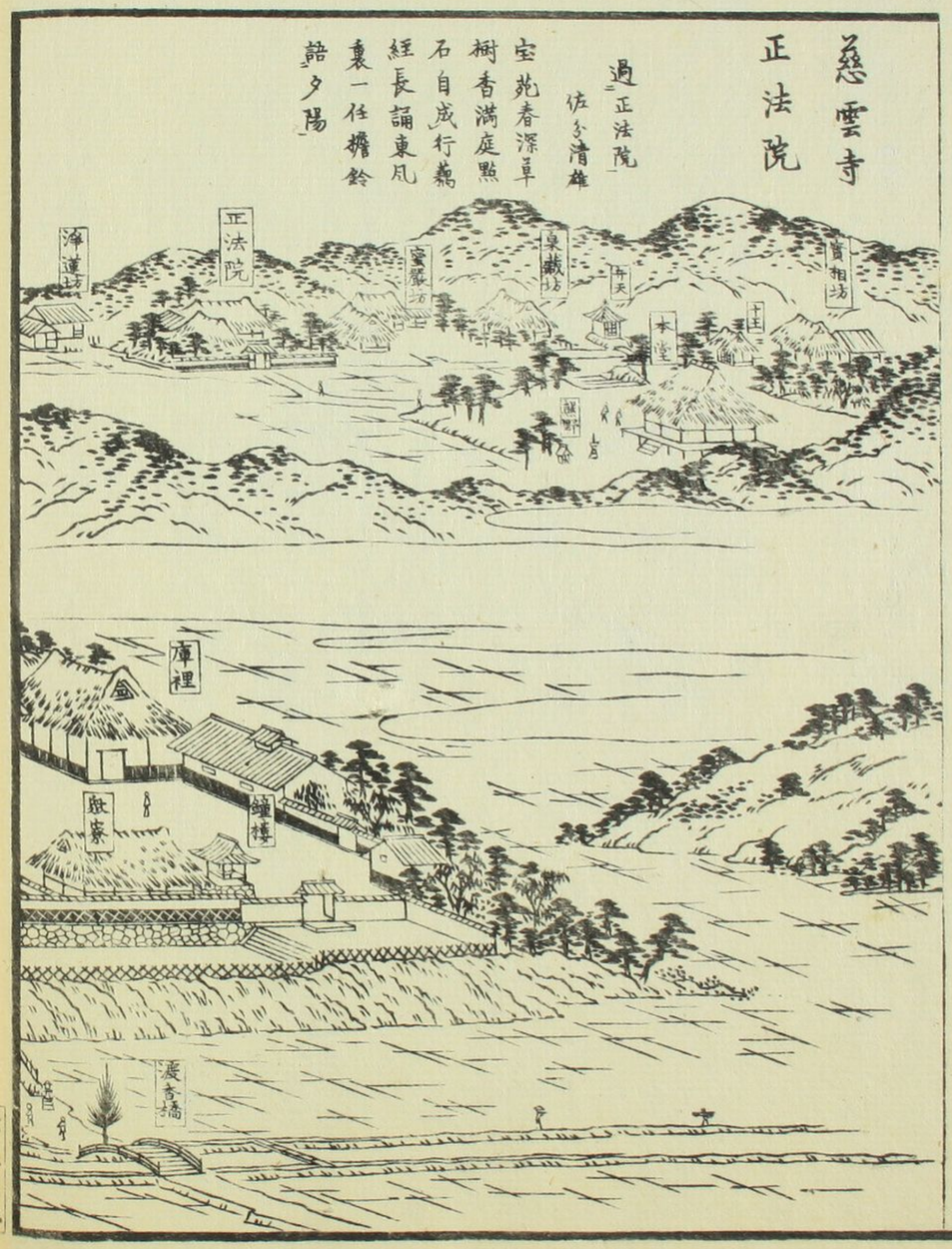
統
所
軌
万
歳
院
院
院

正
法
景
清
八
幡
社
安
樂

慈雲寺
正法院

過正法院　佐久清雄

宝苑春深草樹香滿庭點石自成行鵲經長誦東風裏一任攜鈴語夕陽



過慈雲寺　竺垣道

溪山長繞旧禪扉金磬秋清木葉飛雲意隻憐定僧冷床頭護作一重衣

万歳

禁中正月五日御新始の後清涼殿の南庭ゆゝ〜敷人千秀万歳楽ハ職人共ゝ合に画りると見えバ法師ゆゑ素袍烏帽子と者ゝり又室町将軍家の比ハ万歳ハ大夫扇を持ち三段とゝもちて高く掛まゐ絶ゆて比中の上ふるゝ〜と叫ゝ壺湾と打きゝ〜ゝ今ちに国ゝる南郡の万歳も畧ゝれ類ゝり

惣五郎塚

田村にあり昔花井惣五郎といふる者或人のゝちふ殺さゝ生首とゝに埋うづゝて俗に弓掘塚といふ癰と炙らふ人ふきれる矢を作りて墓前ふ掛ゝ祈ゝるにかゝるゝ〜ゝ

虫供養

南郡西浦十四ヶ村東浦十六ヶ村一年ふ一ヶ村ヅゝ出てゝ勤む法會の式ハ東西共同じ抑ゝ供養の淵源と尋ゝるに　醍醐天皇の御宇英比丸ゝ地と成ゝ玉ひゝふ波公没ゝ給ひて後村民共と哀ゝ供養せゝふちゝ〜まゝゝで又虫供養　定家卿の明月記にゝる　と称とゝるゝハ農民常ふ田畠の虫と教ゝ為ゝ諸虫の為ふ仏事ゝゝゝゝ氏長松と公達の近福ふゝ色〜ゝさて年毎ふ南ゝる村ハ正月七日供養の本ゝゝゝる三ゝる九阿弥陀佛　南ゝ傍郡の条と開扉ゝりて八月の彼岸　西浦ハ入りの日東浦ハ中日ゝ　ふ供養場と設け念佛和讃　紙又敷ふて板子とゝゝ　と執行ゝ和ゝ法会　良忍上人ゝ南郡の産ゝりて法融通念仏と称ゝ　ハ俗徒斗りゝて文に信ゝ毛ゝ風のゝ〜にのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

と刈ひず　演ゝて執行ゝゝゝと法供養といひ　山ゝて勤ゝゝと山供養といふ　中央ふ大ゝる假屋を構へて念佛の供養場ゝさぶゝ小ゝゝ假屋　三ヶ所ゝる道場と号ゝ　をおゝて

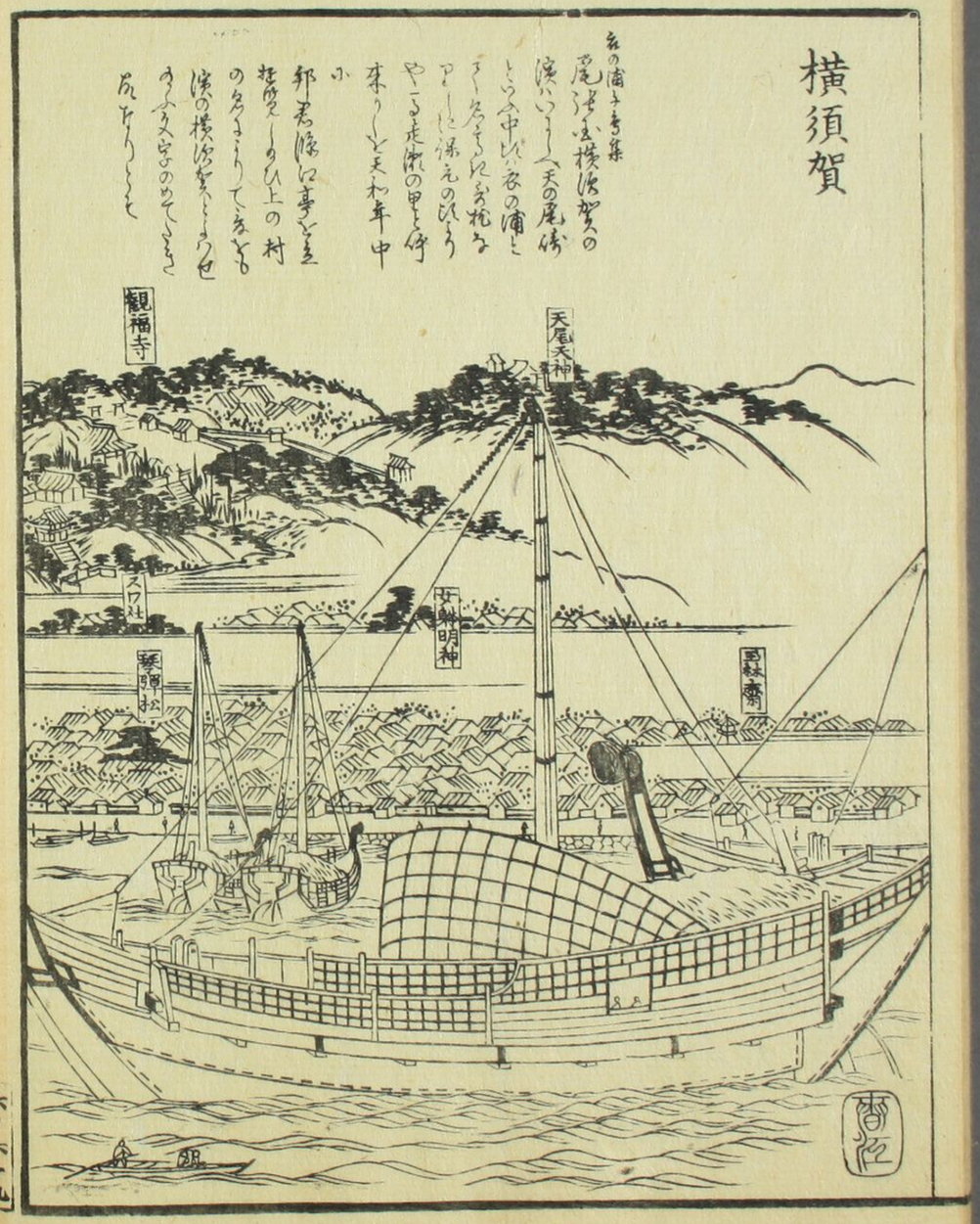
蟲供養
大塔婆
三十三所

大塔婆

本芋　甲州家れ士法樂麦政麿と云者ハ　侍南家に仕へしが大坂高槻の御太閤
芋に陪臣係あり　三芋仏と成て来りしが此義村に名ちうぎき別は新條
と考除し　借衣の諸元に入る　此本芋ハ
別名ちう又改名の塚も義村にあり　と安乎一大塔婆三四丈の丸木と
まして落文を記して　此塔婆を塔ふ村く　則出の塚と定めし　寒に
此借衣ハ尾南中一の壮観にして群系の駿くきる図と見てあるべし
横須賀　古名馬走瀬　とゝひて紹巴が富士見道記ふまるしとゝ人ふまでハ三宝の
けるしあり　商家も数町の名軒　　　

横須賀

名の浦よき集
尾張の国横須賀の
浦いとゝ天の尾張
とゝ中比の浦と
ゝ名ゝ比名枕な
ゝしに保元の頃う
やゝる走湖の里と伊
来ゝしと天和年中
小
郷君源の事と
なりしゝ比上の村
の名ゝ
浦の横須賀ゝ
ゝ久安のゝ
成ゝ



曉雲
ゆ
ゝ
の
ゝ
ち
ゝ

いなとぎく衣の浦の玉やこの涙ぬきとをしし　蘆菴

いなとぎの玉藻ぬれぬる衣の浦の秋の夕　攸之

玉ぬれぬ衣の浦の秋の夕　美濃

おりうらてひろふ乙女の袖貝ハ衣の浦ふかうらうら　日潤

中ふせんの深入とゝ物多貝ハ名のみ衣ぬれうらやうら　可童

秋ふ風と絶ぬや衣ぬれ浦ふかなてこそ波ふめとてかなし　晴山

ふるうけるうらうらをハむ中ふ多衣の浦のほろひろほと　烏川

風さむきやふと衣の浦うれハ手ゐるうけふやめてけりん　一木亭

墨ぬれ　東甫

琴弾松

因村の俗称大麦院の境内ふかう数百年外の老幹ハ枝葉大に繁茂し晴天ハ青苔の厚き探ハざるに磨と見ゆ風ふきハ琴の声と絶せねハ琴深の秋も自ら聞ゆ清流ふかう大樹ハ更にまゝ来世の古松ふるゝ

かなでぬいとゝりのくゝ庭の松風ふきぬ琴を少ゆる　垣田梅衛

長益塚

平沼村ふかう多益和尚ハ因村宝国寺ハ開山ふして天正文禄中の人之ゝ中ふ武州里民和尚の系孫ふ伝ふるとゝ中ふ碑ふに

及んで公海の目安と書しむこゝ海之雅郎せ一附彼目安を書きしハ紀多益ふして、和尚ふ美の寛罪ふ乞ふ者必滅の理に安心し絶に死刑に処しふ不思議ふ首を刎し附白氣れ蓮花彷彿と現ハ出しゝを知ふ伝を寛罪ふ数せしと海天吾弟の怒り和ひしふや而に塚を築き多ふ松を植て若宮松と号けふ近年枯て塚のみ存せり中ふも夫くふ塚を築き又ふ塚を築き又ふ塚と築きふ遠又因ふ宝国寺に彼像を安置せり十一月十七日命日ふれハ例年好日の輩ふ来火方ふ寺ふ集て氏塚ふ法商法教を行誓ふ法の男女半に絶ふゝ

細井平洲

因村の人ふう先生此ハ紀名ハ徒民字ハ世馨如来山人と号し甚三郎と称す郡の門ふ入ふ好法ふ学ふ若年より学に志ふ中西渓に一家と新し平洲先生と号ふ法候の礼聘頻ふうと以ふ学業大ふ成ふ好江戸ふ遊の末我ふ召ふ江ふ遂に承伝を賜ふ国校の智学に従ふ著書も亦頗多先生の弟ふ書ふ書錦の業を擅ふ中ふ又近き代大所叢書中の十駕言ふ養新録に先生の学と称せふれハ彼ふ及ふても名の学ふ高ふ中ふ中ふ中の碑と因村天外山ふ建しハ生の地ふ碑文ふ付ふ書ふこと

如来山

加家村ふ近ふ幸実形容ふる平洲先生の記に譲り左ふ文を載せて別ふ贅せず

如来山記

我尾無山以山名者培壊之雄耳那姑射之南十餘里為熱田驛臨海之東南邊遥六十餘里望之如鵬之蓬島知多郡也其如瘤而青間見赤崖者曰如来山距此十二里泛葦即至斥鹵野里曰懸村

細井平洲

多懸崖故名焉村南有経東向登之可三四十仞即山頂也古昔有神女来遊故名女来云後改為如来蓋浮屠氏之為也坦平方百餘歩有山神祠〻前呀望北有信越飛濃之山加賀白山亦見遠者五六百里近者二三百里而信與濃與尾接疆西則江勢〻之地東北濱海南流殆二百里而加賀之山層乎其背鳥騰吹多度積翠漆腰江之山也冠峯如冠錫杖如杖朝間特秀勢之山也皆仰而南西北一貯層樓百尺金魚鎮甍距此三十里瑩〻射月那姑射城也蒼松翡翠粉壁璧波日熱田別館其南檣之如林蓬之如屋賈舶呀泊曰茫沐碧波之中粉堞如帶晴開陰闔勢之桑名也城以南邑里草木明滅無時亦皆倚而北西南一眄共呀隔海而眺也而左去山足六里曰大里海中築堤方數百歩茂松森列先君亞相公所營以老之處今也則墟矣次曰横瑱次藪次尾根次平井次朝倉次古見次周田次森次大野自岡田至大野砂行最可最謂為日永浦次曰西口次多屋次林鍋次野間次諸崎諸崎郡之南隅是謂島尖典厩處次曰尾浦次海平治中長田忠致栽源以上諸村皆治海南走〻六十餘里一瞬而盡尾之島尖志之鳥羽浦南北相對其際十七八里通潮尾之滇是為海門〻以内古謡呀謂勢之海兮張之海兮者南北百三四十里東西五六十里周回如盤舟之為芥帆之為鳥乍大乍小来往如織東北維參遠連山如黛時見一點白於其間芙蓉峯也鳴乎此山也妙僅高三十仞而能望十二州者我尾無山於是為妙

矣右轉而下上懸村也北上得寺曰観音寺是余幼時讀書之處清浄幽寂塵垢不至春夏之月都人士多遊焉出門左行里餘曰平嶋村余所生也右轉而下右崖左谷曰胴段下段則海也沿汀北里餘得赤崖曰一之懸潮至不可行右自巖上而行崖前百餘歩如馬脊者曰高座石潮至則没典厩之死也其士金王跳馬而亡至此馬化成石此其石也

大悲山觀音寺

（同村にあり志ゑ宗府下大頂真福寺末）

奉尊（正観音）

数十仞の上にして絶頂小堂宇を構ふ堂上より下瞰すれば杉樹

古樹侍て榜（くゝる）を流雲飛鳥も常に御下にとぎ来て西南を眺

めバ数十百里の名山蒼海も一瞬（しゅん）に尽きて風景いと殊なり

尚山八岳来山と双峯あり杉ちらけとバ必来山の記及び西国に

ゆゝしく畧ぬ府下の文人藤春氏此小寺に題詩を残せるもの甚多し

寺詩の中に謝の竹古題詩を載せるもの甚多し

蒼波千萬里遠樹影浮沈勝地高吞海虚堂聳架岑

登懸崖大悲閣　堀口好古

将舒黄鶴翼徐抱白雲心俊怠縁方外總無煩惱侵

同　山村良祺

大悲楼閣画図中蒼蔔花飄彼岸凡隠〻華鯨滄海

加家
観音寺
費田三家仙
夫の河
人小
圓曉
妻名
一ど山
巻尾
鷹吹山
大南川
金瀬
飯田
書屋石

如来山
二見浦
鷲峯山
錫杖山
笙岳
熊山
鷲野
鷲峯

響人天拾筏仰圓通　奥田叔達

復詰観音寺後山懸崖聊望倩松間桑田碧海須臾　林梅山

再遊観音寺

事万頃新畠接水湾

題観音寺

世外禪境清幽夏日寒纖蘿繞院壁靈籟動波瀾

送客三山両當窓七里灘懸帆舟急去出没海雲端　高麗一臣

同

曳杖斜陽裏酔吟最是濃漢舟争入浦晩鳥盡帰松

日暮衆名海雲暗多度峯蟹莊火已上時聴梵宮鐘

天尾天神社

木田村にあり今八幡と称す本國帳に従二位天尾天神とある是之後人改て両尾と云ふ同村の氏福寺両尾山と号するも亦此縁あるにやらんぞ

両尾山観福寺

同村にあり天台宗也田密義院末大室二年壬寅行基井の開基と

もつたり宝徳二年庚午法印菱山寿鬼

本尊　十一面観音ハ行基の作りて又同作の不動明王毘沙門天ホと安置す

寺宝

国君侍妾附の什宝及び願ホ

業平塚

富田村ホにあり俗に車塚と称す

と或ハ岩尾氏者那ホ俗ヒ此地ホ俗ヒ

と称人湯うて業平朝臣の墓と云ふ里老云ふ業平朝臣此地ホ俗ヒ

又南ホ方に生駒社あり云ふ是

例業平朝臣の宿居神うつ今もいひ伝へり又同郡加本村に業平の烏帽子塚と

称するものあり是てこれ一見しべきなれ

ど老の口碑とうつるものし

良忍上人

同村秦道成といふ人の子うして母ハ熊田の神蔵の女うり

後三條院の延久四壬子年正月元日ホ誕生し十二歳の春叡山発

卒谷の恵心院の良賀法印ホ付て台教と学び羅髪して本

覚坊良忍と名のらるこれ東塔の西谷無動寺千日行とうし

隠遁の心行といふ廿三歳の秋素懐のごとく大原の奥ホかくも

て　のもとてもえそゆるそね世のうとい捨ひ本くとも大原のおく

ゝ俗ぜらる彼ホ地ホ来迎院と号創し結界法を修せんとせ

ばけるホ鬼魅共ホ法つよくいつやう上人の法力いでう尊ぶき我ホ

いつゝぎ退散ぶべしとありけるを上人祝ゝ法力をそ又或阿闍

文殊法を修せらるるに庭上の大石変じて獅子ゝうう吼しと

うん又一日鞍馬寺の毘沙門天天人と化し上人ホ来謁ゝ玉ひて

いつゝ師行ぞ融通念佛と唱へざるやとこゝにおいて上人遂に融

通念仏と俗俗男女ホ勧誘せらるる上ハ空也上人と返いトハ源空

上人ホ及びて六字称名弘通の功徳末世に参るも皆上人の法力

ううとゝ長兼元年二月朔日行年六十一にして入寂ゝ玉ふ

迫き安永二年十月十六日　勅しく聖意大師と謚号と給ひぬ

移委しく小元亨釈書及び大念佛寺両祖傳に出づ

荒太天神社　清水村にあり今此神を祭神　誉田天皇玉依姫命　息長足姫本国帳に従三位荒太天神と云る是なり　移社　神明祠　山神祠

船津社　名和村にあり舟王十二所と号る　慈永二十五年戊戌造営なり　神宝　達摩正宗刀一腰長二尺一寸　沼谷金玉丸

例祭　三月十日

名和干温飩　同村の名産なり凡南部の小麦粉精密にして最上の極品なれば大坂岩谷横須賀佐布里ホの諸邑多索麺と雲して名産なりとて年々千温飩と精製し諸国へ贈しく運送す雲基清淳際白にして形状絹糸共に絶えなり波東坡が詩に一盂湯餅銀絲乱と作るいにしへ等れたるひと形容せり白ゆく浪糸れ二字さまがら色ホ的面の影絡もいふべし

大高村　旧名史上の里氷上ともかけて今名なりて境川就元ゲ日弛に尾張国大鷲郷大梅院被申安堵事ヨシとえんなり又旧流ホ初メハ史ヨリいひしり著作に大ヨシと改りしと云

小火災ありけれバ永徳二年

大高菜　大ヨ村ゆて作る名なり　薑薑丈二三尺より四尺余に及ぶものなり古に葉菜根ふるやうなりて或ハ煮或ハ漬漢ホ主風味基美なりと奥羽の産なり

凡形状風味ともに他境品の産より大ホ長なり

大高菜

大ヨ村の菜の花

土朗

玉漢画

大高城址　大高村の東北の方にあり東西五十六間南北十八間今志水家江宅地の址なり　こゝ信長公築き給ふなり

公江家臣山口左馬助子細あつて公に叛き調略を以て砦を侵掠し剰へ今川家に附参せり志るふ桶狭間の役に織田勢鷲津丸根二ヶ所の砦を攻へ今川勢の糧道を遮り絶んとせしかば神君十九歳の御初陣に奇策を以て砦塀へ兵粮を運送し給ひしかは若く世の知るれば委しく記さず

鷲津砦址　日村の巳亥の方八町半ばかり東西十四間南北十五間四方かきはゞの砦五百二十坪の略図

丸根砦址　大高村より四町許北の方にあり鷲津の砦よりは東西五間許高くして其余は鷲津に同じ是も義元合戦の時尾張勢佐久間大学こゝに居ると　神君所近代あらせられし大学殿後に討死せしこゝなり

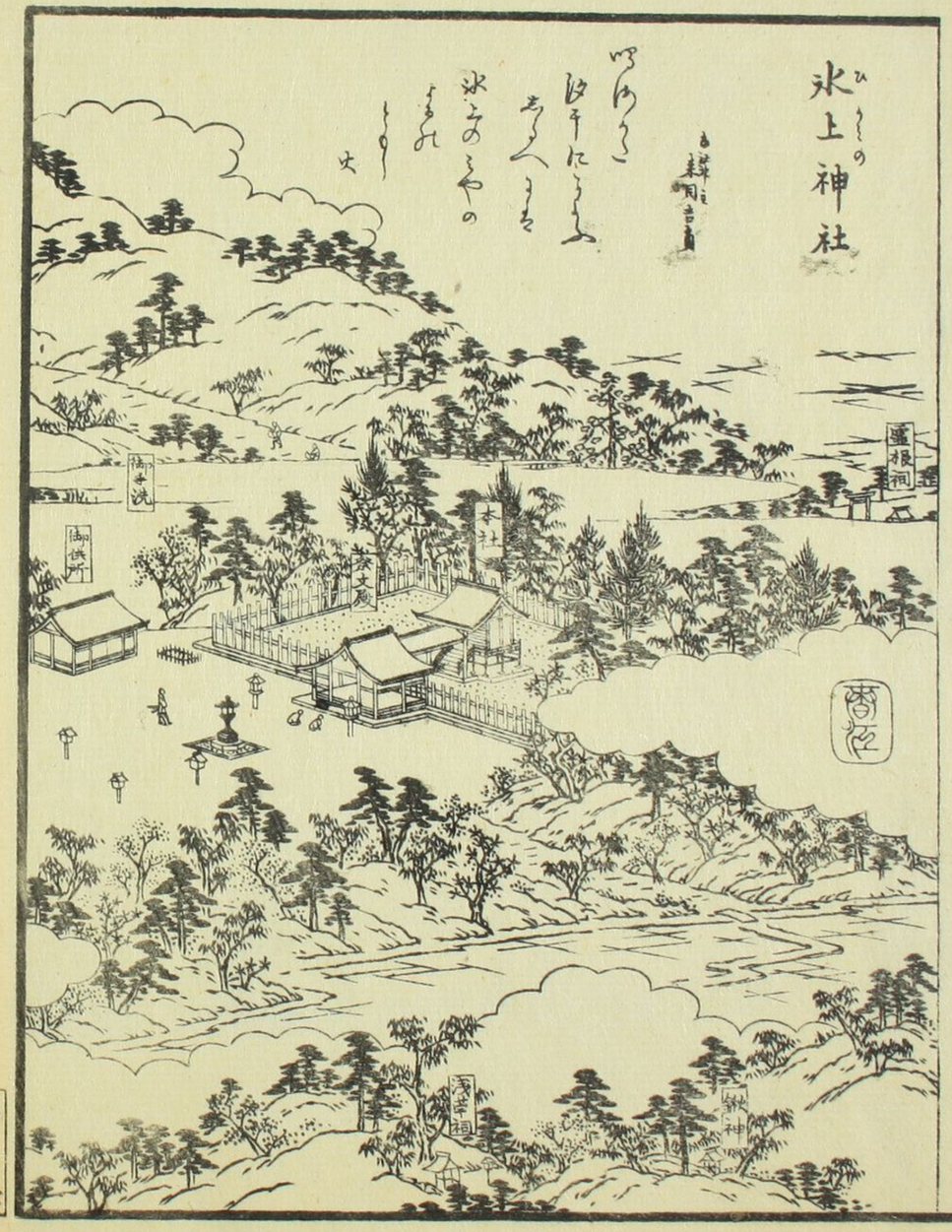
前関白正二位内大臣豊臣秀次公　将軍家譜に関白内大臣初為三好山城守養子故号三好孫七郎ト實三位法印ノ子秀吉養子ニシテ尾張人物志署智多郡大高村産父長尾武蔵守吉房ニシ　忠義士拔書　浦田上野介正信入道忠三郎為信僕におゐて寛文三年癸卯二月

撰之天和三癸亥年ノ刻刻本之　小関白秀吉公の姉男秀次公は武義を三位法印一時の男子なりと称して天正十九年に関白職を譲りなして尾張国に居へ置きたまふ人聚糸ふいなすに秀次公官職に怠り多く遊惰に流れ事ふ〻甚敷為政に風俗に遊ぶ人道謀ふ〻公沙汰もあらしかば秀吉公家臣増田長盛石田治部少輔三成等日来不和なりしかば幸に法を捧へ時〻咕嘸せしかば秀吉公是を顧みて謀叛人に擬り秀次公渓うき自神文を歎きなひかしと云者数止めて終に文禄四年七月十五日高野山青巌寺にて自害なさしめ

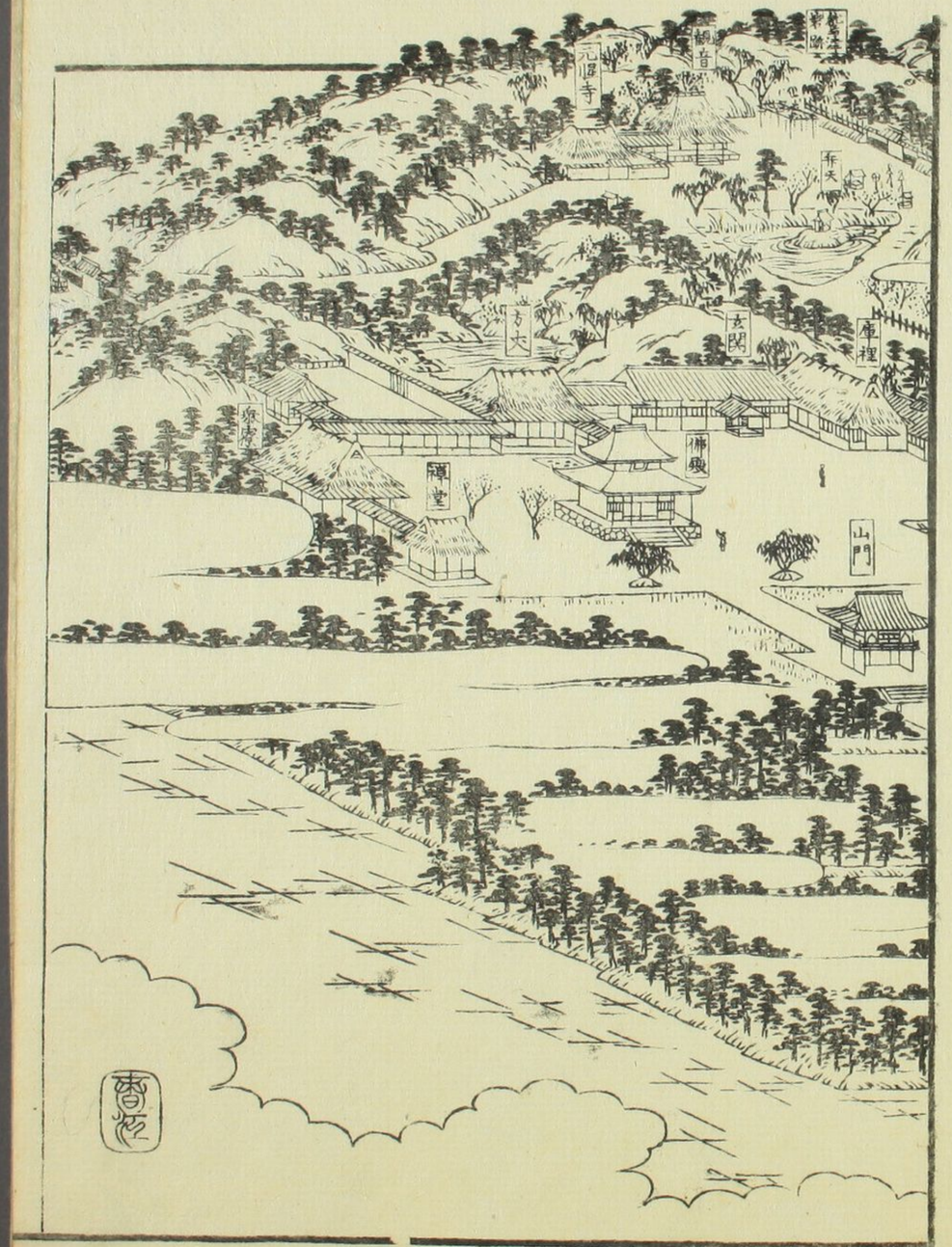
史上姉子神社

日村にあり今氷上神社に称代数田七社の一なり祭神　官美媛命延喜式に起ぬにハ皆稲種の神なりとあれど姉子神社本國帳に正二位氷上名神とあり是氷皇正統記及び熱田縁とて姉子に称せしに新なるべし　日本武尊東征の時此地にて此媛命と幸しあり陪別を小碓尊〻神剣を留めたまへに　其岩崩壊の跡此媛命社地とあり〻神剣を安置奉りしに他由ハ熱田縁に詳なれば略す

抑当社ハ　仲哀天皇の御守社と皆脱島に近し　是を元宮と称也　因帝の四年に又今の地に遷して当社の神号神幸の所なり　社地廣大にして千載の古木枝を連


氷上神社
蛭根祠
御手洗
御供所
本社
拝殿
天満宮
天神
大宮

白鳥祠
白鳥山
元宮
神明祠
白山祠
大氏祠
物部祠
拝殿
氷上の池


元興寺
観音
春天
方丈
玄関
庫裡
原虎
佛殿
禪堂
山門

長壽寺
圓月院
鐘楼
天神
高神

深碧を畳ねて日暮を漏さぬ青巒厚く地を封じたるさびさるさ由
さればぐ　神徳のほぐる推しもてい〳〵そ〳〵ぞ美ゆる○神宝
太刀一振　平治年中義朝者ゆ多那にあり由社
小袖栄を持ちし時の家紋なりとぞ　例祭　八月彼日花車渡りあと出
しまこうの氏多くあり
摂社　八剱社　原大夫社　紀大夫社　廣田社　稲荷社　山神社　天王社
白山社　白鳥社　已上九社　今八廃して社地のみ存せり　元宮　上古永上陸
庶の地とぞ　常世
社　宮貫暖命の岩魂なりしく　則墓地心故小陵と通称す　朝芋社　火を大老湯の是を高う大老湯
と二座を祀せあり且つ二神ともに　火明命と
尾張氏の祖なれば大社とも称す　濱社　浦古谷　両請社　左右二
とぞふら　社あり　姓社　天香語山命　祠宮　久米
氏
鷲頭山長寿寺　同村にあり浦海宗に州永源寺末とも者祐寺といひて云かちと
延宝四丙辰年志水甲斐守忠能の祖母者事院尊尼し
を法名によりて今のち号に改め美濃れ侯越侯とぶ中興
の開山〳〵也〳〵が元禄二巳己年　乗び今の家に後せり
御外作りて剱数の阿弥陀〳〵称をとと府下天王坊
安養寺の本尊なりしを為りてらふらせり　本尊　阿弥陀仏
興田太神宮の
観音堂　焼肉に　塔頭　元慶寺
周月院

尾張名所圖會巻之六終